從參加ヲ許シタルトキ又ハ異議ヲ述ヘサルトキハ本訴訟ノ判決ニ於テ從參加人ト相手方ナル原告若クハ被告トノ間ニ從參加ニ因リ生シタル費用ニ付テモ亦前數條ノ規定ニ從ヒテ裁判ヲ爲ス可シ

〔義解〕(八六) 本條第一項ハ從參加ヲ許スヤ否ヤニ付キ異議アルカ爲メ又ハ判事カ之ヲ許サヽル場合ニ於テ其費用ハ之ヲ如何スルカヲ定メタルモノナリ即チ從參加ヲ許サスト決定スルトキハ其中間訴訟ノ費用ニ付テハ其敗訴者タル從參加人ニ於テ負擔セサル可カラス第二項ハ從參加ヲ許シタルトキノ訴訟費用法ヲ定メタルモノナリ此ノ場合ニ於テハ本條ノ裁決ハ共ニ從參加ニヨリ生シタル費用ヲ裁判ス可キモノトス何故ニ從參加ヲ許サヽル場合ニ於テハ中間判決ヲ以テ之ヲ判決シ從參加ヲ許ス場合ニ於テハ本案ノ裁決ト共ニ之ヲ爲ス可キモノナルカト云フニ從參加ヲ許サヽルトキハ從參加人タラントスル者ハ是レヨリ脫退スルヲ以テナリ然シテ其脫退スルモノニ取リテハ終局裁判ナリトス然レトモ之ヲ許ス場合ニ於テハ脫退セサルニヨリ本案ト共ニ之ヲ言渡スモ敢テ差支ヘナキモノトス

第八十二條　費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

然レトモ本案ノ裁判ニ對シ許ス可キ上訴ヲ提出シ且追行スルトキニ限リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルコトヲ得

費用ノ點ニ限リタルトキト雖モ相手方ヨリ提出シタル上訴ニ附帶スル場合ニ於テハ不服ヲ申立ツルコトヲ得

〔義解〕(八七) 本條第一段ニ費用ノ點ニ限リタル裁判トハ費用ノ負擔

者ヲ定ムル點ニ付キ裁判アリタル場合ヲ云フナリ例ヘハ第百九十八條ニ依テ原告ヨリ訴ヲ取下ケタルトキハ第七十七條ニヨリ其取下ケタル者ノ負擔ニ歸スルトノ裁判ヲ爲シタルトキ又被告カ原告ノ請求ヲ認諾スルカ又ハ原告カ其請求權ヲ拋棄シテ本案ノ裁判ヲ爲サス完結シタルトキ其費用ノミニ付キ裁判ヲ受ケンヿノ申立ヲ爲シ遂ニ裁判ヲ受ケタルトキ等ヲ云フ此等ノ場合ニ於テハ本案ニ付キ爭論ナク裁判ナク只費用ノ點ノミニ付キテ裁判アリタルモノナルヲ以テ其裁判ニ向テハ不服ノ申立ヲ許サヽルナリ何故ニ法律ハ費用ノミニ付キテハ不服ノ申立ヲ許サヽルカト云フニ其理由蓋シ三アリ

第一　本案ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ唱ヘス單ニ費用ノ裁判ノミニ對シテ上訴ヲ許ストキハ上訴裁判所ニ於テハ費用ノ點ニ係ル裁判ノ當否ヲ判斷スルニ當リ勢ヒ本案ノ裁判ヲ調査セサル可ラサルニ至ル可ク何トナルニ本案ノ裁判ハ其原因ニシテ費用ノ裁判ハ其結果ナリ其結果ノ當否ヲ判斷セントセハ原因ヲ調査セサル可ラサルニ至ラン然ルトキハ上訴裁判所ニ於テハ其上訴セサル點ヲモ調査スルヿト爲リ訴訟人ノ豫想セサル點ニ亘ルノ恐レアルナリ

第二　訴訟費用ノ不當ヲ認メントセハ本案ノ當否ヲ調査セサル可ラサルヿ前既ニ述フルカ如シ今判事カ本案ヲ調査シテ其不當ヲ認知スルト雖モ本案ニ向テハ未タ曾テ上訴アラサルニヨリ之ヲ裁判スルノ權ナシ其上訴アリタル費用ノ點ニ付キテハ全權ヲ以テ裁判シ得ルニ依テ時トシテ本案ト相牴觸スルノ裁判ヲ下スヿアル可シ

第三　立法者ハ訴訟人カ本案ノ裁判ニ向テ不服ヲ唱ヘサルハ即チ正當ノ裁判ナルカ故ナリト推測セシナリ故ニ本案ニ服シテ費用ノミニ服セサル如キヿハ萬ナカル可ク又本案ノ裁判ヲ要セスシテ費用ノミ

ニ付キ裁判ヲ下シタル場合ノ如キハ事簡短ナルヲ以テ萬誤謬ニ出ツルカ如キヿナカル可シト確信セシモノナリ

費用ノ點ノミニ付キ不服ヲ申立ツルヿヲ許サヽルハ只ニ本案ヲ裁判セサルトキノミニ限ラス本案ノ裁判ヲ爲シ從テ費用ノ裁判ヲ爲シタルトキト雖モ不服ノ申立ヲ許サヽルモノトス然リト雖モ茲ニ例外トス可キハ第八十三條ナリ第八十三條ノ場合ニ於テハ即時抗告ヲ爲スヿヲ許セリ

第八十二條ノ二段タル然レトモ本案ノ裁判ニ對シ許ス可キ上訴ヲ提出シ且追行スルトキニ限リ費用ノ點ニ付キ不服ヲ申立ツルヲ得ト云ヘルハ法理上殆ント無用ノ語句タルヲ免レス何トナレニ本案ニ向テ上訴ヲ爲ストキハ其上訴裁判所ニ於テ其當否ヲ審案スルト共ニ費用ノ點ヲモ審案シ得ルヲ以テ本案ニ付テ上訴ヲ爲セハ當然費用ノ點ヲモ裁判スルコトヲ爲ルナリ或ハ曰ク本案ト費用トハ全ク別物ナルヲ以テ假令本案ニ向テ上訴ヲ爲スモ費用ニ付キテ不服ヲ申立テサルトキハ裁判官ハ訴ヘヲ受ケサル事項ヲ裁判スルヿヲ得ストノ原則ニヨリ費用ノ點ニ付キテ裁判スルヿヲ得サルナリ故ニ不服ヲ申立ツルニ於テハ併セテ之ヲ申立テサル可ラスト是レ未タ盡サヽルノ論ナリ抑費用ノ負擔ハ何ニ依テ生スルカ即チ本案ノ是非曲直ニ依テ之ヲ定ムルニアラスヤ然レハ則チ本案ハ主ナリ費用ハ從ナリ主タル本案ニ向テ上訴ヲ爲セハ併セテ費用ノ裁判ニ對シテモ上訴ヲ爲シタルモノト見做スハ至當ナリ尤モ本案ニ付キテハ法律上ニ於テ上訴ヲ許シタル場合ナルヿヲ要ス然レトモ法律ノ精神ハ第八十二條第一段ニ費用ノ點ニ限リタル裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルヿヲ得ストノ原則ヲ定メ其裏面ヲ示サンカ爲メニ殊ニ之ヲ記シタルモノナリ而シテ此ノ原則ノ例外ト

ス可キモノ左ノ如シ

第一　本案ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲シタルトキ　本案ノ裁判ニ對シテ上訴ヲ爲シタルトキハ費用ノ點ニ向テモ同シク不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ其本案ニ向テ上訴ヲ爲ストハ法律ニ於テ上訴ヲ許シタル場合ニ上訴ヲ爲シ且ツ追行スルトキタルヿヲ要ス之ヲ分析セハ左ノ三條件ト爲ル

第一　法律上ニ於テ訴ヲ許シタル場合ナルヿ

第二　現ニ上訴ヲ爲スヿ

第三　追行スルヿ

此ノ三條件ヲ具備スルニ於テハ費用ノ點ニ付キテ不服ヲ申立ツルヿヲ得ルナリ其レ法律ニ於テ上訴ヲ許シタル場合ニアラスンハ上訴ヲ爲スモ有効ト認ムルヿヲ得ス故ニ上訴ヲ許シタルトキ現ニ上訴ヲ提出スルヿヲ必要ト爲ス又追行スルトハ一旦不服ニテ上訴ヲ爲スモ口頭辯論ノ期日ニ至リ前審裁判ノ變更ヲ申立テサルカ又ハ上訴ヲ取下ケタル場合ニ於テハ即チ本案ヲ追行セスシテ費用ノ點ノミ殘ルヲ以テ不服ヲ申立ツルヲ許サヽルナリ之ヲ第八十二條第一段ノ例外ナリトス

第二　當事者ノ一方カ上訴ヲ爲シタルトキ之レニ附帶スルトキハ不服ノ申立ヲ許スナリ即チ一方ヨリ本案ニ向テ上訴ヲ爲ストキハ判事ハ其當否ヲ審査スルニヨリ被上訴人ハ之レニ附帶シテ費用ノ裁判ヲ攻擊スルモ別ニ不都合ヲ見サルナリ

第三　第八十三條ノ場合ニ於テ費用ヲ負擔セシメタルトキハ其ノ決定ニ對シテ抗告スルヿヲ許スナリ以上三個ヲ以テ不服ヲ申立ツルヿヲ得ストノ例外ナリトス

第八十三條　裁判所書記、法律上代理人、辯護士其他ノ代理人及ヒ執達吏ノ過失又ハ懈怠ニ因リ費用ノ生シタルトキハ受訴裁判所ハ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定ヲ爲スコトヲ得但其決定前關係人ニ口頭又ハ書面ニテ陳辯ヲ爲ス機會ヲ與フ可シ

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得其決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕《八八》本條ハ意義明瞭ニシテ別ニ云々ス可キモノナシ即チ彼ノ民法ノ大原則タル何人ト雖モ人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ之ヲ償フ可シト云ヘル法理ニ基キタルモノナリ然リト雖モ本條ニ對シ立法上ノ研究ヲ要ス可キモノアリ

第一　何故ニ法律ハ此等ノ者ニ對スル裁判費用ハ普通法ニ依テ裁判セサルヤ

第二　何故ニ判事ニ向テハ損害ヲ求ムルヿヲ許サヽルカ

請フ此ノ二問題ヲ論究セン

第一問題　裁判所書記、法律上代理人、辯護士、執達吏ニ對スル損害要償ノ訴ヘヲ以テ普通法ニ依ラサル所以ハ他ナシ此等ノ者ハ訴訟事件ニ關與シテ過失又ハ懈怠ヨリ訴訟人ニ損害ヲ掛ケタルモノナルヲ以テ其受訴裁判所ニ於テ之ヲ決定スルヲ便且迅ナリトス、受訴裁判所ハ其依テ起リタル事情ヲ知ルニ因リ決定上頗ル容易ナリトス然ルニ之ヲ普通法ニ從テ更ニ損害要償ノ訴ヘヲ起サヽル可ラサルモノトスルトキハ輕便ニ其局ヲ結フヿヲ得ス從テ利害得失相償ハサルニ至ルヿアル可シ是レ本案ヲ提起シタル裁判所ニ於テ之ヲ決定スルモノト規定セ

シ所以ナリ尤モ本條ニ依フンニハ左ノ三條件ヲ要ス

第一　書記代理人辯護士、執達吏ハ各其職務ノ範圍内ニ於テ事件ヲ取扱ヒタルコト

第二　過失又ハ懈怠ニ因リタルコト

第三　現實開ハレナキ費用ノ生シタルコト

此ノ三條件ノ具備スルトキハ本案ノ受訴裁判所ニ於テ當事者ノ申立ニ依リ又ハ判事ノ職權ヲ以テ費用ノ辨濟ヲ負擔セシムル決定ヲ爲スコトヲ得ルナリ然リ而シテ此ノ決定ハ固ヨリ眞ノ裁判ニアラサルヲ以テ決定ニ對シテ不服ナルトキハ抗告ノ手續ニ出ツルモノナリトス(第四百六十六條、第二百四十五條第三項、第五百五十九條參看)

第二問題　裁判所ノ最上機關タル判事檢事ヲ本條ニ入レサル事ニ付テハ立法上大ニ議論アリタルモノナリ佛國訴訟法ニ於テハ裁判官ニ對スル損害要償ノ訴ヘト云ヘル事項ヲ掲クアリ我カ訴訟法ニ於テハ之ヲ規定セサルニヨリ判事檢事ノ職務ヲ過失ヨリ生シタル損害ニ付テハ之ヲ訴フルコトヲ許サス假令之ヲ許ストスルモ普通手續ニ依ラサル可ラス今立法上判事ニ對スル損害要償ノ訴ヲ規ス可キモノナルヤ否ヤヲ見ンニ判事ニ對シテハ損害ノ訴ヘヲ許ス可ラストノ說アリ左ノ如シ

第一理由　若シ判事ヲシテ書記辯護士ト同樣ニ損害要償ノ責ヲ負ハシムルモノトスルトキハ此ノ職タル甚タ危險ナルモノナリ殊ニ檢事ノ如キハ一層危險ナルヲ以テ何人モ此ノ職ニ就クコトナカル可シ蓋シ法律學ハ諸學科中ノ至難ナルモノニシテ其規則ノ大躰ヲ知ルスラ容易ニ爲シ得可キモノニアラス去レハ如何ニ法律學者ト稱セラヽル人ニテモ其誤用ヲ免ルヽ能ハサル可シ其偶誤用アルカ爲メニ忽チ損

害要償ヲ求メラルヽニ至ルトキハ判事ハ常ニ其職ニ安ンスルヿ能ハサル可シ

第二理由　判事ニ損害ノ責ヲ負ハシムルモノトスルトキハ甚タ厭忌スヘキノ結果ヲ生スルニ至ラン何トナルニ敗訴者ハ必スヤ其裁判言渡ニ不服ヲ唱ヘ恣ニ當該判事ヲシテ法廷ヲ避ケシムルトキハ忽チ裁判所ノ威嚴ハ地ニ委シ人々裁判ヲ畏敬セサルニ至ラン果シテ此ノ如クナルニ至ルトキハ綱紀紊亂シテ訴訟ヲ治ムルヿ能ハサルニ至ル可シ蓋シ法律ノ尊嚴ナルト裁判所ノ貴重セラルヽトハ相關連シテ離ル可ラサルニヨリ法律其尊嚴ヲ失ヘハ判事モ亦公衆ノ貴重ヲ受クルヿ能ハス故ニ判事ニ對シテハ損害要償ノ訴ヘヲ許ス可ラサルナリ

第三理由　判事ヲシテ通常人ト同シク責任ヲ負ハシムルトキハ判事ハ躊躇シテ事件ヲ審判スルニ至ラン何トナルニ損害ヲ訴ヘラルヽニトニ心配シテ活潑ノ働キヲ爲サヽル可ケンハナリ然ルトキハ事件延滯シテ訴訟人ノ利益ト國家ノ利益トヲ害スルコト決シテ少キニアラサル可シ

第四理由　判事ハ何人ニ向テモ更ニ箝制セラルヽ所ナク獨立獨行ニアラスンハ神聖ナル司法權ヲ保ツヿ能ハス從テ公平無私ノ裁判ヲ下スヿ能ハサル可シ近來各國ニ於テ判事ヲ終身官ト爲スモ此ノ故ナリ

然ルニ若シ損害要償ノ責任ヲ負ハシムルトキハ決シテ此ノ公平ヲ保ツコト能ハサル可シ一方ニ終身官タルノ制度ヲ立テ一方ニ損害ノ責ヲ負ハシムルノ制ヲ設クルハ是レ其精神矛盾スルモノト言フ可シ故ニ眞ニ判事ヲシテ獨立ノ實ヲ擧ケシメントセハ無責任ノ制タルヲ以テ可ト爲スナリ

眞ニ以上ノ理由ノ如ク裁判官カ法律ノ適用ヲ誤ルト雖モ之レニ向テ

損害ヲ求ムルコトハ不正理ノ甚シキモノナリ判事ハ其訴ヘヲ受ケタル事件ニ付テハ全權ヲ以テ裁判シ得ルモノナルニヨリ假令事實ノ認定及ヒ法律ノ適用ヲ誤ルト雖モ只上訴審ニ於テ之ヲ破毀セラルヽニ止リ之レカ爲メニ訴訟人ニ對シ責ヲ負フ可キモノニアラス何トナルニ心證ヲ以テ裁判スルヿハ司法制度ヨリ委任セラレタル全權ナレハナリ然リト雖モ如何ナル場合ト雖モ判事ハ責任ヲ負フ可キモノニアラスト謂フハ不當ナリ其故ハ凡ソ法律ノ機關タルモノハ是非曲直ヲ探究スルカ爲メナルヲ以テ之レカ作用ヲ拒絶ス可キニアラス若シ法律ノ監守者タル判事ニシテ非常ノ專權ヲ有シ容易ニ法律ヲ左右シ得ルカ如キヿアランカ其危險言フ可ラス故ニ重過失ノ場合ニ於テハ損害ノ責任ヲ負ハシムルヲ至當ト信スルナリ佛國訴訟法ニ於テハ左ノ場合ニ於テ判事ニ對シ損害ノ求メヲ爲シ得ルモノトセリ

第一　判事審理中又ハ裁判言渡ノ時詐欺過失又ハ貪利ヲ爲シタル時

第二　法律ノ明文ヲ以テ判事ニ對スル損害要償ノ訴ヘヲ爲スヲ得可キ旨ヲ特許シタル時

第三　法律上損害要償ノ罰款ヲ以テ判事ニ責任アリト定メタル時

例ヘハ區裁判所ノ判事其懈怠ニ因リ訴訟ヲ消滅セシメタル時ノ如キ場合是ナリ

第四　判事裁判ヲ爲スヿヲ否拒シタル時　例ヘハ判事訴訟人ノ願ニ答フルヲ否ミタル時判事裁判ヲ爲ス可キ順序ノモノタル訴訟ノ裁判ヲ怠リタル時判事法律ノ不備、法律ノ不明、欠缺ヲ以テ口實トシ裁判ヲ爲スヿヲ肯セサル時ノ如キ是レナリ

以上ノ如キ場合ニ於テハ立法上判事ニ責任ヲ負ハシムルヲ至當ト爲

ス然レ𪜈我カ國ニ於テハ此ノ制ナキナリ尚ホ此等ノ制ヲ設クルヤ否ヤニ付テハ兎ニ角大議論アル可キヲ以テ他日之ヲ詳論ス可シ

第八十四條 辨濟ス可キ費用額ノ確定ハ申請ニ因リ訴訟ノ第一審ニ繫屬シタル裁判所ノ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

申請ハ第七十二條第二項又ハ上訴取下ノ場合ヲ除ク外執行シ得可キ裁判ニ依ルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

申請ニハ費用計算書相手方ニ付與ス可キ計算書ノ謄本及ヒ各箇費用額ノ疏明ニ必要ナル證書ヲ添附ス可シ

〔義解〕(八九) 敗訴者ヨリ勝訴者ニ對シテ辨濟ス可キ費用額ノ確定ハ申請ニ因リ訴訟ノ第一審ヲ爲シタル裁判所ニ之ヲ差出ス可キモノトス第一審裁判所ハ其申請ヲ受クルヤ決定ヲ以テ其額ヲ定メ更ニ裁判ヲ言渡ス可キモノニアラス然リ而シテ費用額確定ノ申請ヲ爲スニハ執行シ得可キ裁判ナルヿヲ要ス即チ第四百九十八條ニ規定シアルカ如ク判決ハ適法ナル故障ノ申立又ハ適法ナル上訴ノ提起ニ付キ定メタル期間ノ滿了前ニハ確定セサルヲ以テ執行ヲ爲シ得可キ裁判ニ必要ナルノ條件ハ適法ノ裁判ナルヿ判決ノ確定シタルヿヲ要スルナリ此ノ條件ヲ具備スルニ於テハ申請ヲ以テ費用額ノ確定ヲ爲スコトヲ得可シ此ノ故ニ左ノ場合等ニ於テハ申請ヲ爲スヿヲ得ス

第一 外國裁判所ノ判決ニ因レル場合 此ノトキハ本邦裁判所ニ於テ其適法ナルヲ言渡シタルトキニアラサレハ未タ執行ノ力ナキモノ

トス

第二　外國裁判所ノ判決ノ確定トタルヿヲ證明セサルトキ

第三　本邦ノ法律ニ依リ强ヒテ爲サシムルヿヲ得サル行爲ヲ執行セシメントスルトキ

第四　本邦ノ法律ニ從ヘハ外國裁判所カ管轄權ヲ有セサルトキ

第五　敗訴ノ債務者本邦人ニシテ應訴セサリシトキ

第六　國際條約ニ於テ相互ヲ保セサルトキ

此等ノ場合ニ於テハ執行ヲ爲スヿ能ハサルニ因リ從テ申請ヲ以テ費用額ノ確定ヲ請求スルヿヲ得ス尤モ執行シ得可キ裁判トハ單ニ强制執行ノミヲ言フニアラス假執行ノ宣言ヲ附シタル終局判決ヲモ包含スルモノトス又執行シ得可キ裁判ノ存セサルトト雖モ例外トシテ費用額ノ確定ヲ求ムルヿヲ得ル場合アリ即チ左ノ如シ

第一　原告カ訴訟ヲ取下クタルトキ

第二　原告カ請求權ヲ拋棄シタルトキ

第三　被告カ相手方ノ請求ヲ認諾シタルトキ

此等ノ場合ニ於テハ本案ニ付キ既ニ强制執行ヲ爲スノ必要ナキモノトス此ノ場合ヲ除クノ外執行シ得可キ裁判ニアラスンハ費用額ノ確定ヲ請求スルヿヲ得ス是レ本躰既ニ之レナクシテ獨リ費用ノミ殘ルノ理由ナキニ依ルナリ

費用額確定請求ノ申請ハ口頭ヲ以テモ書面ヲ以テモ之ヲ爲スヿヲ得ルナリ當事者カ之ヲ爲サントスルトキハ費用計算書其謄本等ヲ差出シ又一々疏明ニ必要ナル書類ヲ添付ス可シ然ラサレハ判事カ之ヲ決定スルヿヲ得サルナリ

第八十五條　費用額確定ノ裁判ハ口頭辯論ヲ經スシ

テ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ裁判所書記ニ費用計算上ノ檢査ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ計算書ヲ附與シテ裁判所ノ定ムル期間內ニ陳述ヲ爲ス可キ旨ヲ之ニ催告スルコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第八十六條　當事者ハ訴訟費用ノ全部又ハ一部ヲ割合ニ從ヒ分擔ス可キトキハ裁判所ハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ裁判所ノ定ムル期間內ニ其費用ノ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ催告ス可シ此期間ヲ徒過シタル後ハ費用額確定ノ決定ハ相手方ノ費用ヲ顧ミス之ヲ爲ス可シ但相手方ハ後ニ自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲ス妨ト爲ルコト無シ

〔義解〕《九〇》此ノ二條ニ付テハ別段ニ說明スルヲ要セサルヲ以テ一二ノ解ヲ爲サンニ口頭辯論ヲ爲スト爲サヽルトハ判事ノ意見ニ在リテ口頭辯論ヲ爲サヽルモ決定シ得可キハ之ヲ爲サスシテ決定スルコトヲ得ルナリ然レトモ其口頭辯論ヲ經スシテ決定スルキト雖モ相手方ニ書面ヲ附與シテ之ヲ審訊スルヿヲ得ルナリ若シ又檢査ヲ爲スニアラサレハ決定スルヲ得サルトキハ書記ニ命シテ檢査ヲ爲サシムルヿヲ得ルナリ是レ檢査ヲ爲スカ如キハ器械的ノ行爲ニ屬スルニ依ルナリ費用額ヲ確定セントスルトキ一方ノ申立ノミニテハ未タ決定ヲ爲スニ熟セサルヿアル可シ此ノ場合ニ於テハ相手方ニ計算書ヲ附與シ

テ裁判所ノ定ムル期間内ニ陳述ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ得ルナリ相手方カ其催告ヲ受ケテ之ニ應セサルトキハ固ヨリ其權利ヲ拋棄シタルモノト見做スニヨリ其決定ニ向テ抗告ヲ爲スヿヲ得スト雖モ催告ヲ受ケテ相當期限内ニ答辯書ヲ差出シタル場合ニ於テハ其決定ニ對シ即時抗告ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第八十六條モ第八十五條ト同一ノ規定タリ只其異ナル所ノモノハ前條ニ於テハ相手方ニ計算書ヲ附與スルヿヲ云ヒ第八十六條ニ於テハ割合ニ從テ分擔ス可キ場合ノヿヲ云フモノナリ即チ訴訟費用ヲ割合ニ從テ分擔ス可キトキハ費用額確定ノ決定ヲ爲ス前相手方ニ計算書ヲ差出ス可キ旨ヲ催告セサル可ラス然ラスンハ裁判所ハ之ヲ相當ニ定ムルヿヲ得ス然レトモ若シ其催告ヲ受ケタル相手方カ期限内ニ計算書ヲ差出サヽルトキハ其差出シタル者ノ計算書ニ依テ其部分ヲ決定ス可シ然ルトキハ其計算書ヲ差出サヽル相手方ハ最早ヤ費用請求ノ權利ヲ失フカト云フニ決シテ然ラス相手方ハ後日自己ノ費用ヲ以テ其費用額確定ノ申請ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第六節　保證

〔義解〕《九一》保證トハ當事者一方ノ訴訟行爲ニ因リ他ノ一方ニ生セシメタル損害ヲ償フ爲メニ立ツル所ノ擔保物ヲ云フ保證ハ重モニ原告ニ於テ立ツルモノナリ原告若シ無理ナル訴ヘヲ起シ被告ニ損害ヲ掛ケタルトキ其償却ノ擔保ニ供スルカ爲メナリトス本法ニ於テ訴訟上保證ヲ立テシムルノ場合許多アリト雖モ其重モナルモノヲ擧クレハ左ノ如シ

第一　外國人カ原告ト爲リテ本邦人ヲ訴フルトキ（第八十八條）

第二　當事者ノ合意ニ由テ保證ヲ立ツルトキ（第八十七條）

第三　委任欠缺ノ代理人ヲシテ事情ニ從ヒ費用及ヒ損害ノ保證ヲ立テシムルトキ(第七十條)

第四　原狀回復又ハ再審ヲ求ムル申立アルトキ保證ヲ立テシメテ一時執行ヲ停止ス(第五百條)

第五　假執行宣言ノ場合ニ於テ保證ヲ立テシムルトキ(第五百五條)

第六　執行文付與ニ關シ債務者カ異議ヲ申立テタルトキ保證ヲ立テシメテ強制執行ヲ一時停止スルヿヲ得(第五百二十二條)

第七　債權者カ自ラ競賣物ヲ買受クルノ申立ヲ爲シ充分ナル保證ヲ立テタルトキ(第六百五十七條)

第八　假差押ノ請求ヲ爲シタルトキハ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ保證ヲ立テシムルヿヲ得(第七百四十一條)

第九　假差押ニ付キ異議ノ申立アリタルトキハ保證ヲ立テシメテ之ヲ解クヿヲ得(第七百四十五條)

第十　特別ノ事情アルトキハ保證ヲ立テシメテ假處分ノ取消ヲ許スヿヲ得(第七百五十九條)

裁判上保證ヲ立テシムルノ場合ハ決シテ右ノ種類ニ限ル可キモノニアラス佛國訴訟法ニ於テハ訴訟上保證ヲ立テシムルノ場合至テ少シト雖モ我カ訴訟法ニ於テハ保證ヲ立テシメテ一時當事者ノ意ニ任スルノ場合數多之レアリ蓋シ獨逸訴訟法ノ主義ニ倣フタルモノナリ

第八十七條　訴訟上ノ保證ハ當事者カ別段ノ合意ヲ爲ス場合又ハ此法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合ヲ除ク外裁判所ノ意見ニ於テ擔保ニ十分ナリトスル現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲ爲ス

〔義解〕(九二) 本條ハ訴訟上ノ保證ニ關スル一般ノ規定ヲ定メタルモノナリ凡ヘテ訴訟上ニ必要ナル保證ヲ立テントスルトキハ當事者ノ合意ヲ以テモ之ヲ爲スコトヲ得可シ當事者ノ合意ヲ以テ爲ス場合ニ於テハ保證人ヲ以テ爲スヿヲ得可ク動產ヲ以テ保證物ニ供スルコトヲ得可ク又ハ金錢有價證券ヲ以テ保證物ト爲スヿヲ得可シ又此ノ法律ニ於テ保證ヲ定ムルコトヲ裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合ニ於テモ現金又ハ有價證券ノミナラス動產質又ハ保證人等ヲ以テ訴訟上ノ保證ト爲スヿヲ得ルナリ其裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合トハ例ヘハ假差押ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ假差押ノ理由ヲ疏明セサルトキト雖モ假差押ニ因リ債務者ニ生ス可キ損害ノ爲メ債權者カ裁判所ノ自由ナル意見ヲ以テ定ムルトキノ如キ假差押ニ對シ異議ノ申立アリタルトキ裁判所ハ終局裁決ヲ以テ假差押ノ全部若クハ一分ノ

認可變更又ハ取消ヲ言渡シ又自由ナル意見ヲ以テ定ムル保證ヲ立ツ可キトキノ如キ又第七百四十七條ノ場合ノ如キ是レナリ

以上二個ノ場合ニ於テハ現金又ハ有價證券ニアラサルモ保證物ニ供スルヲ得ルト雖モ當事者ノ合意モナク裁判所ノ自由ナル意見ニ任スル場合ニモアラサルトキハ本條ニ從テ必ス現金又ハ有價證券ヲ供託シテ之ヲ爲ス可キモノトス供託ハ凡ヘテ大藏省預金局ニ於テ保管スルモノニシテ此ノ供託ヲ爲セハ直チニ之ヲ以テ損害金ニ充ツルコトヲ得ルヤト云フニ未タ必スシモ然ラス供託ハ自由ノ保存ヲ脫シテ箱東ノ管理ト爲リ之ヲ差出シタル者ノ自由ニ任セサル迄ニシテ未タ其差出人ノ所有權ヲ脫シタルモノニアラス故ニ之ヲ以テ損害ニ充ツルヿヲ肯セサルトキハ矢張リ强制執行ノ方法ニ依リ之ヲ差押ヘサル可ラサルナリ

第八十八條　原告又ハ原告ノ從參加人タル外國人ハ被告ニ對シ其求ニ因リ訴訟費用ニ付キ保證ヲ立ツ可シ

左ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツル義務ヲ生セス

第一　國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキトキ

第二　反訴ノ場合

第三　證書訴訟及ヒ爲換訴訟ノ場合

第四　公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合

〔義解〕(九三)本條第一項ハ外國人原告ト爲リテ訴ヘヲ起ストキハ被告ハ之レニ向テ保證ヲ立ツ可シトノ求メヲ爲シ得ル旨ヲ定メタルモノナリ原告外國人ナルトキハ被告ハ本邦人ナルト外國人ナルトヲ問ハス共ニ此ノ利益ヲ受クルノ權アルモノトス何故ニ法律ハ外國人タル原告ニ保證ヲ立テシムルノ制ヲ設ケタルヤト云フニ被告ノ損害ノ保證ニ充テンカ爲メナリ若シ其レ外國人カ出訴シタル後其勝チヲ制スル能ハサル所以ヲ知リ訴訟ヲ拋棄シテ歸國スルカ又ハ敗訴ト爲リタル時直チニ歸國スルヿアランカ被告タル本邦人ハ訴訟入費ノ請求ヲ爲スヿ能ハサルニ至ル可シ何トナレハ外國裁判所ノ判決ヲ我カ國ニ於テ直チニ適法ノモノト認メサルト同シク我カ國ノ裁判言渡モ亦外國ニ於テ執行スルヿ能ハサル可シ然ルトキハ勝訴者タル被告カ裁判入費及ヒ損害ヲ請求セントスルトキハ遠ク外國ニ到リテ其國ノ裁判所ニ起訴セサル可ラサルノ煩アルナリ故ニ法律ハ此ノ危害ヲ避ケンカ爲メニ保證ノ方法ニ出テタルモノナリ保證ハ素ト法律上ヨリ當然立テシ

ム可キモノニアラス被告人ヨリ之ヲ求ムルニアラスンハ保證ヲ立テシムルヲ要セス此ノ保證ヲ立テサルトキハ被告ハ第二百六條第五ノ訴訟費用保證欠缺ノ抗辯ヲ以テ之ヲ排斥スルヿヲ得ルナリ、

外國人ヲシテ保證ヲ立テシムルノ要ハ訴訟費用ニ充テシメンカ爲メナリ故ニ費用ハ外國人ニ對シテ言渡スコトヲ得ルト雖モ損害賠償ノ事項ハ此ノ言渡中ニ包含スルモノニアラス例ヘハ外國人カ其賃借スル所ノ家屋ノ朽敗セシ際ニ於テ外國人ハ貸主カ修理ヲ爲サヽルノ故ヲ以テ賃借契約ノ解除ヲ訴ヘタリ被告タル本邦人ハ之レニ對シテ外國人カ賃借中家屋ヲ毀損シタリトノ故ヲ以テ反訴ヲ起シ其損害ヲ要ム此ノ場合ニ於テ原告ノ供託シタル保證物ヲ以テ其入費ノミナラス損害要償ニモ充ツルヿヲ得ルヤト云フニ決シテ然ラス其損害ハ未タ訴ヲ起サヽルノ前ニ於テ生シタルモノナルヲ以テ保證物ニ由リ之ヲ

辨濟セシムルヿヲ得ス何トナレハ訴訟ヨリ生シタル損害ニアラサルナリ去レハ外國人カ原告ト爲リテ訴ヘヲ起シタルカ爲メニ生シタル費用ナルトキハ訴訟入費ハ勿論尚ホ損害ヲモ保證物ニ依テ辨濟セシムルヲ得ルト雖モ訴訟前ニ生シタルモノニ向テハ新ニ訴ヘヲ起サヽル可ラサルナリ

本條ノ保證ヲ立ツ可キ義務アル外國人トハ如何ナル場合ノ原告ヲ指シタルモノナルヤ此ノ原告中ニハ主タル原告參加原告再審ヲ求ムル訴ノ原告執行判決ヲ求ムルノ原告上訴ノ原告ヲ包含ス茲ニ疑問トス可キハ控訴人上告人ヲ原告ト見做シテ保證ヲ立テシムルコトヲ得ルヤ否ヤノ事是レナリ或ハ控訴人上告人ハ第一審ノ原告ト爲リ保證ノ義務ナシト言フモノアレトモ區別ヲ爲サス一概ニ斯ク言フハ不當ナリ抑原告ノ外國人ヲシテ保證ヲ立テシムルノ要ハ訴訟費用ノ辨濟ニ充

テソカ爲メナリ例ヘハ外國人原告ト爲リ保證ヲ立テ訴ヘヲ起シタルニ敗訴シ上訴ヲ爲シタリ然ルニ其保證物ハ漸ク第一審ノ訴訟費用ニ充ツルニ足ルモ上訴ノ費用ヲ償フニ足ラストセヨ此ノ場合ニ於テ被告カ保證ヲ立ツルヿノ要求ヲ爲シ得サルモノトスルトキハ遂ニ訴訟費用ノ辨濟ヲ得ルコト能ハサル可シ故ニ控訴ニ至テ尙ホ保證物ノ補足ヲ請求スルコトヲ得サル可ラス然レトモ本邦人原告ト爲リ外國人ヲ被告ト爲シ第一審ニ於テ本邦人勝訴ヲ得タリ此ノ場合ニ於テ被告タル外國人カ其裁判言渡ヲ不當トシテ控訴上告スルモ保證ヲ立ツルニ及ハサルナリ何トナルニ此ノ場合ニ於テハ外國人ハ原告ニアラサルナリ本條ノ原告トハ請求者ト云ヘル意味ニシテ不服ヲ唱フル者ノ意ニアラサルナリ

又原告トハ本案ノ原告タルヿヲ要ス、例ヘハ訴訟ノ進行中ニ在テ證據保全ノ申立ヲ爲スカ如キ督促手續ニヨリ支拂命令ヲ發スル者ノ如キハ未タ訴訟ノ原告ニアラサルヲ以テ保證ヲ立ツルニ及ハサルナリ

以上外國人原告ト爲リタル場合ニ於テ保證ヲ立ツ可キ理由ヲ述ヘタリ是レヨリ其保證ヲ立ツルニ及ハサル場合ヲ述ヘン

第一　國際條約又ハ原告ノ屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツル義務ナキトキ　國際條約ニ於テ保證ヲ立ツルヿ及ハストノ事アルトキハ之ヲ立ツルノ義務ナキコト勿論ナリ尙ホ又此ノ條約ナシト雖モ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ保證ヲ立ツルノ義務ナキトキハ其權利平等ナルヲ以テ保證ヲ立ツルノ義務ナキナリ佛國訴訟法ニ於テハ佛國ニ於テ保證ニ充分ナル財產ヲ有スル外國人ハ同シク保證ヲ立テスシテ訴訟ヲ爲シ得ルノ許ヲ受クルト雖モ我カ訴訟法ニ於テハ之ヲ許サス必スヤ現金又ハ有價證券ヲ供託シテ保證ト爲

サヽル可ラサルナリ

第二　反訴ノ場合　反訴ハ相手方ヨリ訴ヲ起シタルニヨリ之ヲ提起スルモノナルヲ以テ保證ノ義務ナシ例ヘハ本邦人ヨリ外國人ヲ訴ヘタルニヨリ被告外國人ハ其訴ニ付キテ一ノ請求ヲ爲スカ如キヲ反訴ト云フ反訴ハ其一部分ニ付キテハ原告タルノ資格ヲ有スルモ全躰ニ向テハ被告ナリ被告ハ元來保證ヲ立ツルノ義務ナキモノトス

第三　證書訴訟及ヒ爲替訴訟ノ場合　證書訴訟トハ請求ヲ起ス理由タル總テノ必要ナル事實ヲ證書ニ依リ證スルヿヲ得可クシテ一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物若クハ有價證券ノ一定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル訴ヘヲ云フ爲換訴訟トハ商法ニ言フ所ノ爲換ヲ云フ此等ハ凡テ簡單ナル手續ニ依リ可成的迅速ニ其局ヲ結ハシメンカ爲メ特別ノ手續ヲ設ケタルモノナリ故ニ若シ保證ヲ立ツルノ義務ヲ負ハシムルキハ遂ニ特別規則ヲ設ケタル精神ニ背クニ至ルナリ

第四　公示催告ニ基キ起シタル訴ノ場合　公示催告トハ請求又ハ權利ノ屆出ヲ爲サシムル爲メニ爲スモノニシテ其屆出ヲ爲サヽルキハ失權ヲ生スル効力アルモノヲ云フ此等モ亦未タ訴訟ニアラス相手方ノ攻擊ヲ俟テ初メテ訴訟ト爲ルモノナレハ即チ保證ヲ立ツルノ義務ナシトセシナリ

第八十九條　裁判所ハ前條第一項ノ場合ニ於テハ保證ヲ立ツ可キ數額ヲ確定ス可シ

此數額ヲ確定スルニハ被告ノ訴ヲ受ケタルカ爲メ各審級ニ於テ支出ス可キ訴訟費用ノ額ヲ標準ト爲ス可シ

訴訟中ニ保證ノ不足ヲ生シ且追增保證ヲ立ツ可キ

コトヲ被告カ求ムルトキハ前項ト同一ノ手續ニ依ル可シ但爭ナキ請求ノ部分カ擔保ニ十分ナルトキハ此限ニアラス

〔義解〕(九四) 本條ハ保證物ノ標準ヲ定メタルモノナリ即チ原告外國人ニ對シテハ法律上當然保證ヲ立テシムル可キモノニアラス被告ノ求メニヨリ初メテ之ヲ立ツルモノナレハ被告ハ第一審ニ求メスシテ第二審ニ至リ之ヲ求ムルヿ其自由ナリ第一審ニ於テ求ムルトキモ亦第二審ニ於テ求ムルトキモ裁判所ニ於テハ職權ヲ以テ其數額ヲ定メサル可ラス或ハ被告人ノ頑迷ナル夥多ノ保證物ヲ望ムヿアル可ク或ハ原告外國人ノ執拗ナル些少ノ保證ヲ提出セシト言フヿアラン故ニ裁判所ハ職權ヲ以テ其額ヲ定ムルノ必要アルナリ

然リ而シテ其額ヲ定メンニハ裁判所ハ如何ナルモノヲ標準トシテ之ヲ定ムルカト云フニ第一審ヨリ上告審迄ニ於テ支出ス可キ訴訟費用ノ額ヲ標準ト爲ス可キモノナリ此ノ如ク各審級ニ於テ支出ス可キ訴訟費用ヲ合算シテ其額ヲ定ムト雖モ訴訟ノ進行中或ハ豫算外ノ支出ヲ爲スコトアラン例ヘハ實地檢證人呼出ノ請求ノ如キハ豫メ之ヲ知ルコトヲ得サル場合アリ此等證據保全ニ必要ナル處爲ノ爲メ豫算ニ不足ヲ生スルトキハ被告人ノ求メニヨリ前項ト同一ノ手續ニ依リ補足セシムル可キモノトス然レトモ其如何ナル場合ニ於テモ補足ノ請求ヲ爲シ得可キモノニアラス假令豫算額カ訴訟費用ヲ償フニ不足スルモ請求中爭ヘキ部分カ不足額ヲ償フニ十分ナルトキハ追增保證ノ請求ヲ許サヽルナリ例ヘハ貸金二萬圓ヲ外國人カ原告ト爲リテ訴ヘタルトキ被告ハ之レニ向テ其中一萬圓ハ曾テ物品ヲ賣リ其代價ト相殺シタリト抗辯スルトキハ其爭ヒナキ部分尙一萬圓アリテ被告ハ此ノ一

萬圓ヲ辨濟セサル可ラス此ノ場合ニ於テハ充分ノ保證アルヲ以テ追增ヲ爲サシムルノ必要ナキモノトス

第九十條　裁判所ハ保證ヲ立ツ可キ期限ヲ定ム可シ

此期間ノ經過後裁判アルマテニ保證ヲ立テサル場合ニ於テハ被告ノ申立ニ因リ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタリト宣言シ又原告カ上訴ヲ爲シタルトキハ其上訴ヲ取下ケタリト宣言ス可シ

〔義解〕《九五》本條ハ原告外國人ニ一ノ恩惠ヲ與ヘタルモノナリ其レ初メヨリ保證ヲ立テヽ以テ訴ヲ起シタルトキハ固ヨリ議論ナシト雖モ或ハ最初ヨリ保證ヲ立ツルコトヲ爲サスシテ訴ヲ提起シ被告ノ求メニ由リテ之ヲ立ツル場合ニ在テ直チニ之ヲ立ツルニアラスンハ訴ヲ却下スト云フハ外國人ニ對シテ頗ル苛酷ナリ故ニ本條ニ於テ裁判所ハ相當ノ期間ヲ定メ其期間中ニ保證ヲ立ツ可シト云ヒタルモノナリ然シテ裁判所カ其期限ヲ定ムルコトハ或ハ中間判決ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得可ク或ハ決定ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得可シ然レトモ中間判決ヲ以テ之ヲ爲サンニハ原告ニ於テ被告ノ求メヲ拒ミタル場合ナルヿヲ要ス若シ原告ニ於テ之ヲ拒マサルトキハ被告ノ申立ニヨリ決定ヲ以テ期限ヲ定ム可キモノトス

此ノ期限ハ不變期限ニアラサルカ故ニ當事者ノ合意ニ依リ之ヲ短縮又ハ伸張スルヿヲ得ルナリ若シ其期限內ニ原告カ保證ヲ立テサルトキハ如何スルヤト云フニ被告ノ申立ニヨリ判決ヲ以テ訴ヲ取下ケタルモノト宣言ス又上訴審ニ於テ保證ヲ立テス或ハ追增保證ヲ爲サヽルトキハ上訴ヲ取下ケタルモノト宣言スルモノトス素ト保證ハ被告ノ爲メニ之ヲ爲スモノナルヲ以テ被告カ其申立ヲ爲サス或ハ明カニ

之ヲ放棄シタルトキハ裁判所ハ強ヒテ之ヲ取下ケタルモノト宣言スルヿヲ得サルナリ

第七節　訴訟上ノ救助

〔義解〕〔九六〕訴訟上ノ救助トハ貧者ニ裁判費用免除ヲ得セシムル法ヲ云フ立法上此ノ法ヲ制定スルノ可否ニ付テハ多少ノ議論アルモノナリ或ハ之ヲ非トスルモノアリ曰ク元來民事上ノ訴訟ハ各人ノ私益ニ關スルモノナリ故ニ國家ニ於テ之ヲ救助スルノ責任アルコトナシ若シ夫レ貧窮ノ故ヲ以テ訴訟費用ノ免除ヲ與フルトキハ富者ニ酷ニシテ貧者ニ寛ナルモノト言フ可シ富者貧者ノ區別ハ人ノ勤勉ト能力トノ差ニ依テ生スルモノニシテ法律ハ之ヲ顧ミルニ及ハス法律ハ貧者ノ法律ニアラスシテ國家ノ法律ナルヲ以テ各人ヲ平等ニ保護セサル可ラス然ルニ貧者カ私益ノ爲メニ訴訟ヲ爲サントスルトキハ訴訟費用ノ免除ヲ與ヘ然ラサル者カ訴訟ヲ爲サントスルトキハ制限ヲ依テ訴訟費用ヲ徴收スルト云フハ不公平ノ甚タシキモノナリ又立法者ノ本分ヨリ言フモ人民ノ私益ニ立入リテ法ヲ制定スルカ如キハ甚タシキ誤謬ノ處置ト言ハサル可ラスト此ノ說アルカ爲ニ貧者ト雖モ訴訟ヲ救助ヲ與ヘサルハ國アリ然レトモ議論ニ偏シテ實際ノ必要ヲ忘ルカ如キハ國家ノ計ニアラサルナリ今其レ法律ハ一切人民ノ私益ニ干渉ス可ラスト爲シ以テ貧者モ同シク訴訟上ノ救助ヲ受クルヿヲ得スヤ(セ)貧者ハ勝ヲ富者ニ壓倒セラレ權利アルニ之ヲ伸張スルコトヲ得ス議論ニ飲泣シテ止ムニ至ラヲ得ス誤謬ナキヿヲ之ヲ防禦スルコトヲ得ス遂ニ飲泣シテ止ムニ至ラヲ得ス誤謬ナキヿヲ之ヲ防禦スルモノニアラサルナリ然リト雖モ此ノ如キハ權利ヲ平等ニ保護スルモノニアラサルナリ然リト雖モ貧者ノ訴訟ヲシテ妄リニ之ヲ免除セシムルヲ許サス眞ニ權利アリテ之ヲ主張スル場合及ヒ防禦ノ輕忽ナラサルトキニ限ルナリ然リ而シ

ヲ貧者ニ訴訟費用ノ免除ヲ與フルハ相手方ノ日當迄モ之ヲ免除スト云フニアラス其詳ナルヿハ各條ニ至リテ之ヲ述ヘン

第九十一條　何人ヲ問ハス自己及ヒ其家屬ノ必要ナル生活ヲ害スルニ非サレハ訴訟費用ヲ出タスコト能ハサル者ハ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得但其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルトキニ限ル

〔義解〕(九七)　本條ハ訴訟上ノ救助ヲ與フル爲メノ制限ヲ設ケタルモノナリ其制限ニ必要ナルノ條件ハ左ノ如シ

第一　自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニアラサレハ訴訟費用ヲ出ス能ハサルヿ

第二　其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラサルヿ

此ノ二條件ヲ具備スルニアラサレハ救助ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス本條ニ言フ所ノ人トハ有形人ヲ指シタルモノニシテ無形人ヲ包含セス即チ自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ云々トアルヲ見テ之ヲ知ル可シ第一條件タル自己及ヒ家族ノ必要ナル生活トハ如何ナル程度ヲ云ヒタルモノナルカ法律ハ其程度ヲ示サスト雖モ必要ナル生活トハ身分相應ノ生活ヲ云フニアラスシテ人ノ生活ニ必要ナルコトヲ云フ立法者ノ精神茲ニ在ルヲ以テ其自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニアラサレハ訴訟費用ヲ出スヿ能ハサルヤ否ヤハ判事ノ判定ニ任スルモノトス第二條件ニ言フ所ノ其目的トスル所權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラストハ無益ノ濫訴ニアラサルヲ云フ若シ此ノ制限ヲ設ケサルトキハ貧人ニシテ訴訟ヲ好ム者ハ債權者ノ請求ヲ一時免レントシテ無益ナル訴訟ヲ爲スヿアル可シ然ルトキハ却テ社會ヲ害スルニヨリ

此ノ制限ヲ設ケタルモノナリ

權利ノ伸張トハ貧者カ原告ノ地位ニ立ツトキニシテ防禦ノ輕忽ナラストハ被告ノ地位ニ立ツトキナリ其レ此ノ如ク原告ト爲リ被告ト爲リテ訴訟ヲ爲サントスルトキハ判事ハ如何ナル𠀋ヲ取調ヘテ其費用免除ヲ定ムルヤト云フニ眞ニ原告ト爲リテ請求ヲ爲スノ權利ヲ有スルヤ否ヤ又被告ト爲リテ訴訟ヲ爲スモ勝訴ト爲ル可キヤ否ヤハ審理ノ後ニアラスンハ之ヲ知ルコト能ハサルヲ以テ之ヲ豫メ判斷セヨト言フニアラス只判事ハ免稅ヲ爲スニ當テ貧人ノ訴ヘヲ起シタルハ濫訴ニアラサルヤ否ヤ被告ト爲リテ防禦ヲ爲スハ輕忽ノ所爲ニアラサルヤ否ヤ等ヲ審案シ且ツ勝訴ノ形狀アルヤ否ヤヲ見ルヲ以テ足レリトス其果シテ勝訴ト爲ル可キヤ否ヤハ判決ノ後ニアラスンハ之ヲ知ルヿヲ得サルナリ

第九十二條　外國人ハ國際條約又ハ其屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ求ムルコトヲ得ルトキニ限リ之ヲ求ムルコトヲ得

〔義解〕(九八)　本條ハ第八十八條第二項ニ記スル所ト同一ナル趣意ニ依テ彼我ノ權衡ヲ保チタルモノナリ外國人ニシテ前條ノ條件ヲ具備スルトキハ同シク費用ノ免除ヲ請求スルコトヲ得ルナリ然レトモ外國人カ之ヲ求ムルニ於テハ尙ホ一ノ制限ヲ要スルヲ以テ都合其條件三個ト爲ルナリ即チ左ノ如シ

第一　自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニアラサレハ訴訟費用ヲ出ス能ハサルヿ

第二　其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ミ

アル樣ニ見ユルヿ

第三　國際條約又ハ其屬スル國ノ法律ニ依リ本邦人カ同一ノ場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ求ムルヲ得ルトキ

以上ノ三條件ヲ具備スルトキハ外國人モ亦我カ法廷ニ向テ救助ヲ求ムルヿヲ得ルナリ

第九十三條　訴訟上救助ノ申請ハ訴訟ノ關係ヲ表明シ且證據方法ヲ開示シテ其救助ヲ求ムル審級ノ裁判所ニ之ヲ提出ス可シ其申請ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

原告若クハ被告ハ申請ノ提出ト共ニ管轄市町村長ヨリ發シタル證書ヲ出タスコトヲ要ス其證書ニハ原告若クハ被告ノ身分職業財產幷ニ家族ノ實況及ヒ其納ム可キ直稅ノ額ヲ開示シテ訴訟費用支拂ノ無資力ヲ證ス可シ

〔義解〕《九九》本條ハ救助ヲ求ムル場合ノ手續ヲ示シタルモノナリ訴訟上救助ノ申請ニハ左ノ條件ヲ要ス

第一　訴訟ノ關係ヲ表明スルヿ

第二　證據方法ヲ開示スルヿ

第三　市町村長ノ證書ヲ添ユルヿ

請フ之ヲ說明セソニ訴訟ノ關係ヲ表明スルトハ訴訟ノ原因及ヒ權利義務ノ組成ヲ表明スルヲ云フ例ヘハ貸金催促ノ訴ヲ爲サントセハ貸金ノ年月日等ヲ記載シテ之ヲ表明シ物品引渡ノ請求ナレハ曾テ附託シタルコトヲ表明スルカ如キヲ云フ證據方法ヲ開示スルトハ訴訟ノ關係ヲ證明スル爲メニ提出スル方法ヲ云フ訴訟ノ事實ヲ表明スルモ

此ノ事實ヲ證明スルノ手段ヲ示スニアラスンハ果シテ勝訴ノ形狀之レアルヤ否ヤ又權利伸張等ニ輕忽ノ所爲ナキヤ否ヤヲ知ルヿ能ハサルナリ是レ第二條件ヲ必要ト爲ス所以ナリ斯ク二條件ヲ具備スルモ尙ホ未タ果シテ貧人ナルヤ否ヤヲ知ルコトヲ得ス故ニ身分職業財產ノ有無等ノ實況ヲ記載シタル市町村長ノ證書アルヿヲ必要トス

斯ク三條件ノ具備シタルニ於テハ第一審ニ在ルト第二審ニ在ルト又上告審ニ在ルトヲ問ハス申請ヲ以テ救助ノ請求ヲ爲スヿヲ得ルナリ其申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スモ亦口頭ヲ以テ之ヲ爲スモ訴訟者ノ隨意ナリトス

市町村長ノ證書ヲ持參シタルトキハ判事ハ必スシモ之ヲ許サヽル可ラサルヤト云フニ判事ハ決シテ市町村長ノ證明書ニ拘束セラル可キモノニアラス假令無資力者タルノ證明書アルモ他ノ條件ノ具備セサルトキハ之ヲ許サヽルコトヲ得ルナリ

第九十四條　訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與ス第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ之ヲ付與スルモノトス

前審ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキハ上級審ニ於テハ無資力ヲ證スルコトヲ要セス相手方上訴ヲ提出シタルトキハ上級審ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ求ムル原告若クハ被告ノ權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニ非スト見ユルヤヲ調査スルコトヲ要セス

〔義解〕(一〇〇)訴訟上ノ救助ハ各審ニ於テ之ヲ與フルモノナリ故ニ第一審ニ於テ救助ヲ受クルト雖モ其効力ハ第二審ニ繼續スルモノニ

アラス第二審ニ至テ新ニ其許可ヲ受ケサル可ラサルナリ何故ニ法律ハ救助許可ノ効力ヲ各審ニ止メタルカト云フニ人ノ貧富ハ決シテ一定ス可キモノニアラス最初ハ救助ヲ受クルニ及ハサル形狀ニ在ルモ訴訟ノ繼續中倒産シテ救助ヲ受クルノ場合ニ迫ルヿアリ又第一審ニ於テ救助ヲ受クルト雖モ第二審ニ至テ救助ヲ與フルニ及ハサルコトアリ去レハ救助ノ許可ハ各審ニ於テ各別ニ之ヲ付與スルヲ以テ相當ト爲スナリ

凡ヘテ獨立訴訟ノ性質ヲ有スルモノニ係ルトキハ救助ヲ與フルヤ否ヤヲ審査ス可キモノトス故ニ再審ノ訴ニ於テモ救助ヲ求ムルヿヲ得ルナリ然レトモ故障ハ固ヨリ同級審ニ係リ訴訟用印紙モ別ニ貼用セサルヿヲ以テ救助ヲ求ムルヿヲ要セス强制執行ニ付テハ如何第一審ニ於テ救助ヲ付與シタルトキハ其効力强制執行ニ及フヤ否ヤト云フニ法律ハ第一審ニ於テハ强制執行ニ付テモ併セテ之ヲ付與スルモノトセリ故ニ本訴ニ付キ救助ヲ得タルトキハ强制執行ニ付キ別ニ救助ヲ求ムルニ及ハサルナリ然レトモ執行上ヨリ新訴ノ生スルトキハ更メテ救助ヲ受ケサル可ラス例ヘハ强制執行ノ手續上ヨリ生スル異議ノ訴執達吏カ不法ノ所爲ヲ爲シタルニヨリ損害ヲ求ムル訴ノ如キハ別ニ救助ヲ受ケサル可ラサルモノトス

然テハ第一審ニ於テ救助ヲ求メス第二審ニ至テ初メテ救助ヲ求ムルトキハ强制執行ニ付キ如何ス可キヤ曰ク第二審ニ於テハ强制執行ニ對シ救助ヲ付與スルノ權ヲ有セス故ニ其救助ヲ得ントスル者ハ第二審裁判所ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ得タル旨ノ申請書ヲ第一審裁判所ニ差出シ以テ强制執行ノ救助ヲ受クルモノトス

初メテ訴訟上ノ救助ヲ得ントスルトキハ第九十三條ノ規定ニ從ヒテ

其無資力ヲ證明セサル可ラス然レモ一タヒ其救助ヲ得タルトキハ上級審ニ於テハ其無資力ヲ證スルヿヲ要セス只前審ニ於テ救助ヲ得タル旨ヲ證明スルヲ以テ足レリトス又救助ヲ受クルモノハ第九十一條ニ從ヒテ其目的トスル權利ノ伸張又ハ防禦ノ輕忽ナラス又ハ見込ナキニアラスト見ユルヤ否ヤヲ調査セサル可ラス之ヲ調査スルヲ以テ救助ヲ與フルノ要點トス然レモ第九十四條第二項ニ規定スルカ如ク相手方ヨリ上訴ヲ提出シタルトキハ上級審ニ於テ右ノ要點ヲ調査スルニ及ハス何トナルニ相手方ヨリ上訴ヲ爲シタルトキハ其訴訟行爲ハ自分ヨリ進ンテ爲シタルニアラス相手方ノ提出ニ依テ之レニ應セサル可ラサルニ至リタルモノナレハ則チ其訴訟行爲ハ已ムヲ得サルニ出テタルモノト言フ可シ

第九十五條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル條件ノ存セサリシトキ又ハ消滅シタルトキハ何時タリトモ之ヲ取消スコトヲ得

第九十六條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ死亡ト共ニ消滅ス

〔義解〕（一〇一）此ノ二條ハ救助消滅ノ場合ヲ定メタルモノナリ元來訴訟救助ヲ與フルハ裁判官ノ自由ナル決定ニ在ルヲ以テ又自由ナル心證ニ依リテ之ヲ取消スコトヲ得ルナリ又訴訟上ノ救助ヲ與フルハ條件付ニテ與フルモノナリ即チ何々ノ事項到着スルニ於テハ之ヲ取消ス可シト云ヘル解除ノ未必條件付ニテ付與スルモノトス訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル者ニ止マリ決シテ其承繼人ニ効力ヲ及ス可キモノニアラス蓋シ先人貧窮ニシテ訴訟費用ヲ出スコト能ハスト雖モ必スシモ承繼人ハ之ヲ出シ能ハスト推測シ得可キニアラス是

レ第九十六條ノ規定スル所ナリ

○訴訟上ノ救助消滅ノ場合如何　其場合左ノ如シ

第一　救助ヲ與ヘサルモ自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害スルニ至ラサル場合ニ到着シタルトキ

第二　權利ノ伸張又ハ防禦ノ方法輕忽ニ出テタリトノ推測充分ナルトキ

第三　訴訟ノ勝利見込ナキ推測充分ナルトキ

第四　救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ死亡シタルトキ

第九十七條　訴訟上ノ救助ハ之ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲メニ左ノ効力ヲ生ス

第一　裁判費用(國庫ノ立換金ヲ包含ス)ヲ濟清スルコトノ假免除

第二　訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除

第三　送達及ヒ執行行爲ヲ爲サシムル爲メ一時無報酬ニテ執達吏ノ附添ヲ求ムル權利

受訴裁判所ハ必要ナル場合ニ於テハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ辯護士ノ附添ヲ命スルコトヲ得

〔義解〕(一〇二)本條ハ訴訟上ノ救助ヲ受ケタル者ノ効力ヲ定メタルモノナリ即チ第一ニ掲クル裁判費用トハ訴訟用印紙ヲ初メトノ國庫ノ立替ニ係ル公示送達ノ費用、郵便代、證人鑑定人ノ旅費日當、滯在費、實地臨檢費等ヲ包含ス元來貧者ニ訴訟上ノ救助ヲ與フル所以ノモノハ貧者ヲシテ金錢ノ爲メニ枉屈スル權利ヲ伸張セシメンカ爲メナリ故

ニ訴訟上必要ナル費用ハ免除ヲ與フルモノトス第二ニ掲クル訴訟費用ノ保證ヲ立ツルコトノ免除トハ第八十八條ニ規定スル外國人カ本邦人ノ求メニ由リテ立ツル保證ヲ云フ外國人ト雖モ必スシモ富者ニアラサルヲ以テ訴訟上ノ救助ヲ受クルコトアル可シ外國人ニシテ此ノ免除ヲ得タルトキハ本邦人ハ强ヒテ之ヲ求ムルコトヲ得サルナリ第三ニ掲クルモノハ無報酬ニテ執達吏ニ依頼スルコトヲ得ルノ規定ナリ凡ヘテ執達吏ニ對シテ書類ノ送達ヲ爲スカ又ハ執行々爲ヲ依頼スルトキハ執達吏手數料規則ニ依リテ其手數料ヲ拂ハサル可ラス然ルニ貧人ニ訴訟上他ノ救助ヲ與フルモ此ノ最後ノ救助ヲ與ヘサルトキハ救助付與ノ効力發生セサルヲ以テ法律ハ尙ホ執達吏ヲモ一時無報酬ニテ使用シ得ルモノトセリ

執達吏ノ無報酬ニテ送達及ヒ執行所爲ヲ爲スハ救助ノ爲メニ手數料ヲ全ク放棄シタルニアラス一時無報酬ニテ爲ス迄ノ事ナレハ後日之ヲ請求スルコトヲ得可シ即チ救助ヲ受クタル者カ敗訴シタルトキハ國庫ニ向テ立替金ヲ請求スルコトヲ得可ク救助ヲ受クタル者勝訴トナリタルトキハ相手方ニ對シテ立替金ヲ請求スルコトヲ得可ク若シ又其相手方無資力ニテ之ヲ支拂フヿ能ハサルトキハ國庫ニ向テ之ヲ請求スルヿヲ得可シ

無報酬ニテ一時仕事ヲ爲サシムルヿハ只執達吏ノミナラス辯護士ニモ亦一時訴訟行爲ヲ爲サシムルヿヲ得可シ即チ本條ノ末項ニ規定スルカ如ク受訴裁判所ハ必要ナル場合ニ於テ訴訟上ノ救助ヲ受クタル原告若クハ被告ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ一時無報酬ニテ附添ヲ命スルコトヲ得ルナリ元來訴訟法ニ於テハ本人訴訟ヲ正則ト爲スニヨリ辯護士ノ附添ハ極メテ少カル可シト雖モ又稀ニハ辯護士ノ附添

ヲ必要ト爲スノ場合之レアル可シ例ヘハ本人カ訴訟上ノ救助ヲ受ケタルトキ疾病ニ依リテ出廷スルヲ得サルカ又ハ法廷ニ出テヽ相當ノ演述ヲ爲スノ能力ヲ失ヒタルモノナルトキハ辯護士ヲシテ演述セシムルノ必要アル可シ辯護士モ亦執達吏ト同シク後日其費用ヲ請求スルヲ得ルヿ固ヨリナリトス

第九十八條　訴訟上ノ救助ハ相手方ニ生シタル費用ヲ辨濟スル義務ニ影響ヲ及ホサス

〔義解〕(一〇三) 本條ハ殆ント規定スルニ及ハサルノ事項ヲ規定シタルモノナリ抑訴訟上救助ヨリ生スル効力ハ第九十七條ニ規定スルカ如ク法律上ノ訴訟費用ヲ免除スルニ在リ故ニ契約上ヨリ生スル費用ニ至テハ固ヨリ法律ノ干渉ス可キ所ニアラス訴訟上敗訴者カ勝訴者ニ對シテ費用ヲ償却スル所以ハ暗默ノ契約ヨリ生スルモノナリ即チ若シ此ノ訴訟ニ敗ヲ取リナハ訴訟費用ヲ償却セシヿヲ雙方暗ニ契約シタルモノトス去レハ假令第九十七條ニ從テ訴訟上ノ救助ヲ受クルト雖モ敗訴者ヨリ勝訴者ニ償フ可キ費用ニ至テハ決シテ免ルヽヿヲ得サルナリ

第九十九條　救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ノ爲メ假ニ濟清ヲ免除シタル裁判費用ハ訴訟費用ニ付キ確定裁判ヲ受ケタル相手方又ハ訴若クハ上訴ノ取下、拋棄、認諾若クハ和解ニ因リ訴訟費用ヲ負擔ス可キ相手方ヨリ之ヲ取立ツルコトヲ得

救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ニ附添ヒタル執達吏又ハ辯護士ハ同一ノ條件アルトキハ亦自己ノ權利ニ依リ費用確定ノ方法ヲ以テ其手數料及ヒ立替

金ヲ取立ツルコトヲ得

〔義解〕(一〇四) 本條ハ國庫ニ於テ立替ヘタル訴訟費用ヲ相手方ニ對シテ取立ツルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ通例ノ場合ニ於テ敗訴者ハ勝訴者ニ對シテ訴訟費用ヲ辨濟セサル可ラス此ノ理ニ依リテ救助ヲ受ケタル者勝チヲ占メタルトキハ直チニ對手人タル敗訴者ニ向テ訴訟費用ノ辨濟ヲ請求スルヿヲ得ルカト云フニ其勝チヲ得タル者ハ曾テ救助ヲ受ケタルモノナリ國庫ノ立替ヲ得タルモノナリ故ニ敗訴者ニ向テ費用ヲ請求セントセハ先ツ國庫ノ立替ヲ辨濟セサル可ラス國庫ノ立替ヲ辨濟セスシテ惟リ相手方ニ向テ費用ヲ請求スルハ不當ナリトス茲ニ於テカ國庫ヨリ直チニ救助ヲ受ケタル者ノ相手方(即チ敗訴者)ニ對シテ其立替金(訴訟入費)ヲ取立ツルヿヲ得ルトセリ此ノ事タル日本民法第三百三十九條ノ債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ申立テ及ヒ其訴權ヲ行フコトヲ得ト云ヘル法理ヨリ出テタルモノナリ

右ノ如ク國庫カ費用ヲ取立テントスルトキハ訴訟費用ヲ負擔ス可キ裁判ノ確定シタルヿヲ要ス若シ又訴訟ヲ取下クルカ權利ヲ抛棄スルカ義務ヲ認諾スルカ若クハ和解ヲ爲シタルトキハ確定裁判ナシト雖モ其効力ハ確定判決ヲ受ケタルト同一ナルヲ以テ同シク費用ノ取立ヲ爲スヿヲ得ルナリ

本條第一項ハ國庫カ費用ヲ取立ツルヿヲ得ル場合ナリ第二項ハ執達吏辯護士カ敗訴者ヨリ費用ノ請求ヲ爲シ得ルヿヲ定メタルモノナリ元來順次ヲ追フトキハ執達吏辯護士モ救助ヲ受ケタル者ニ對シテ費用ヲ請求スルヲ相當ト爲スモノナレトモ救助ヲ受クル者ノ如キハ全クノ無資力者ナルヲ以テ之レニ對シテ請求スルモ其益ナシ依テ民法ノ間

接訴權ニヨリ救助ヲ受ケタル者ノ相手方ニ向テ費用ノ請求ヲ爲シ得ルモノト定メタリ執達吏及ヒ辯護士カ手數料又ハ立替金ヲ請求スル場合モ國庫カ取立ツル場合ト同一ノ條件ニ從ハサル可ラス即チ費用ノ確定判決ト爲リタルキ訴ヲ取下ケタルキ權利ヲ拋棄シタルキ認諾シタルキ和解ヲ爲シタルキノ條件ニ到着スルヿヲ要スルナリ

第百條　救助ヲ受ケタル原告若クハ被告ハ自己及ヒ其家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ費用ノ濟清ヲ爲シ得ルニ至ルトキハ假免除ヲ得タル數額(第九十七條第一號)ヲ直チニ追拂ヒスル義務アリ

【義解】(一〇五)本條モ亦殆ソト言フニ及ハサルノ事ヲ言ヒタルモノナリ何トナルニ元來訴訟上ノ救助ヲ與フル所以ノモノハ一時ノ支辨猶豫ヲ與フルノ精神ニシテ全ク之ヲ免除スルノ意ニアラス然シテ自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ害スルヲ以テ已ムナク之ヲ付與スルモノナリ故ニ訴訟中何時ニテモ自己及ヒ家族ノ必要ナル生活ヲ害セスシテ訴訟費用ヲ支出シ得ルニ至ルキハ其救助ヲ取消スヿ勿論ナリトス此等ノ事ハ救助ノ本質ヨリ生スル自然ノ結果ナルヲ以テ特ニ之ヲ言フニ及ハサルナリ

第百一條　裁判所ハ檢事ノ意見ヲ聽キタル後訴訟上救助ノ付與并ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請訴訟上救助ノ取消及ヒ數額追拂ノ義務ニ付キ決定ヲ爲ス

此裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

【義解】(一〇六)本條ニハ四個ノ決定ヲ爲ス可キ場合ヲ定メタリ第一訴訟上救助ノ付與ニ付テノ決定第二辯護士附添ノ決定第三訴訟上救

助取消ノ決定第四數額追拂ノ決定ノ四種トス此ノ決定ヲ爲スニ先立チ檢事ノ意見ヲ聞ク所以ノモノハ公益ヲ保護セントノ精神ヨリ出テタル者ナリ其故ハ訴訟上ノ救助ヲ與フルヤ否ヤハ國庫ノ利害ニ關スルヲ以テ檢事ノ意見ヲ聞キ十分ノ調査ヲ爲スヲ必要トス以上ノ場合ニ於テ檢事ノ意見ヲ聞クヿハ法律上ノ命令ナルヲ以テ必スヤ之ヲ聞カサル可ラス若シ之ヲ聞カスシテ決定ヲ爲ストキハ違法ノ處爲ナリトス然リ而シテ此ノ決定ハ事簡短ナルヲ以テ口頭辯論ヲ經サルモ其審理ヲ盡クスヿヲ得可キニヨリ口頭辯論ヲ經スシテ爲スヿヲ得ルナリ

第百二條 訴訟上ノ救助ヲ付與シ又ハ其取消ヲ拒ミ若クハ費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテハ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スコトヲ得

辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

訴訟上ノ救助ヲ拒ミ若クハ取消シ又ハ辯護士ノ附添ヲ拒ミ又ハ費用ノ追拂ヲ命スル決定ニ對シテハ原告若クハ被告ハ抗告ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(一〇七) 本條ニ訴訟上ノ救助付與ノ決定取消ヲ拒ムノ決定費用追拂ヲ命スルコトヲ拒ム決定ニ對シテ檢事ニ限リ抗告ヲ爲スヿヲ許シタル所以ハ如何其レ檢事ハ此等ノ決定前ニ當テ意見ヲ述フルノ權ヲ有スルモノナリ裁判官ハ職務上其意見ヲ聞カサル可ラサルコト第百一條ニ記スル所ナリ故ニ又其決定ニ對シテモ不服ナルトキハ抗告ノ權ヲ與フルコト自然ノ結果ナリト言フ可シ殊ニ本條第一項ノ決定ハ國庫ノ利害ニ關スルヲ以テ公益保護ノ點ヨリスルモ檢事ニ抗告ノ權ヲ與フルコト至當ナリトス然シテ訴訟上ノ救助ヲ申請スル者又

ハ之ヲ受ケタル者ハ自己ニ利益アルモ更ニ害ナキヲ以テ抗告ヲ爲スノ必要ヲ生スルヿナキナリ

辯護士ノ附添ヲ命スル決定ニ對シテハ何人モ上訴ヲ爲スヿヲ得ス凡ソ辯護士ノ附添ヲ爲スハ公益上、私益上利益アルモ更ニ害ナキヲ以テナリ又第三項ニ規定スル訴訟上ノ救助ヲ拒ムノ決定、之ヲ取消スノ決定、辯護士ノ附添ヲ拒ムノ決定、費用ノ追拂ヲ命スルノ決定ニ對シテハ國庫ノ利害ニ關セサルヲ以テ檢事ハ抗告スルヿヲ得サルモ原告若クハ被告ハ利害ノ關係アルヲ以テ抗告スルヿヲ得ルナリ又法律カ之ヲ許スヲ相當ナリトス

第三章　訴訟手續

第一節　口頭辯論及ヒ準備書面

〔義解〕《一〇八》口頭辯論トハ口頭ノ陳述ヲ云ヒ準備書面トハ口頭辯論ニ先立テ提出スル訴狀及ヒ附屬書類ヲ云フ佛國訴訟法ノ訴訟手續ヲ分テ二種ト爲ス第一書面ニ依ル取調第二口頭ニ依ル取調是レナリ書面ニ依ル取調トハ口頭ノ辯論ナク書類ノミヲ以テ爲ス取調ヲ云フ此ノ種ノ取調ハ佛國ニ於テモ殊ニ稀ナリトス何トナレハ難累錯雜ノ事件ニシテ口頭ノ辯論ノミニテハ之ヲ終結スル能ハサルヿニアラスンハ此取調法ヲ用ヒサルナリ例ヘハ數世ニ係ル血統ヲ取調フルカ如キ計算ヲ取調フルカ如キハ口頭ノミニテ之ヲ知ルコト能ハサルニヨリ書面ニ依テ之ヲ取調フルモノナリ又口頭ノ取調ヲ分テ二種ト爲ス第一辯論ノミノ取調第二豫メ書面ヲ呈出シタル上辯論ヲ以テスルモノ是レナリ第一ノ場合ハ例外ニシテ之ヲ簡易ノ訴訟法ト云ヒ第二ノ場合ハ一般ノモノニシテ之ヲ尋常ノ訴訟手續ト云フ我カ國ノ訴訟手續ハ區々ナリト雖モ明治二十四年以前ノ手續ハ書面ノ取調ヲ主ト爲

シ口頭ノ取調ヲ從ト爲シタルモノヽ如シ即チ訴狀ヲ呈出シタル後ニ於テ辯論書ヲ呈出スルカ如キ再辯論書又ハ辯駁書ヲ呈出シタルカ如キハ書面ノ取調ヲ主ト爲シタルノ證ナリ近來歐洲各國ノ有樣ハ書面ノ取調ヲ從ト爲シ口頭ノ取調ヲ主ト爲シ稀ニハ更ニ準備書面ヲ徵セス口頭ノミニ依テ審理スルノ國アリト云ヘリ我カ訴訟法ノ主義如何ト云フニ書面調、口頭調ヲ折衷シテ口頭辯論ヲ主ト爲シ書面調ヲ從ト爲セリ故ニ口頭辯論期日ニ原告ノ欠席シタルトキハ欠席判決ヲ以テ其訴ヲ却下スルモノトス斯ク口頭辯論ヲ以テ主ト爲シ書面調ヲ以テ從ト爲シテ如何ナル利益アルカ其利益蓋シ鮮尠ニアラサル可シ

第一　書面審理ノ主義ニ依ルトキハ多クノ書類提出ヲ要ス可シ即チ合議裁判ニ於ケルトキハ其判事ノ數ニ應シテ書面ヲ作ラサル可ラス然ルトキハ無益ナル費用ト日子トヲ費スニ至ル可シ

第二　書面審理ノ主義ニ依ルトキハ事件延滯ノ患ヒアリ即チ訴狀ヲ呈出シタル後辯論書ヲ出シ原告ヨリ辯論書ヲ出ストキハ被告ニ於テ辯駁書ヲ出シ又再辯論書再辯駁書ヲ提出シ遂ニ其底止スル所ヲ知ル可ラサルニ至ル可シ

第三　書面審理ノ主義ニ依ルトキハ當事者ノ精神ヲ探究スル上ニ於テ困難ヲ感スルヿアラン即チ文字ハ其意ヲ寫出スルモノトハ言ヘ文章上ト實地聞キタル所トハ往々其精神ヲ異ニスルヿアリ然ルトキハ判事ノ心證上錯誤ヲ來スヿアルニ至ル可ク從テ眞正ノ事實ヲ穿ツヿ能ハサル可シ

第四　書面審理ノ主義ニ依ルトキハ裁判公開ノ主義ヲシテ貫徹セシムルヿ能ハサル可シ即チ其事實及ヒ辯論ヲ知ルモノハ判事ト當事者ノミニシテ公衆ハ之ヲ知ルヿ能ハス之ヲ知ルヿ能ハサルトキ

ハ裁判ノ公平ヲ維持スル上ニ於テ世人ノ疑惑ヲ招クコトアル可シ

書面審理ノ主義ニ依ルトハ以上ノ如キ弊害アルヲ以テ我カ訴訟法ハ斷然此ノ主義ヲ排斥シ以テ口頭審理ノ主義ヲ採用セリ是レ訴訟法ノ進歩シタル一斑ナリト言フ可シ

第百三條　判決裁判所ニ於ケル訴訟ニ付テノ當事者ノ辯論ハ口頭ナリトス但法律ニ於テ口頭辯論ヲ經スシテ裁判ヲ爲スコトヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

〔義解〕(一〇九)　本條ハ訴訟手續ノ主義ヲ示シタルモノナリ即チ口頭辯論ヲ以テ審理ノ原則ト爲セシヿヲ言ヒタルモノトス凡ソ裁判ヲ分テ二個ト爲ス曰ク判決裁判曰ク決定裁判是レナリ判決裁判トハ本案又ハ妨訴ノ裁判ヲ云ヒ決定裁判トハ訴訟ノ手續ニ關スル裁判ヲ云フ判決裁判ハ必スシモ口頭辯論ヲ以テ終結スルモノナレトモ決定裁判ハ或ハ其口頭辯論ヲ爲スト否ヤトハ判事ノ意見ニ任スル場合アリ或ハ全ク口頭辯論ヲ經スシテ決定ヲ下ス場合アリ漸次條項ヲ追ハヽ明カナラン

○法律上口頭辯論ヲ爲サシムル義務アル場合如何

第一　本案妨訴反訴ニ付テハ口頭辯論ヲ用ヒサル可ラス

第二　追加裁判ノ申立アリタルトキ(第二百四十二條)

第三　假差押處分ノ命令ニ對シ異議ノ申立アルトキ(第七百四十五條)

○口頭辯論ヲ爲サシムルト否ヤトハ裁判所ノ意見ニ任スル場合如何

第一　管轄裁判所ノ指定ニ付テノ申請(第二十八條)

第二　忌避ノ申請ニ付テノ裁判(第三十七條)

第三　從參加人ノ許否ニ關スル申立(第五十七條)

第四　裁判所書記、法律上代理人、辯護士、執達吏等ニ費用ヲ負擔セシムルノ決定(第八十三條)

第五　費用額確定ノ裁判(第八十五條)

第六　訴訟上救助ノ付與并ニ辯護士附添ノ命令ニ付テノ申請訴訟上救助ノ取消數額追拂ノ義務ノ決定(第百一條)

第七　期日ノ變更又ハ期限ノ短縮若クハ伸張ニ付テノ申請(第百七十一條)

第八　訴訟手續中止ノ申請(第百八十五條)

第九　判決中ノ違算書損及ヒ之レニ類スル著シキ誤謬ヲ更正スルノ申立(第二百四十一條)

第十　外國ニ於テ送達ヲ爲ス可キキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲ス可キキハ裁判所ハ欠席判決ヲ以テ故障期限ヲ定ムルノ決定(第二百五十五條四項)

第十一　證人鑑定人ヲ忌避スルニ付テノ申請(第三百五條)

第十二　證據保全ニ付テノ申請(第三百六十八條)

第十三　抗告裁判所ニ於ケル抗告ノ裁判(第四百六十二條)

第十四　强制執行ヲ停止シ又ハ保證ヲ立テシメテ之ヲ爲サシトスルノ申請(第五百條)

第十五　執行處分ニ對スル不服ノ申請(第五百四十三條)

第十六　假差押ノ申請及ヒ取消又ハ假處分ノ申請(第七百四十一條)

右ノ外尙ホ之レアル可キモ悉ク之ヲ擧示スルヲ要セス他ハ讀者ノ集覽ニ任セン

第百四條　口頭辯論ハ書面ヲ以テ之ヲ準備ス

第百五條　準備書面ニハ左ノ諸件ヲ掲ク可シ

第一　當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名身分職業住所裁判所訴訟物及ヒ附屬書類ノ表示

第二　原告若クハ被告カ法廷ニ於テ爲サントスル申立

第三　申立ノ原因タル事實上ノ關係

第四　相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述

第五　原告若クハ被告カ事實上主張ノ證明又ハ攻撃ノ爲メ用ヒントスル證據方法及ヒ相手方ノ申立テタル證據方法ニ對スル陳述

第六　原告若クハ被告又ハ其訴訟代理人ノ署名及ヒ捺印

第七　年月日

〔義解〕（一一〇）第百四條ハ第百三條一段ノ結果ヲ示シタルモノナリ即チ口頭辯論ハ準備書面ヲ以テ之ヲ準備スト云ヘリ此ノ條ニ依テ見ルモ口頭辯論ヲ主トシテ準備書面ハ其從タルコトヲ知ルニ足ル故ニ原告ハ訴狀トシテ準備書面ヲ奉呈スルノ必要アルモ法律ハ被告ニ向ヒ必スシモ之ヲ奉呈セヨト强令スルモノニアラス其答辯書ヲ差出サトルモ敢テ失權ノ効ヲ生セサルカ故答辯書ヲ差出サヽルモ口頭辯論ノ期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲セハ則チ訴訟ノ効力ヲ生スルナリ斯ク言フトキハ準備書面ノ必要ナキカ如シト雖モ原告ニ於テ準備書面トシ以テ訴狀及ヒ附屬書類ヲ提出セサルトキハ判事及ヒ對手人ハ訴訟ノ方針及ヒ性質ヲ知ルコト能ハス被告モ亦答辯書及ヒ附屬書類ヲ差出サヽルトキハ答辯ノ方針ヲ知ルコト能ハス之ヲ知ルコト能ハスンハ

訴訟上不便少カラサル可シ例ヘハ訴訟ノ性質ニ依リテハ豫メ檢事ニ通知シテ其立會ヲ求メサル可カラス之レヲ知ルハ即チ準備書面ニ依テ知ルモノナリ其他訴訟法ハ書面審理ヲ主トセサルモ準備書面ヲ提出スルノ利益審理上少カラサルナリ然リ而シテ準備書面ニハ如何ナルコトヲ記ス可キモノナルカト云フニ其次第ハ第百五條ニ在リ請フ之ヲ說カン

第一號　當事者及ヒ其法律上代理人ノ氏名職業住所ヲ記スル所以ノモノハ人違ナカランコトヲ欲シタナリ本人自ラ訴訟ヲ爲サス訴訟代理人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ代理人ノ氏名ノミナラス本人ノ氏名ヲモ記載セサル可ラス蓋シ裁判言渡ハ本人ニ對シテ言渡スモノナレハナリ茲ニ國家學上ノ議論ヲ要スルモノアリ立憲君主國ニ於テハ何人ト雖モ國君ニアラサル以上ハ代理人ヲ以テ訴訟ヲ爲サストノ原則アリ此ノ原則ノ意味タル獨リ君主ハ代理人ヲ以テ訴ヲ爲ス可シト言フノ意ニアラス何人モ代理人ヲ任スルノ權アリト雖モ君主ハ獨リ自己ノ爲メ又ハ自己ニ對スル訴訟ニ付キ我名ヲ以テセスシテ代理人ノ名ヲ以テシ常人ハ代理人ノ名ノ傍ニ本人ノ名ヲ記載セサルヲ得スト云フノ義ナリ此ノ理タル國君ハ國家ヲ代表シ統治權ヲ總攬スト雖モ實地制禦ノ實メニ當ラスト云ヘル原則ノ結果ナリ

裁判所ノ表示ヲ爲ス所以ハ事物及ヒ其他ノ管轄ナルヤ否ヤヲ知ラシメンカ爲メニシテ訴訟物ノ表示トハ訴訟ノ性質ヲ記載スルヲ云フ例ヘハ貸金催促ノ訴地所取戻ノ訴ト云ヘルカ如キ訴名ノ性質ヲ證スルヲ以テ足レリトス又附屬書類ノ表示トハ所謂證據物ノ表示ニシテ本訴ヲ記スルニハ人證書證ヲ以テ證明スト記スルカ如シ

第二號　訴訟ニハ必ス一定ノ申立アルヿヲ要ス一定ノ申立ヲ爲スニ

アラスンハ要求ノ主點ヲ知ルヿ能ハス之ヲ知ルヿ能ハスンハ判決上及ヒ對手人ハ訴訟ノ主點ヲ知ルニ苦ムナル可シ

第三號　原被兩造カ要求ノ主點ヲ揭クルモ其主點ノ因ヲ來リタル原因ヲ記スルニアラスンハ目的ト事實トノ關係ヲ知ルヿ能ハサル可シ故ニ一定ノ申立ヲ記シタル後ニ其事實上ノ關係ヲ記載スルヿヲ必要トス然レトモ其事實ヲ詳細ニ揭ケヨト云フニアラス事實ノ經歷ヲ揭載スルヲ以テ足レリトス故ニ事實ヲ法律ニ適用スルノ議論等ハ之ヲ記スルニ及ハサルナリ

第四號　相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述トハ例ヘハ原告ヨリ主張シタル事實ニ對シ被告ハ之ヲ認諾スルヤ否ヤヲ揭クルヲ云フ原告ノ主張シタル事實ニ對シ之ヲ認メタルトキハ從テ其要求ノ點ニ影響ヲ及ホスモノナリ若シ又之ヲ認メサルトキモ然リトス兎ニ角相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ辯明ヲ爲スヿハ訴訟上必要ナリトス

第五號　要求ノ目的及ヒ因ヲ來リタル所ノ事實ノ原因ヲ記載スルモ之ヲ證スルノ方法ヲ記セスンハ所謂口無無證ノ陳述ナルヲ以テ其之ヲ確ふルノ途ヲ知ルヿヲ得ス故ニ證明ノ方法ヲ開示シ併セテ相手方ノ提出シタル證據方法ニ對シ其認否ヲ陳述セサル可ラス是レ訴訟上最モ必要ノ方法ナリトス

第六號　署名捺印ヲ爲ス所以ハ責任ヲ確的ニ爲サンカ爲メナリトス然レトモ署名捺印ナキカ爲メニ其準備書面ハ無効ナリト言フニアラス何トナレハ準備書面ヲ徵スルハ訴訟ノ性質ヲ知ル爲メニシテ之ヲ以テ審理ノ主タルモノト爲サヽルヿ前既ニ述フルカ如シ故ニ署名捺印ナキトキハ只未タ整頓セサル書面ナリト云フニ過キサルナリ

第七號　年月日ヲ記スルヿハ訴訟上最モ必要ナリ年月日ハ時効中斷

アラスンハ要求ノ主點ヲ知ルヿ能ハス之ヲ知ルヿ能ハスンハ判決上及ヒ對手人ハ訴訟ノ主點ヲ知ルニ苦ムナル可シ

第三號　原被兩造カ要求ノ主點ヲ掲クルモ其主點ノ因ヲ來リタル原因ヲ記スルニアラスンハ目的ト事實トノ關係ヲ知ルヿ能ハサル可シ故ニ一定ノ申立ヲ記シタル後ニ其事實上ノ關係ヲ記載スルヿヲ必要トス然レ𪜈其事實ヲ詳細ニ掲ケヨト云フニアラス事實ノ經歷ヲ掲載スルヲ以テ足レリトス故ニ事實ヲ法律ニ適用スルノ議論等ハ之ヲ記スルニ及ハサルナリ

第四號　相手方ノ事實上ノ主張ニ對スル陳述トハ例ヘハ原告ヨリ主張シタル事實ニ對シ被告ハ之ヲ認諾スルヤ否ヤヲ掲クルヲ云フ原告ノ主張シタル事實ニ對シ之ヲ認メタルトキハ從テ其要求ノ點ニ影響ヲ及ホスモノナリ若シ又之ヲ認メサルトキモ然リトス兎ニ角相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ辯明ヲ爲スヿハ訴訟上必要ナリトス

第五號　要求ノ目的及ヒ因ヲ來リタル所ノ事實ノ原因ヲ記載スルモ之ヲ證スルノ方法ヲ記セスンハ所謂口無無證ノ陳述ナルヲ以テ其之ヲ確ムルノ途ヲ知ルヿヲ得ス故ニ證明ノ方法ヲ開示シ併セテ相手方ノ提出シタル證據方法ニ對シ其認否ヲ陳述セサル可ラス是レ訴訟上最モ必要ノ方法ナリトス

第六號　署名捺印ヲ爲ス所以ハ責任ヲ確的ニ爲サンカ爲メナリトス然レ𪜈署名捺印ナキカ爲メニ其準備書面ハ無効ナリト言フニアラス何トナレハ準備書面ヲ徵スルハ訴訟ノ性質ヲ知ル爲メニシテ之ヲ以テ審理ノ主タルモノト爲サヽルヿ前既ニ述フルカ如シ故ニ署名捺印ナキトキハ只未タ整頓セサル書面ナリト云フニ過キサルナリ

第七號　年月日ヲ記スルヿハ訴訟上最モ必要ナリ年月日ハ時効中斷

ノ證ト爲リ(民法證據法第百九條法定ノ中斷ノ中裁判上ノ請求ニ依テ中斷ス)金銀ノ債務者ヲシテ法律上ノ利息ヲ生セシムルノ證ト爲リ(民法財產編第三百九十一條)確定物ノ債務者ヲシテ遲滯ニ付セシメタルノ證ト爲リ(民法財產編第三百三十六條)善意ノ占有者ヲシテ惡意ノ占有者ト爲ラシムル等ノ効ヲ生ス故ニ當事者及ヒ裁判所ハ年月日ヲ正確ニ記スルヿヲ以テ必要トス

第百六條　準備書面ニ於テ提出ス可キ事實ハ簡明ニ之ヲ記載ス可シ

此ノ他事實上ノ關係ノ說明竝ニ法律上ノ討論ハ書面ニ之ヲ揭クルコトヲ得ス

〔義解〕(一一一)本條第一項ハ準備書面ノ冗長ニ流レサランカ爲メニ注意ヲ與ヘタルモノナリ第二項ノ事實上ノ關係ノ說明並ニ法律上ノ討論ハ之ヲ書面ニ揭クルヿヲ得ストハ雙方事實上ノ關係ヲ詳細ニ說明シ又ハ法律上ノ討論ヲ詳記スルヿヲ得ストノ意ナリ若シ夫レ事實上ノ關係ヲ詳ニ說明シ又ハ法律ノ討論ヲ詳記スルトキハ書面審理ト同一ナルヲ以テ從テ口頭辯論ヲ主ト爲シタルノ精神ニモ背戾スルニ至ル是レ法律ハ之ヲ禁スル所以ナリ然レトモ全然法律上ノ意見ヲ記スルコトヲ得スト云フノ精神ニアラス素ト訴訟ハ法律ノ適用ナルヲ以テ事實ヲ簡明ニ記シ次ニ法律適用ノ意見ヲ簡短ニ記スルコトハ決シテ之ヲ禁スルモノニアラス否ナ寧ロ之ヲ記スルヲ以テ裁判上利益アルモノナリ殊ニ上告ニ於テハ勢ヒ法律上ノ意見ヲ記セサル可ラサルナリ

第百七條　準備書面ニハ訴訟ヲ爲ス可キ資格ニ付テノ證書ノ原本、正本又ハ謄本其他總テ原告若クハ被

告ノ手中ニ存スル證書ニシテ書面中ニ申立ノ原因トシテ引用シタルモノノ謄本ヲ添付ス可シ

證書ノ一部分ノミヲ要用トスルトキハ其冒頭、事件ニ關スル部分、終尾、日附署名及ヒ印章ヲ謄寫シタル抄本ヲ添附スルヲ以テ足ル

證書カ既ニ相手方ニ知レタルトキ又ハ大部ナルトキハ其證書ヲ表示シ且相手方ニ之ヲ閲覽セシメント欲スル旨ヲ附記スルヲ以テ足ル

第百八條　當事者ハ準備書面及ヒ附屬書類竝ニ相手方ニ付與スル爲メ必要ナル謄本ヲ裁判所書記課ニ差出ス可シ

〔義解〕（一一二）本條第一項ノ訴訟ヲ爲ス可キ資格ニ付テノ證書ノ原本正本又ハ謄本トハ他人ノ爲メ訴訟行爲ヲ爲シ得可キ資格ヲ證スル證書ヲ云フ即チ代理委任狀ノ如キ是レナリ又後見人カ幼者ノ爲メニ訴訟ヲ爲ストキハ後見人タルノ證明ヲ相當官署ヨリ受クルヲ必要トス原告若クハ被告ノ手中ニ存スル證書ニシテ書面中ニ申立ノ原因トシテ引用シタルモノトハ其事實ヲ證スル證據ノ開示ヲ云フ元來原則ニ依レハ第百五條ニ言フカ如ク證據ノ表示ヲ爲スヲ以テ足レリトスルモ表示ノミニテハ口頭辯論ノ準備上不都合ノ場合アル可シ此ノトキニ在テ例外トシテ其證書ノ謄本ヲ添付セシムルヲ便宜ナリト思考スルトキハ謄本ノ添付ヲ命スルヿヲ得ルナリ又若シ證書ノ全躰ヲ必要トセス一部分ノミヲ必要トスルトキハ其事件ニ關スル部分ヲ謄寫シテ之ヲ差出スヲ以テ足レリト爲ス又證書カ相手方ニ知レタルトキハ相手方ニ於テ充分知悉シ居ルノ證書ヲ云ヒ大部ナルトハ蚤帳ノ如キモノヲ云

フ此等ノモノニ在テハ別ニ之ヲ謄寫シテ差出スノ必要ナキカ故ニ只其如何ナル證書タルヿヲ表示シ且ツ相手方ニ之ヲ閲覽セシメントスル旨ヲ附記スルヲ以テ足レリト爲スナリ

以上ノ書類ハ第百八條ニ從テ之ヲ書記課ニ差出サヽル可ラス書記課ニ於テハ相手方ニ送達ス可キモノハ之ヲ送達シ保存ス可キ書類ニ係ルモノハ之ヲ一綴シテ判事ノ閲覽ニ供スルモノトス

第百九條　裁判長ハ口頭辯論ヲ開キ且之ヲ指揮ス

裁判長ハ發言ヲ許シ又其命ニ從ハサル者ニ發言ヲ禁スルコトヲ得

裁判長ハ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲サシメ且間斷ナク辯論ノ終了スルコトニ注意ス又必要ナル場合ニ於テハ直チニ辯論續行ノ期日ヲ定ム

裁判所ニ於テ事件ニ付十分ナル說明ヲ爲セリト認ムルトキハ裁判長ハ口頭辯論ヲ閉チ及ヒ裁判所ノ判決竝ニ決定ヲ言渡ス

〔義解〕（一一三）本條ハ裁判長ノ行爲ヲ規定シタルモノナリ訟廷內ノ事ハ凡ヘテ裁判長ノ指揮命令ニ從ハサル可ラス此ノ故ニ發言ヲ許可スルモ又之ヲ禁スルモ裁判長ノ權內ニ在リ然レ𪜈故ナク裁判長ハ其發言ヲ禁ス可キモノニアラス裁判長ノ命令ニ從ハサルノ一條件ヲ要スルナリ第三項ノ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲サシムルヲ要スルハ當事者ヲシテ餘蘊ナク遺憾ナク十分ニ事實及ヒ辯論ヲ爲サシメンカ爲メナリ故ニ當事者カ尙ホ意見ヲ陳述セントスルニ當テ裁判長之ヲ許サヽルトキハ懲戒裁判ノ原因ト爲ルナリ

裁判長ハ口頭辯論ヲ開クニ當テ種々ナル職務上ノ注意ヲ爲サヽル可

ラス就中注意ノ大ナルモノハ當事者ヲシテ十分ニ意見ヲ陳述セシムルヿ及ヒ間斷ナク辯論ノ終了スルヿニ注意セサル可ラス若シ辯論ニ間斷アリテ數十日ヲ經ルトキハ判事ノ心證上確的ヲ見ルヿ能ハサル可シ然レトモ到底一回ノ口頭辯論ニ於テ終了セサルトキハ直チニ辯論續行ノ期日ヲ定メテ之ヲ行フ可キモノトス

又裁判所ニ於テ事件ニ付キ十分ナル說明ヲ爲セリト認ムルトキハ裁判長ハ口頭辯論ヲ閉ツル旨ヲ告ケテ閉廷シ又ハ評議ノ上判決若クハ決定スル旨ヲ告ケテ閉廷スルモノトス

裁判長ノ所爲ヲ分テ二個ト爲ス曰ク形式上ノ所爲曰ク無形上ノ所爲是レナリ何ヲカ形式上ノ所爲ト云フカ法廷ノ嚴肅ヲ掌ル所爲ノ如キ口頭辯論ノ開閉發言ノ許否辯論續行ノ指定ヲ爲スカ如キハ形式上ノ所爲ナリ何ヲカ無形上ノ所爲ト云フカ當事者ヲシテ十分ニ意見ヲ陳述セシムルカ如キ當事者ノ說明ニ依テ心證ヲ取ルカ如キ即チ無形上ノ所爲ナリ判事ハ常ニ此ノ二個ノ所爲ヲ兼テ行フ可キモノトス

茲ニ一ノ注意ス可キヿアリ第百九條第二項ニ依テ發言ヲ禁セラレタルモノト第百二十七條ニ依テ陳述ヲ禁セラレタル者ト混同ス可ラサルヿ是レナリ第百九條ニ依テ口頭辯論ノ際其陳述ヲ禁セラルヽモ是レハ絕對的ノ禁止ヲ受ケタルニアラサルカ故裁判長ハ再ヒ其陳述ヲ許スヿヲ得ルナリ之レニ反シテ第百二十七條ニ依テ演述ヲ禁セラレタル者ハ能力ノ欠缺ナルヲ以テ再ヒ演述ヲ爲スヿヲ得サルナリ

第百十條　口頭辯論ハ當事者ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マル

當事者ノ演述ハ事實上及ヒ法律上ノ點ニ於ケル訴訟關係ヲ包括ス可シ

口頭演述ニ換ヘテ書類ヲ援用スルコトヲ許サス文字上ノ旨趣ヲ要用トスルトキハ其要用ナル部分ニ限リ之ヲ朗讀スルコトヲ得

〔義解〕(一一四) 期日ハ事件ノ呼上ヲ以テ始マリ口頭辯論ハ當事者ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マル此ノ二個ノ原則ハ訴訟開始ノ手續上ニ於テ最モ緊要ナルモノナリ本條第一項ノ口頭辯論ハ當事者ノ申立ニ因リテ始マルトハ當事者ノ所爲ニ依テ訴訟ノ開始ヲ爲ス所以ヲ示シタルモノナリ抑〻判事ノ職タル民刑事ヲ問ハス訟ヘナキモノニ向テ之ヲ審理スルヿヲ得サルモノナリ故ニ訴訟ハ訴訟人ヨリ始ムルモノニシテ判事ヨリ之ヲ始ムルモノニアラス是レ當事者ノ申立ニ因リテ口頭辯論ヲ始ムル所以ナリトス此ノ法理タルヤ實ニ法律進歩ノ結果ナリト言フ可シ法律ノ未タ進歩セサルトキニ在テハ裁判官ヨリ訴訟ヲ提起シ併セテ之ヲ審理シタルモノナリ此等ハ裁判官ノ性質ニ背戻スルノ所爲ニシテ殊ニ不干渉ノ主義ニ背クモノトス今日ニ在リテハ決シテ判事ヨリ訴訟ノ開示ヲ爲ス可ラス當事者ヨリ之ヲ爲スモノトス然リ而シテ其當事者ノ申立ヲ爲スニ因リテ始マルトハ如何ナルヿヲ言ヒタルモノナルヤ即チ一定ノ申立ヲ爲スヲ云フナリ例ヘハ原告ヨリ何々ノ事ヲ請求スト云ヒ被告ハ原告ノ請求ヲ却下セラレタシト陳述スルカ如キ是レナリ此ノ如ク原被兩造ニ於テ一定ノ陳述ヲ爲スヤ是レヨリ口頭辯論ノ進行ヲ始ムルモノナリ

當事者カ一定ノ陳述ヲ爲スヤ其陳述中ニハ事實上及ヒ法律上ノ點ニ於ケル訴訟關係ヲ包括シタルモノト見做ス凡ヘテ口頭辯論ハ口頭ヲ以テ陳述スルヿヲ要ス書類ノ朗讀ニ由テ陳述ニ代エルヿヲ許サス然レモ文字ノ援用ヲ必要トスルトキハ其部分ニ限リテ之ヲ朗讀スルヿヲ

許スナリ是レ皆口頭辯論ノ主義ヲシテ貫徹セシメンカ爲メナリ

第百十一條　各當事者ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ陳述ヲ爲ス可シ

明カニ爭ハサル事實ハ原告若クハ被告ノ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意思ガ顯ハレサルトキハ自白シタルモノト見做ス

不知ノ陳述ハ原告若クハ被告ノ自己ノ行爲ニ非ス又自己ノ實驗シタルモノニモ非サル事實ニ限リ之ヲ許ス此場合ニ於テ不知ヲ以テ答ヘタル事實ハ爭ヒタルモノト見做ス

〔義解〕（一一五）本條ハ證據法ニ屬シ判事ノ採證方法ヲ示シタルモノナリ第一項ハ當事者カ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ陳述ヲ爲ス可キ義務ヲ示シタリ此ノ陳述ハ相手方ノ陳述ヲ駁擊セヨト言フニアラス又認諾セヨト言フニアラス其認否ハ各當事者ノ自由ナリ然レ𪜈若シ第一項ノ規定ニ從テ陳述ヲ爲サヽルトキハ只第二項ノ制裁ヲ受クルノミ第二項ノ制裁ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ明カニ爭ハス然シテ他ノ陳述ヨリ之ヲ爭ハントスル意志ノ見ハレサル𪜈ハ其相手方ノ主張シタル事實ヲ自白シタルモノト見做サルヽモノナリ例ヘハ原告カ數口ノ貸金ヲ訴ヘタル𪜈其中一口又ハ二口ニ對シテ被告カ爭ヒヲ爲シ他ノ數口ニ對シテ明カニ爭ハサルトキハ第二項ニ依テ其爭ハサル數口ノ債務ヲ自白シタルモノト見做サルヽノ類ナリ即チ民法證據編第三十四條ニ言フ所ノ裁判上ノ自白ハ自發ノモノアリ又ハ民事訴訟法ニ規定シタル本人訊問ニ因リテ爲スモノアリ同第四十條ニ言フ所ノ一方ノ當事者カ訴訟事件ノ或ル事實ノ存在ニ付キ陳述ス

可キノ求メヲ受ケテ其事實ヲ爭ハサルニヨリ之ヲ追認シタリト看做ス場合ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定スト言ヘルモノ是レナリ

右ノ採證方法ニ付キ判事ノ最モ愼重ヲ要ス可キノ一事アリソハ他ニアラス相手方ノ陳述シタル主張ニ對シテ即時ニ之ヲ爭ハサルモ之ヲ以テ其事實ヲ自白シタルモノト言フ可ラス口頭辯論ハ必スシモ一回ニテ終結ス可キモノニアラス數回繼續スルコトアル可シ此ノ場合ニ於テハ前回ノ公判ニ於テ爭ハサルモ後チノ辯論期日ニ於テ之ヲ爭フトキハ矢張リ之ヲ爭フタルモノト見做サヽル可ラス是レ數回繼續スルモ一ノ口頭辯論ニシテ所謂不可分的ノ性質ヲ有スルモノトス

相手方ノ主張ニ對シテ明カニ爭ハサルトキハ自白シタルモノト見做サルヽ「前既ニ述フルカ如シ然レモ法律ノ精神ハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ一々之ヲ陳述セヨト言フニアラス全躰ノ陳述ヲ一括シテ其爭フノ意志ナルヤ將タ或ル部分ニ對シテ爭ハサルノ意志ナルヤ否ヤヲ見ルハ判事ノ自由ナル心證ニ在ルモノトス假令又相手方ノ主張シタル事實ニ對シ喋々之ヲ辯駁スト雖モ之ヲ以テ其事實ハ虛欺ニ出テタルモノナリト推定ス可ラス其虛僞ノ陳述ナルヤ否ヤ等ヲ甄別シテ眞正ノ事實ヲ見出スルコトハ事實裁判官ノ自由ナル心證ニ在ルモノトス

本條第三項ノ不知ノ陳述トハ如何ナルヿヲ云フヤ不知ノ陳述トハ相手方ノ主張シタル事實ニ對シ單ニ知ラスト陳述スルヲ云フ斯ク知ラスト陳述スルハ果シテ相手方ノ主張ヲ爭フノ意志ナルヤ將タ認諾スルノ意思ナルヤ得テ之ヲ知ル可ラス故ニ只知ラスト陳述スルヲ許サヽルナリ然レモ原告若クハ被告カ自己ノ行爲ニアラス又ハ自己ノ實驗シタルモノニアラサル事實ニ限リテ單ニ知ラスト答フルコトヲ許

スナリ此ノ二個ノ場合ノ如キハ有形的ニ生シタル他人ノ所爲ニ係ルヲ以テ實際知ラサルトキハ單ニ知ラスト答フルヨリ他ニ其途ナシ故ニ此ノ場合ニ於ケル不知ノ陳述ハ即チ相手方ノ主張シタル事實ヲ爭ヒタルモノト見做ス是レ當然ノ法理ナリ

第百十二條　裁判長ハ職權上調査ス可キ點ニ關シ相手方ヨリ起ササル疑ノ存スルトキハ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコトヲ得

裁判長ハ問ヲ發シテ不明瞭ナル申立ヲ釋明シ主張シタル事實ノ不十分ナル證明ヲ補充シ證據方法ヲ申出テ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシム可シ

陪席判事ハ裁判長ニ告ケテ問ヲ發スルコトヲ得

當事者ハ相手方ニ對シ自ラ問ヲ發スルコトヲ得ス然レトモ其問ヲ發ス可キ旨ヲ裁判長ニ求ムルコトヲ得

若シ其問ニ對シテ答ヘス又ハ判然答ヘサルトキハ相手方ノ利益ト爲ル可キ答ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

〔義解〕（一一六）本條第一項ハ裁判長ノ職權ヲ以テ調査スルノ必要アルトキハ之ヲ調査スルノ權アル所以ヲ示シタルモノナリ即チ其訴ヘタル事件ハ果シテ管轄ナルヤ訴訟能力法律上代理人タル資格及ヒ訴訟ヲ爲スニ必要ナル能權ノ欠缺ナキヤ又此ノ事件ハ故障控訴上告抗告及ヒ再審ヲ許ス可キヤ否ヤ等ヲ調査スルモノナリ此ノ調査ハ相手方ニ於テモ之ヲ爲シ得ルト雖モ若シ相手方ヨリ之ヲ申立テサルトキハ判

事ハ職權ヲ以テ之ヲ調査ス可キモノトス本條第一項ニ其疑ニ付キ注意ヲ爲スコトヲ得トアルヲ以テ調査スルトセサルトハ判事ノ自由ナルカ如シト雖モ立法ノ精神決シテ然ラス苟モ當事者ノ資格等ニ關シテ疑ヒアルトキハ職務上之ヲ調査セサル可ラス何トナルニ若シ訴訟能力者ニアラサル者ニ係ルトキハ其裁判言渡ハ無効ニ歸ス可キヲ以テ豫メ裁判所ハ之ヲ調査スルノ必要アルナリ

第二項ハ殆ソト言フニ及ハサルノ事ヲ規定セシモノナリ何トナルニ不明瞭ナル申立ニ對シテ尙ホ之ヲ質シ不十分ナル證明ニ向テ之ヲ補充シ其他事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシムルコトハ當然裁判長ノ爲ス可キ職務ニシテ法律ノ規定ヲ俟ツヲ要セサルナリ判事カ訴訟ノ關係ヲ質問シテ其事實ノ連絡ヲ極ムルニアラスンハ自己ノ心證ヲ作ルヿ能ハサル可シ心證ヲ作ルヿ能ハスンハ正當適實ナル

裁判ヲ下スコトヲ得サルナリ或ハ此ノ事ヲ目シテ判事ハ當事者ノ行爲ニ干渉セストノ原則ニ牴觸スルモノナリト言フモノアラン然レトモ決シテ不干渉ノ原則ニ牴觸スルモノニアラス判事カ當事者ノ行爲ニ干渉セスト言ヘルノ原則ハ即チ當事者ノ意志ニ反シテ干渉スルコトヲ得スト言フノ意ナリ故ニ當事者ノ意志ニ適スルノ質問ヲ爲シ其不十分ナルノ點ヲ探究スルカ如キハ實ニ判事ノ職務ナリトス

茲ニ法理上ノ探究ヲ要ス可キモノアリ判事ハ事件ニ付キ自ラ證據ヲ集ムルノ權アルヤ否ヤ之ヲ換言セハ當事者ノ申立ノミニテハ未タ事件ヲ判決スルニ不十分ナリト思考スルトキハ自ラ證據ヲ集メテ判決ノ材料ニ供スルコトヲ得ルヤ此ノ事ニ付キテハ多少ノ議論アル可シト雖モ余ハ斷シテ判事ハ此ノ權ナシト思考スルナリ民刑ノ裁判官ヲ問ハス訴ヘナケレハ審理セストノ原則ニ從ハサル可ラス又判事ハ當事

者ノ申立ニ依テ判決スルトノ原則ニ從ハサル可ラス去レハ判事カ自ラ證據ヲ蒐集シテ判決スルノ材料ト爲スヲ得サルヿ明カナリ本條第二項ニモ事件ノ關係ヲ定ムルニ必要ナル陳述ヲ爲サシムル可シト言ヒテ自ラ證據蒐集ノ事ヲ言ハサルハ即チ判事ハ自ラ證據ヲ集ムルノ權ナキコトヲ知ルニ足ル故ニ當事者ノ申立ニシテ如何ニ不十分ナリト雖モ其申立ノミニ依テ裁判ス可キモノトス

法廷ノ事ハ凡ヘテ裁判長ノ指揮ニ從ハサル可ラサルヲ以テ陪席判事ト雖モ妄リニ當事者ニ對シテ質問スルヿヲ得ス其問ヒヲ發セントスルトキハ必ス其旨ヲ裁判長ニ告ケサル可ラス然レトモ陪席判事ハ只其問ヒヲ發スル旨ヲ告クルノミニテ其許可ヲ受クルニ及ハス之レニ反シテ當事者カ其相手方ニ對シテ問ヒヲ發セントスルトキハ必ス裁判長ノ許可ヲ受ケサル可ラス自ラ恣ニ問ヒヲ發スルコトヲ得ス是レ裁判審理ノ順序ヲ亂レサラシメンカ爲メナリ然リ而シテ相手方ニ向テ問ヒヲ發シタルニ答ヘス又ハ判然答ヘサルトキハ問ヒヲ發シタル者ノ利益ト爲ル可キ答ヘヲ爲シタルモノト見做スヿヲ得ルナリ是レ亦採證方法ノ一ニシテ其利益ト爲ル可キ答ヘヲ爲シタルモノト見做ス可キヤ否ヤハ判事ノ自由ナル心證ニ於テ之ヲ決ス可キモノトス

第百十三條　事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命、又ハ裁判長若クハ陪席判事ノ發シタル問ニ對シ辯論ニ與カル者ヨリ不適法ナリトシテ異議ヲ述ヘタルトキハ裁判所ハ其異議ニ付キ直チニ裁判ヲ爲ス

〔義解〕(一一七) 本條モ亦タ裁判長ノ行爲ヲ規定セシモノナリ本條ノ事件ノ指揮ニ關スル裁判長ノ命令トハ審理方法ノ命令ニシテ期日指定ノ命令執行力アル正本付與ノ命令假差押假處分ノ命令等ヲ云フニ

アラス此等ハ事件ノ指揮ニ關セサル命令ナルヲ以テ本條ニハ包含セス裁判長カ本條ニ從ヒ口頭辯論ノ指揮ヲ爲スヤ當事者ヨリ其指揮ヲ不適法ナリトシテ異議ヲ述ヘタルトキハ其異議ニ付キ直チニ之ヲ裁判ス可キモノトス然シテ此ノ裁判ニ向テハ抗告ヲ爲スヿヲ許サス是レ審理方法ハ裁判長ノ權內ニ在ルヲ以テ何人モ之ヲ攻擊スルヿヲ得サルナリ

第百十四條　裁判所ハ事件ノ關係ヲ明瞭ナラシムル爲メ原告若クハ被告ノ自身出頭ヲ命スルコトヲ得

第百十五條　裁判所ハ原告若クハ被告ノ援用シタル證書ニシテ其手中ニ存スルモノヲ提出ス可キヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ外國語ヲ以テ作リタル證書ニ付テハ其譯書ヲ添附ス可キヲ命スルコトヲ得

第百十六條　裁判所ハ當事者ノ所持スル訴訟記錄ニシテ事件ノ辯論及ヒ裁判ニ關スルモノヲ提出ス可キヲ命スルコトヲ得

第百十七條　裁判所ハ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルコトヲ得

此手續ハ申立ニ因リ命スル檢證及ヒ鑑定ニ付テノ規定ニ從フ

〔義解〕（一一八）此ノ四個條ハ審理方法ノ一ニ屬スル裁判所ノ行爲ヲ示シタルモノナリ夫レ當事者ハ辯護士ヲ以テスルモ又自身出頭スルモ其選フ所ニアレトモ裁判所ハ特ニ本人ニ出頭ヲ命スルヿヲ得ルナリ即チ財產權上ノ訴訟ニアラサル離婚等ノ場合ニ於テハ事實探究ノ爲

メ本人ノ出廷ヲ必要トスルアルナリ其他事件ノ性質ニヨリ又ハ模様ニヨリテ本人ノ出廷ヲ必要トスルキハ訴訟代理人ノ之レアルニ係ハラス自身出頭ヲ命スルヿヲ得ルナリ

第百十五條ハ證書ノ提出ヲ命スルヿヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ謄本ノミニテハ未タ能ク其眞僞ヲ判スルコト能ハサル可シ故ニ原告若クハ被告ノ援用シタル證書ニシテ其手中ニ存スルモノヲ提出セシムルヿヲ得ルナリ又裁判所ハ相手方ノ手中ニ存スル證書ニシテ之ヲ己レノ證據ト爲サントスルノ申立アルトキハ第三百三十八條以下ノ規定ニ從ヒ相手方ニ證書ノ提出ヲ命スルヿヲ得ルナリ例ヘハ甲者カ乙者ノ地所ヲ占有スルヿ十數年未タ時効ニ至ラス乙者ヨリ地所取戻ヲ訴ヘタルニ甲者之レニ答フルニ正權原即チ賣買ニ依テ所有權ヲ得タルヿヲ以テセリ此ニ於テ乙者ヨリ證書ノ提出ヲ請求スルヿヲ得即チ甲者カ果シテ賣買ニ由テ地所ヲ得タルヤ之ヲ得タルモノナラハ地所賣渡證ヲ所持スルナラン其賣渡證ノ提出ヲ申立ツルカ如キハ相手方ノ手中ニ存スル證書ヲ以テ己レノ證據ニ供セントスルモノナリ

第二項ノ外國語ヲ以テ作リタル證書ニ付テハ其譯書ヲ添付ス可キヿヲ命スル所以ハ裁判所構成法ノ主義ヨリ出テタルモノナリ即チ日本ノ裁判所ニ於テハ日本語ヲ用フルノ制規ナレハナリ

第百十六條ノ當事者ノ所持スル訴訟記錄トハ原告若クハ被告カ訴訟事件ニ付キ自己ノ爲メニ作リ又ハ辯護士等ニ作ラシメタル書類ヲ云フ此等ハ公ケニ法廷ニ差出スモノニアラサルモ事件ノ取調上必要ナリト思考スルキハ裁判所ハ特ニ其提出ヲ命スルコトヲ得ルナリ然レトモ官廳又ハ公吏ノ手ニ存スル記錄ノ提出ハ判事ノ職權ヲ以テ其提出ヲ命スルヿヲ得ス何トナレハ判事自ラ證據ヲ集メテ判決ノ材料ニ供

スルヿハ民事訴訟法ノ主義ニ反スルモノナレハナリ

第百十七條ノ檢證及ヒ鑑定ヲ命スルヿノ規定ヲ見テ忽チ不干渉主義ノ原則ニ反スルモノナリト非難スルモノアラン然レトモ是レ決シテ不干渉主義ノ原則ニ反スルモノニアラス檢證ハ係爭物ニ付キテ之ヲ實驗スルヲ云ヒ鑑定ハ特別ノ智識ヲ有スル者ニ命シテ其性質如何ヲ鑑定セシムルヲ云フ此等ハ當事者ヨリ已ニ申立テタルモノニシテ只判事ハ其申立テタルモノニ對シ證據調ヲ爲スニ過キス即チ他ノ證據調ヲ爲スト其性質敢テ異ナルコトナシ故ニ不干渉主義ニ反スルヿナキナリ

第百十八條　裁判所ハ一箇ノ訴ニ於テ爲シタル數箇ノ請求又ハ本訴及ヒ反訴ニ付テノ辯論ヲ分離シテ爲ス可キヲ命スルコトヲ得

【義解】（一一九）本條ハ審理ノ錯雜ヲ避ケンカ爲メニ訴訟ヲ分離シテ取調フルヿヲ判事ニ許シタルモノナリ夫レ訴訟ハ必スシモ一人ニ對シテ一事件ヲ訴フルモノニアラス或ハ第百九十一條ノ規定ニ從ヒ同一ノ被告人ニ對シテ數箇ノ請求ヲ爲スコトアル可ク或ハ第四十八條ニ從ヒ數人ヨリ數人ニ對シテ訴ヘヲ起スコトアル可ク或ハ反訴或ハ附帶ノ訴ヘヲ爲スコトアル可シ此等事件ノ併合アル場合ニ於テハ審理ノ明瞭ヲ失ハサランカ爲メ之ヲ一個ツヽ分離シテ取調フルノ必要アル可シ斯ク個々分離シテ取調ヘタルトキハ其判決ハ如何ス可キヤト云フニ他ノ部分ニ影響ノ及ハサルモノニ在テハ既ニ取調ヘ終リタル事件ニ對シ個々ニ裁判言渡ヲ爲スヿヲ得ルナリ其取調ヘモ分離シ判決モ個々ニ言渡シタルトキハ各別ノ訴訟ナルカ如キ形狀ヲ顯ハスト雖モ各別ノ訴訟ナリト言フ可ラス其訴ハ一ナルヲ以テ事件ノ受附番

號モ即チ一ナリ故ニ權利拘束ハ辯論分離ノ爲メニ新ニ生スルモノニアラス最初附ヘテ起シタ其訴訟ヲ相手方ニ送達シタルトキヨリ權利拘束ノ効ヲ生スルモノトス

茲ニ法理上注意ス可キノ事項アリ彼ノ訴ト請求ト權利トノ三者ヲ混同ス可ラサルヿ是レナリ權利ハ根原ニシテ請求ハ權利ヨリ生ス然シテ訴ヘハ請求ヲシテ滿足ヲ得セシムル爲メノ方法ナリ去レハ裁判所ニ向テ一ノ請求ヲ爲スト雖モ必スシモ權利アリト推測ス可ラス權利ハ無形的ニ屬シ其果シテ權利アルヤ否ヤハ審理ノ後ニアラスンハ之ヲ知ル可ラス然レトモ訴ヘヲ提起シテ請求ヲ爲スコトハ權利ナキモ尙ホ之ヲ爲スコトヲ得可シ只其効果ヲ生セサルノミ去レハ訴ヘハ一ノ方法ニシテ權利ニアラス請求ハ權利ノ作用ニシテ根原ニアラサルナリ

第百十九條　同一ノ請求ニ關シ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタルトキハ裁判所ハ先ツ辯論ヲ其一ニ制限ス可キヲ命スルコトヲ得

〔義解〕（一二〇）本條モ亦審理行爲ヲ規定セシモノナリ數箇ノ獨立ナル攻擊トハ原告ヨリ請求スルノ方法ヲ云ヒ防禦トハ被告ヨリ抗辯スルノ方法ヲ云フ此等攻擊及ヒ防禦ノ方法カ同一ノ請求ニ關シテ數箇アルトキハ裁判所ハ其錯雜ヲ避クルカ爲メ一ニニ制限ス可キヲ命スルコトヲ得ルナリ本條ニ所謂同一ノ請求ニ對シテ數箇ノ獨立ナル攻擊及ヒ防禦ノ方法ヲ提出シタルトキトハ如何ナル場合ヲ云ヒタルモノナルヤ曰ク數箇ノ獨立ナル方法トハ攻擊及ヒ防禦ノ理由數箇アル場合ヲ云フ尙ホ之ヲ換言スレハ攻擊若クハ防禦ノ方法ニシテ之レニ依リ發生スル爭

點ヲ各個ノ請求ノ如ク獨立ノ訴訟トシテ審理スルヿハ適當ナラサルモ其爭點ノ辯論ヲ分離シテ裁判シ得ル場合ヲ云フナリ例ヘハ行政官ノ爲シタル行政所爲ニ對シ損害要償ヲ司法裁判所ニ訴ヘ出テタルトキ其行政官ハ抗辯シテ曰ク第一予カ爲シタル行政所爲ハ決シテ不當ニアラス當サニ法律命令ノ範圍ニ於テ爲シタルモノナリ第二假令其行政所爲不當ナリトスルモ尙ホ損害ノ責任ナシ何トナレハ行政官ノ所爲ハ公權ノ作用ニ依テ爲シタルモノナレハ則チ司法裁判所ニ於テ審理判決スルヿヲ得ス第三若シ又此等ノ所爲ヲ司法裁判所ニ於テ審理判決スルヿヲ得ルトスルモ損害計算ノ額ニ於テ不當ナリト斯ク爭點ノ辯論ヲ數箇ニ提出シタルトキハ裁判所ハ其爭點ヲ一二ニ制限シテ裁判ヲ下スヿヲ得ルナリ

第百二十條　裁判所ハ同一ノ人又ハ別異ノ人ノ數箇ノ訴訟ニシテ其裁判所ニ繫屬スルモノノ辯論及ヒ裁判ヲ併合ス可キヲ命スルコトヲ得但其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一箇ノ訴ニ於テ主張シ得可キトキニ限ル

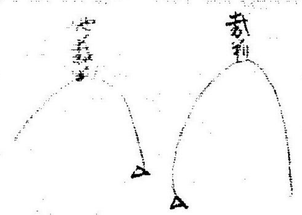
〔義解〕（一二一）本條ハ便宜ノ爲メ訴訟ヲ併合シテ審理シ得ルヿヲ定メタルモノナリ訴訟ヲ併合シテ審理スルニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一　同一ノ裁判所ニ數箇ノ訴訟起リタルヿ

第二　其訴訟ノ目的物タル請求ヲ一箇ノ訴ニ於テ主張シ得可キヿ

此ノ二條件具備スルニ於テハ訴訟ヲ併合シテ審理スルヿヲ得ルナリ其數箇ノ訴訟起リタルハ同一ノ裁判所ナルヿヲ要ス數箇ノ訴訟ニシテ別々ノ裁判所ニ起リタルトキハ之ヲ併合スルヿヲ得ス何トナレハ各裁判所ハ各管轄權ヲ有シテ正當ニ別々ノ事件ヲ受理シタルモノナレ

ハナリ又其訴訟ノ目的物タル請求ヲ元來一個ノ訴ニ於テ主張シ得可キヲ要スル所以ハ素ト性質ノ異ナリタル訴ヘニシテ併合シ能ハサルモノニ係ルトキハ實地上之ヲ併合スルヿヲ得サルナリ例ヘハ通常貸金ノ訴訟ト爲換手形ノ訴訟ト同時ニ同一ノ裁判所ニ起ルモ之ヲ併合シテ審理スルヿヲ得ス又後見人解除ノ訴ヘト養子離別ノ訴ヘト同時ニ同一ノ裁判所ニ併起スルモ之ヲ併合スルヿヲ得ス又民法ニ於テ其併合ヲ許サヽルモノアリ即チ所有本權ノ訴ト占有訴權ノ訴ト併起スルモ之ヲ併合シテ同時ニ取調フルヿヲ得サルナリ故ニ其併合シ得可キハ同一ノ性質ニ係ル數個ノ訴訟ナルヿヲ要スルモノトス例ヘハ同一ノ人ニ對シテ數口ノ貸金ヲ別々ニ訴ヘタルカ如キ又原告一人ヨリ數人ノ人ニ係リテ別々ニ貸金催促ヲ訴ヘ出テタルカ如キ場合ハ便宜上之ヲ併合シテ取調フルヿヲ得ルナリ



第百二十一條　裁判所ハ訴訟ノ全部又ハ一分ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ「定マル可キ權利關係」成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ他ノ訴訟ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可シ

第百二十二條　裁判所ハ民事訴訟中罰ス可キ行爲ノ嫌疑生スルトキハ刑事訴訟手續ノ完結ニ至ルマテ辯論ヲ中止ス可シ但其罰ス可キ行爲カ訴訟ノ裁判ニ影響ヲ及ホストキニ限ル

〔義解〕（一二二）此ノ二个條ハ他ノ訴訟ノ完結ニ依リ影響ヲ及ス場合ニ於テ訴訟手續ノ中止ヲ命ス可キ義務ヲ裁判所ニ命シタルモノナリ然シテ前條ハ民事ト民事トノ訴訟併存ニシテ第百二十二條ハ民事ト刑事トノ訴訟併存ノ場合ナリ

第百二十一條ノ訴訟ノ全部又ハ一部ノ裁判カ他ノ繫屬スル訴訟ニ於テ定マル可キ權利關係ノ成立又ハ不成立ニ繫ルトキハ只ニ純粹ノ民事訴訟ノミナラス行政訴訟ノ併存ヲモ包含スルモノナリ例ヘハ占有取戻ノ訴ヘヲ區裁判所ニ提起シ所有權回復ノ訴ヘヲ地方裁判所ニ提起シタル場合ニ於テ地方裁判所ハ民法財產編第二百八條ノ規定ニ從ヒ占有ノ訴ノ判決確定ニ至ル迄本權ノ訴訟ノ訴訟手續ヲ中止セサル可ラス是レ占有ノ判決ニ依テ本權ノ判決ニ影響ヲ及スニ依ル又私書檢眞ノ訴ヘヲ地方裁判所ニ起シ其私書ニ記シタル百圓以下ノ貸金ヲ區裁判所ニ訴ヘ出テタルトキハ其私書ノ檢眞如何ニ依テ貸金催促ノ訴ニ影響ヲ爲スコヨリ其檢眞ノ訴ノ結了ニ至ル迄區裁判所ハ辯論ヲ中止セサル可ラス以上ハ民事件ニ對シテ訴訟併起ノ場合ナリトス民事件ト行政事件トノ場合ヲ示サンニ官民有區分ノ査定ニ付キ誤リアルトキハ地方長官ヲ對手人トシテ行政裁判所ニ訴ヘ出ツルヿヲ得ルナリ此ノ場合ニ於テ一方ハ行政裁判所ニ向ヒ區分査定訂正ノ訴ヘヲ起シ一方ハ地方裁判所ニ向ヒ損害要償ヲ訴ヘ出テタルトキハ地方裁判所ハ勢ヒ其辯論ヲ中止セサル可ラス何トナレハ行政裁判所ニ起シタル訴訟カ果シテ正當ナルヤ否ヤヲ見ルニアラスンハ未タ損害要償ノ原因ヲ知ル可ラサルヲ以テ之ヲ判決スルヿヲ得サルナリ

第百二十二條ハ同一原因ノ事件ニ對シ民事裁判所ト刑事裁判所トニ於テ二個以上ノ訴訟併起シタル場合ニシテ例ヘハ公正證書眞否確定ノ訴ヘヲ民事裁判所ニ訴ヘタルニ訴訟ノ進行中其公正證書ハ全ク僞造ナリトノ事跡生シタルトキハ檢事ハ公訴ヲ起スニヨリ其公訴ノ完結ニ至ル迄民事ノ辯論ヲ中止スルカ如キヲ云フ去レハ第百二十一條ニ依テ辯論ノ中止ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ要ス

第一　他ノ裁判所ニ於テ確定ス可キ權利關係ノ裁判ハ自己ノ裁判所ニ繫屬スル訴訟ノ豫先ノ裁判ト爲ル可キヿ

第二　其繫屬スル訴訟ハ原因ヲ同フスルヿ

第三　他ノ訴訟カ既ニ他ノ裁判所ニ繫屬スルヿ

又第百二十二條ノ場合ニ於テ辯論ヲ中止センニハ左ノ條件ヲ要ス

第一　民事訴訟ノ進行中罰ス可キ行爲ノ生シタルヿ

第二　民事裁判ト其罰ス可キ行爲トハ其原由ヲ同フスルヿ

第三　刑事裁判ノ判決如何ハ民事裁判ノ豫先ノ裁判ト爲ルヿ

斯ク各三條件ノ具備ヲ必要トス予カ殊更ニ其原因ヲ同フスルコトヲ條件トセシ所以ノモノハ更ニ其訴訟ノ原因ヲ同フセス少シモ連絡ノ筋合ナキトキハ痛痒相關セサルヲ以テ辯論ヲ中止スルノ場合ヲ生スルコトナシ其原因ヲ同フスレハコソ其結果ニ至リ影響ヲ及スモノトス

第百二十三條　裁判所ハ分離若クハ併合ニ關シ發シタル命ヲ取消スコトヲ得

第百二十四條　裁判所ハ閉チタル辯論ノ再開ヲ命スルコトヲ得

〔義解〕（一二三）訴訟爭點ヲ分離スルノ命ヲ發シ又ハ訴訟ヲ併合スルノ命ヲ發スルハ全ク裁判長ノ權内ニ在ル審理方法ニ屬スルヲ以テ之ヲ取消スヿモ亦裁判長ノ權内ニ在リトス又口頭辯論ヲ終結スト雖モ事實ノ點ニ付キ不明瞭ナルトキハ辯論ノ再開ヲ命スルヿヲ得ルナリ是レ亦判事ノ權内ニ在リトス

當事者ヨリ辯論ノ再開ヲ請求スルヿヲ得ルヤ曰ク事實ノ陳述ニ對シ遺脫シタル所アルカ爲メ當事者ヨリ辯論ノ再開ヲ請求スルトキハ其事

情ニ依リ之ヲ許スヲ相當ナリトス之ヲ斟酌シテ許否スルハ亦判事ノ權內ニ在リトス

第百二十五條　裁判所ハ辯論ニ與カル者日本語ニ通セサルトキハ通事ヲ立會ハシム但裁判所構成法第百十八條ノ場合ハ此限ニ在ラス

第百二十六條　裁判所ハ辯論ニ與カル者聾又ハ啞ナルトキ之ニ文字ヲ以テ理會セシムルコトヲ得サル場合ニ限リ通事ヲ立會ハシムルコトヲ得

〔義解〕(一二四)本條ノ辯論ニ與ルモノトハ必要ト認メテ口頭辯論ニ呼出シタルモノヲ云フ當事者、證人、鑑定人、事實參考人ノ如キ是レナリ是等ノ者日本語ニ通セサルトキハ通事ヲシテ其言語ヲ取次カシムル然リ而シテ裁判所構成法第百十八條ノ場合トハ當事者外國人ニシテ其訴訟ニ參與スル官吏モ外國語ニ通スル場合ニ於テ便利ノ爲メ外國語ヲ以テ口頭審問ヲ爲スヿヲ得ル場合ヲ云フ此等ハ素ト變則ニ出ツルヲ以テ其公正ノ記錄ハ日本語ヲ以テ作ラサル可ラス構成法第百十八條ハ第百十五條ノ裁判所ニ於テハ日本語ヲ用フ可シト云ヘル原則ノ變例ナリトス

第百二十六條モ前條ト同シク通事ヲ用ヒテ其言語ヲ取次カシムル場合ノ一ニシテ他ニ云々ス可キモノナシ

第百二十七條　裁判所ハ相當ノ演述ヲ爲ス能力ノ缺ケタル原告若クハ被告又ハ訴訟代理人若クハ補佐人ニ其後ノ演述ヲ禁シ且新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ演述セシム可キコトヲ命ス可シ

裁判所ハ裁判所ニ於テ辯論ヲ業トスル訴訟代理人

若クハ補佐人ヲ退斥セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ新期日ヲ定メ且退斥ノ決定ヲ原告若クハ被告ニ送達ス可シ

本條ノ規定ニ從ヒ爲シタル命ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

辯護士ニハ本條ノ規定ヲ適用セス

〔義解〕(一二五) 本條ハ訴訟能力ヲ失フタルモノニ適用スルニアラスシテ演述ノ能力ヲ失フタル者ニ適用スルノ法條ナリ夫レ裁判所ニ於テ相當ノ演述ヲ爲スヿヲ得サル者ニ係ルトキハ事實ノ關係ヲシテ明瞭ナラシムルヲ得ス從テ判事ノ判決材料ヲ作ルヿヲ得サルナリ故ニ若シ演述ノ能力ヲ失フタル者裁判所ニ出頭スルトキハ本人タルト訴訟代理人タルト輔佐人タルトヲ問ハス其後ノ演述ヲ禁スルヿヲ得ルナリ是レ訴訟審理ノ必要ヨリ出テタルモノニシテ訴訟人ハ此ノ決定ニ對シテ不服ヲ申立ツルヿヲ得サルナリ然シテ其演述ノ禁ヲ受ケタル者ハ同事件ニ付キ再ヒ出頭スルヿヲ得サルヲ以テ絶對的ノ禁止ナリ斯ク禁止ヲ爲シタル後ハ訴訟ノ完結ヲ計ルカ爲メ裁判所ハ新期日ヲ定メ辯護士ヲシテ演述セシムル可キモノトス通例ノ場合ニ於テ辯護士ヲ選任スルハ訴訟本人ノ隨意ナレ𪜈此ノ場合ニ於テハ裁判所ヨリ選任スルモノニシテ辯護士ハ相當ノ事故アルニアラスンハ之ヲ辭退スルヿヲ得サルナリ

本條第一項ヲ適用シテ演述ノ禁止ヲ爲サンコハ相當ノ演述ヲ爲ス能カノ缺ケタルヿヲ要ス然レ𪜈第二項ヲ適用シテ退斥ヲ命スルニハ此ノ條件ヲ必要トセス第二項ニ謂フ所ノ裁判所ニ於テ辯論ヲ業トスル訴訟代理人トハ所謂三百代言ト稱スル者ヲ云ヒ辯護士ヲ指スモノニ

アラサルナリ是等及ヒ輔佐人ノ如キハ多クハ健訟ノ弊ヲ釀スノ原因ヲ爲スモノニシテ法律ハ甚タ之ヲ好マサルナリ故ニ判事ニ於テ此等訴訟代人及ヒ輔佐人ノ言ヲ聞カンヨリ却テ本人ヲ審訊スル方審理上便宜ナリト思考スルトキ又ハ法廷ノ秩序上不都合ナリト思考スルトキハ何等ノ條件ヲ要セスシテ退斥ヲ命スルコトヲ得ルナリ凡ヘテ演述ヲ禁スルコト退斥ヲ命スルコト等ハ判事ノ權内ニ在ル審理方法ニ屬スルヲ以テ其命令ニ對シテハ不服ノ申立ヲ許サヽルナリ本條ノ規定ヲ之ヲ辯護士ニ適用スルコトヲ得ス辯護士ハ裁判組織ノ一ニ屬スルヲ以テ判事ト雖モ妄リニ其進退ヲ決スルヿヲ得サルナリ

第百二十八條　辯論ニ與カル者秩序維持ノ爲メ辯論ノ場所ヨリ退斥セラレタルトキハ申立ニ因リ本人ノ任意ニ退去シタルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得但裁判所構成法第百十條ニ因リ中止シタル場合ハ此限ニ在ラス

前條ノ場合ニ於テ禁止又ハ退斥ノ命ヲ受ケタル者再ヒ出頭スルトキハ前項ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フコトヲ得

〔義解〕(一二六) 凡ヘテ訴訟人ハ訟廷ニ於テ尊敬ト沈默トヲ遵守セサル可ラス若シ訴訟人カ靜肅ナラサルカ又ハ誹謗喧噪等ヲ爲ス者アルトキハ裁判長ハ秩序維持ノ爲メニ辯論ノ場所ヨリ退斥ヲ命スルヿヲ得ルナリ斯ク退斥ヲ命セラレタル者ハ申立ニ因リ本人ノ任意ニ退去シタルト同一ノ方法ヲ以テ之ヲ取扱フヿヲ得ルナリ即チ第二百四十六條第二百四十八條等ノ規定ニ從ヒ欠席判決ヲ爲スヿヲ得ルナリ本條ニ申立ニ因リトアルヲ以テ其退斥ヲ命セラレサル一方ヨリ欠席判

決アランコトヲ希望スル旨ノ申立アルコトヲ必要トス此ノ申立ナキトキハ職權ヲ以テモ欠席判決ヲ爲スコトヲ得サルナリ若シ又當事者雙方カ退席ヲ命セラレタルトキハ訴訟ヲ中止スヘキモノトス裁判所構成法第百十條ニ依テ退所ヲ命セラレタル者トハ原告カ審問ヲ妨ケ又ハ不當ノ行狀ヲ爲シタルニヨリ之ヲ退所シ且ツ處罰ノ上尚ホ本人宥恕ヲ請フカ又ハ恭順ヲ表シテ不敬ノ罪ヲ謝スル迄其審問ヲ中止スル場合ヲ云フ此ノ場合ニ於テハ一方ノ申立アリト云フト雖モ欠席判決ヲ爲スノ限リニアラサルナリ

本條第二項ハ演述ヲ禁セラレタル者法廷ヨリ退所セラレタル者カ再ヒ出頭シタルトキノ取扱方法ヲ定メタルモノニシテ別ニ說ク可キコトナシ

第百二十九條　口頭辯論ニ付テハ調書ヲ作ル可シ

調書ニハ左ノ諸件ヲ揭ク可シ

第一　辯論ノ場所年月日

第二　判事裁判所書記及ヒ立會ヒタル檢事若クハ通事ノ氏名

第三　訴訟物及ヒ當事者ノ氏名

第四　出頭シタル當事者、法律上代理人、訴訟代理人及ヒ補佐人ノ氏名若シ原告若クハ被告闕席シタルトキハ其闕席シタルコト

第五　公ニ辯論ヲ爲シ又ハ公開ヲ禁シタルコト

〔義解〕（一二七）裁判所書記カ法廷ニ於テ作リタルモノハ公正證書ノ効力アルヲ以テ最モ丁寧ニ之ヲ記セサル可ラス然シテ書記カ調書ヲ作ルトキハ虛心平氣ヲ以テ之ヲ記シ苟モ推測及ヒ自己ノ意見ヲ加フ

可ラス尙ホ其訴訟進行ニ付テノ辯論調書ハ次條ニ從テ之ヲ記シ本條ハ其法式ヲ示シタルモノトス

第五百三十條　辯論ノ進行ニ付テハ其要領ノミヲ調書ニ記載ス可シ調書ニ記載シテ明確ニス可キ諸件ハ左ノ如シ

第一　自白認諾拋棄及ヒ和解

第二　明確ニス可キ規定アル申立及ヒ陳述

第三　證人及ヒ鑑定人ノ供述但其供述ハ以前聽カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ル

第四　檢證ノ結果

第五　書面ニ作リ調書ニ添附セサル裁判(判決、決定及ヒ命令)

第六　裁判ノ言渡

附錄トシテ調書ニ添附シ且調書ニ附錄トシテ表示シタル書類ニ於ケル記載ハ調書ニ於ケル記載ニ同シ

〔義解〕(一二八)前條ハ調書ニ於ケル形式上ノ事ヲ規定セシモノナリ本條ハ實躰即チ無形的ノ効力ニ付キテ調書ノ記載方ヲ定メタルモノナリ訴訟進行ニ付テノ調書ハ詳細ニ之ヲ記スルヲ要セス其要領ヲ記スルヲ以テ足レリトス尤モ其要領ハ骨子ノ點々ヲ記セサル可ラス就中本條第一ヨリ第六ニ至ル點ヲ記セサル可ラス

第一　自白トハ己レニ不利益ナル權利上ノ結果ヲ生スルヿアル事實ヲ自白スルヲ云ヒ認諾トハ相手方ノ請求ヲ認ムルヲ云ヒ拋棄トハ權

利上ノ目的タル請求ヲ放棄スルヲ云ヒ和解トハ雙方請求ノ一部分ヲ勘辨シテ和解ヲ爲スヲ云フ此等ノ事項ハ訴訟ノ終結ヲ爲スニ於テ必要ノ條件ナルニ依リ之ヲ記載スルヲ緊要トス

第二　明確ニス可キ規定アル申立及ヒ陳述トハ訴訟上必要ノ點ニ付キテノ申立ヲ云フ例ヘハ一定ノ中立事實關係ノ申立ノ如キ是レナリ」

第三　證人及ヒ鑑定人ノ供述ト云ヒテ事實參考人ノ口ヲ言ハサルハ如何蓋シ法律ノ精神ハ事實參考人ノ陳述ハ之ヲ記載スルニ及ハスト言フニアラス事實參考人モ其性質證人ト敢テ異ナルコトナキヲ以テ證人ノ語中ニ事實參考人ヲモ包含セシムルノ意ナル可シ事實參考ノ爲メ之ヲ呼出ス場合ハ第三百十條ニ列記セリ然リ而シテ其事實參考人タルト證人タルト又鑑定人タルトヲ問ハス其供述ハ可成丈精密ニ筆記スルヿヲ要ス然ラスンハ其精神ヲ知ルコト能ハサルナリ又但書ニ所謂以前聽カサルモノナルトキ又ハ以前ノ供述ニ異ナルトキニ限ルトハ如何ナルヿヲ言ハント欲シタルモノナルカ此ノ規定ノ方法タル第一審ト第二審トニ適用センコトヲ言ハント欲シタルモノナリ即チ第一審ニ於テハ初審ナルヲ以テ以前聽キタルモノナク又以前ノ供述ニ異ナルノ陳述ナシ故ニ初審ニ於テハ其全部ヲ調書ニ記載セサル可ラス然レトモ第二審ニ到ルトキハ但書ノ必要ヲ見ルコトアル可シ何トナルニ第一審ニ於テ既ニ證人鑑定人ヲ訊問シタルヿアル可キヲ以テ控訴審ニ於テ聽ク可キノ要ハ第一審ニ於テ聽カサルノ事項及ヒ以前ノ供述ニ異ナルノ事項ニ在リトス此ノ故ニ但書ハ第二審ニ適用スルノ意ナルヿヲ知ル可シ

第四　檢證ノ結果トハ第三百五十七條以下ノ規定ニ從ヒテ爲シタル結果ヲ調書ニ記スルヲ云フ

第五　裁判トハ正本ヲ調書ニ添付セサル裁判ヲ云フ即チ判決決定及ヒ命令ノ如キハ書面ニ作リテ之ヲ添付セサルニヨリ其言渡ノ主點ヲ調書ニ記載スルヲ必要トス

第六　裁判ノ言渡トハ第二百三十三條第二百三十四條等ニ依テ判事ノ言渡シタル裁判ヲ調書ニ記スルヲ云フ

本條末項ノ附錄トシテ調書ニ添附シ且調書ニ附錄トシテ表示シタル書類ニ對シ調書ト同一ノ効力ヲ得セシムル所以ノモノハ判事カ之ヲ認メテ書記ニ付シタル以上ハ裁判所內ニ於テ陳述シタル事項ノ調書ト同一ノ効力ヲ生スルニ至ルカ故ナリ

第百三十一條　前條第一號乃至第四號ニ揭ケタル調書ノ部分ハ法廷ニ於テ之ヲ關係人ニ讀聞カセ又ハ閱覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示ス

調書ニハ前項ノ手續ヲ履ミタルコト及ヒ承諾ヲ爲シタルコト又ハ承諾ヲ拒ミタル理由ヲ附記ス可シ」

第百三十二條　調書ニハ裁判長及ヒ裁判所書記署名捺印ス可シ

裁判長差支アルトキハ官等最モ高キ陪席判事之ニ代リ署名捺印ス區裁判所判事差支アルトキハ其裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ足ル

〔義解〕（一二九）調書ヲ法廷ニ於テ公然之ヲ讀聞セ又ハ閱覽ノ爲メ之ヲ關係人ニ示ス所以ノモノハ其誤謬ナキヿヲ訂サンカ爲メナリ故ニ若シ之ヲ讀ミ聞カスルヿナク又ハ閱覽ヲ許サヽルキハ違法ノ所爲ニシテ其調書ハ證據力ヲ有セス若シ又之ヲ關係人ニ示シタルキ關係人ニ於テ之ヲ認メサルノ事項ヲ書記カ强ヒテ之ヲ訂正セサルキハ如何

ト云フニ之レ亦違法ノ所爲ナルヲ以テ其調書ハ無効タリ證據力ヲ有セサルナリ

調書ニハ其公正ヲ證スルカ爲メニ裁判長及ヒ書記署名捺印セサル可ラス裁判長差支アルトキハ陪席判事ノ署名捺印ヲ以テ足レリトス區裁判所ハ單獨ノ判事ナルヲ以テ其裁判ヲ爲シタルノ判事差支アルトキハ書記ノ署名捺印ヲ以テ足レリト爲スナリ

第百三十三條　受命判事若クハ受託判事又ハ區裁判所判事カ法廷外ニ於テ爲ス審問ニモ亦裁判所書記ヲ立會ハシム

前四條ノ規定ハ右ノ審問調書ニ之ヲ準用ス

〔義解〕《ヤ三〇》受命判事トハ合議裁判所ノ或ル部員ノ一員ニシテ組合裁判長ノ命ヲ受ケ特別ニ或ル部分ノ取調ヲ爲ス判事ヲ云ヒ受託判事トハ他ノ裁判所ノ囑托ニ因リ或ル部分ノ取調ヲ爲ス判事ヲ云フ此ノ囑托ヲ受クル判事ハ裁判所構成法第百三十一條ニヨリ別ニ法律ニ定メタル場合ノ外ハ所要ノ事務ヲ取扱フ可キ地ノ區裁判所判事ナリトス此等ノ判事カ裁判所外ニ於テ審問ヲ爲スニ付キテモ其公正ヲ證スルカ爲メニ書記ヲシテ之レニ立會ハシメサル可ラス是レ當然ノ事ナリトス又本條ニ於ケルカ如キ口頭辯論外ノ審問ニ付テモ事情ノ許ス限リハ口頭辯論ノトキニ於テ作ル可キ調書ノ規則ヲ適用スルヲ可ナリトス

第百三十四條　口頭辯論ノ爲メ規定シタル方式ノ遵守ハ調書ヲ以テノミ之ヲ證スルコトヲ得

第百三十五條　此法律ニ從ヒ口頭ヲ以テ訴抗告申立申請及ヒ陳述ヲ爲シ又ハ證言ヲ拒ム場合ニ於テハ

裁判所書記ハ其調書ヲ作ル可シ

〔義解〕(一三一) 第百三十四條ハ調書ノ證據力ヲ示シタルモノニシテ第百二十九條第百三十一條ノ法式ニ背キタルトキハ此ノ調書ヲ以テ違法ノ證據ト爲スヿヲ得ルナリ例ヘハ定數ノ判事立會ハサルトキ辯論ヲ公開セサルトキ等ハ上告ノ原由ト爲ル可キモノナルヲ以テ此ノ調書ニ因リテ證據ヲ立ツルヿヲ得ルナリ調書ハ公正證書ノ効力アルモノナルヲ以テ僞造ノ訴ヘアル迄ハ眞正ノモノト見做サヽル可ラス

第百三十五條ニ所謂此ノ法律ニ於テ口頭ヲ以テ訴ヘヲ爲シ得ル場合トハ口頭ヲ以テ訴ヘノ提起ヲ許スモノヲ云フ其場合左ノ如シ

第一　反訴ハ口頭辯論中口頭ヲ以テ爲スヿヲ得(第二百一條)

第二　區裁判所ニ於ケル訴(第三百七十四條)

第三　訴訟カ區裁判所ニ繫屬シ若クハ曾テ繫屬シタルトキ又ハ證人鑑定人ヨリ若クハ證書ヲ提出スル義務アリト宣言ヲ受ケタル第三者ヨリ抗告ヲ爲ストキ(第四百五十七條)

第四　訴ヲ起サントスル者ハ和解ノ爲メ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ其呼出ス可キヿヲ申立ツルヿヲ得(第三百八十一條)

第五　債務者ハ支拂命令ニ對シ書面又ハ口頭ヲ以テ異議ノ申立ヲ爲スヿヲ得(第三百八十八條)

第六　執行力アル正本ヲ求ムル申立ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得(第五百十六條)

第七　公示催告ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得(第七百六十五條)

第八　管轄指定ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ爲スヿヲ得(第二十八條)

第九　忌避ノ申請ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヿヲ得(第三十五條)

第十　訴訟無能力者又ハ相續人ノ未定ノ遺產又ハ不分明ナル相續人ニ對シ訴ヲ起ス可キ場合ニ於テ法律上代理人アラサルトキハ其事件ノ繫屬ス可キ裁判所ニ書面又ハ口頭ヲ以テ特別代理人選定ノ事ヲ申請スルヿヲ得(第四十六條)

第十一　本訴訟ハ第一審ニ繫屬スルト上級審ニ繫屬スルトヲ問ハス原告被告若クハ主參加ノ申立ニ因リ主參加ニ付テノ權利拘束ノ終ニ至ル迄書面又ハ口頭ヲ以テ中止ノ申請ヲ爲スヿヲ得(第五十二條)

第十二　費用額確定ノ申請(第八十四條)

第十三　訴訟上救助ノ申請(第九十三條)

第十四　期日ノ變更期限ノ短縮若クハ伸張ニ付テノ申請(第百七十一條)

第十五　訴訟手續中止ノ申請(第百八十五條)

第十六　證人ノ不參屆及ヒ決定取消ノ申請(第二百九十五條)

第十七　證人忌避ノ申請(第三百四條)

第十八　證據保全ノ場合ニ於ケル申請(第三百六十六條)

第十九　支拂命令ノ申請(第三百八十四條)

第二十　差押命令ノ申請(第五百九十六條)

第廿一　假差押ノ申請(第七百四十條)

右ノ外陳述ヲ爲シ又ハ證言ヲ拒ム場合等ニ於テハ凡ヘテ之ヲ調書ニ其言ヲ記ス可キモノトス

第二節　送達

(義解)(一三二)　送達トハ書類ノ送達ヲ適式ニ爲ス所ノ規定ヲ云フ書

類ノ送達ハ甚タ必要ニシテ凡ヘテ權利上ノ關係ハ此ノ書類ノ送達ニ依リテ生スルモノナリ故ニ書類送達ノ効果如何ト云ハヽ左ノ効果ヲ生スルモノト答フ可シ

第一　書類ノ送達ニ依テ確定物ノ債務者ヲ遲滯ニ付ス

第二　書類ノ送達ニ依テ無利息ノ債權ニ利息ヲ生セシム

第三　書類ノ送達ニ依テ時効ノ經過ヲ中斷セシム

第四　書類ノ送達ニ依テ善意ノ占有者ヲシテ惡意ノ占有ト爲ラシム

以上民法上ノ効果ナリ訴訟法上ノ効果モ亦少カラス即チ左ノ如シ

第一　書類ノ送達ニ依テ權利拘束ノ効ヲ生ス(第百九十五條)

第二　適法ノ送達ニ依テ呼出ノ効ヲ生ス(第百六十一條)

第三　欠席判決書ノ送達ニ依テ故障期限ノ經過ヲ始ム(第二百五十五條)

第四　裁判言渡書ノ送達ニ依テ上訴期限ノ經過ヲ始ム(第四百條以下)

書類ノ送達ハ民法上訴訟法上共ニ緊要ナル効果ヲ生スルヲ以テ其任ニ當ル者ハ最モ愼ミテ適法ニ勉メサル可ラサルナリ

第百三十六條　送達ハ裁判所書記職權ヲ以テ之ヲ爲サシム

裁判所書記ハ執達吏ニ送達ノ施行ヲ委任シ又ハ送達ヲ施行ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任ス可キコトヲ囑託ス

裁判所書記ハ郵便ニ依リテモ亦送達ヲ爲サシムルコトヲ得

第二項ノ場合ニ於テハ執達吏又第三項ノ場合ニ於テハ郵便配達人ヲ以下ニ規定スル送達吏ト爲ス

〔義解〕(一三三) 書類ノ送達ヲ分テ二種ト爲ス曰ク直接ノ送達曰ク間接ノ送達是レナリ直接送達トハ本人又ハ代理人カ執達吏ニ託シテ書類ヲ直接ニ相手方ニ送達スルヲ云ヒ間接ノ送達トハ相手方ニ送達ス可キ書類ヲ一タヒ裁判所ニ出シ裁判所ヨリ執達吏ニ命シテ送達セシムルヲ云フ間接ノ送達ニ在テハ書記ヨリ執達吏ニ送達ノ施行ヲ委任スルコトヲ得可ク又送達ヲ施行ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ書記ニ向テ送達ノ施行ヲ執達吏ニ委任ス可キコトヲ囑託スルコトヲ得ルナリ

送達ハ必スシモ執達吏ヲ以テ之ヲ爲スヲ要セス法律ニ於テ之ヲ許ストキハ郵便ヲ以テ送達スルヲ得ルナリ郵便ヲ以テ送達スルトキハ郵便配達人ヲ送達吏ト爲スナリ

之ヲ要スルニ送達方法ノ性質ハ直接間接ノ二種ニシテ又之ヲ分テ左ノ四種ノ方法トス

第一　執達吏ニ依ル送達

第二　郵便ニ依ル送達

第三　郵便ニ付スル送達

第四　公示送達

此四種ハ漸次條ヲ追フテ講說セン

第百三十七條　送達ハ其送達ス可キ書類ノ正文又ハ認證シタル謄本ヲ交付ス可キ規定アルトキハ其正本又ハ其謄本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲シ其他ノ場合ニ於テハ謄本ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

原告若クハ被告數人ノ代理人ニ爲シ又ハ同一ナル原告若クハ被告ノ代理人數人中ノ一人ニ爲ス可キ送達ハ謄本又ハ正本ノ一通ヲ交付スルヲ以テ足ル」

〔義解〕(一三四) 前條ハ送達ノ職務ヲ規定シタルモノナレ𪜈本條ハ送達ノ行爲ヲ規定セシモノナリ書類ノ送達ハ凡ヘテ謄本ノ交付ヲ以テ爲スヲ原則ト爲シ正本又ハ認證シタル謄本ヲ交付スルヲ以テ其例外ト爲ス即チ本條第一項ニ於テ其原則ト例外トアル所以ヲ示セリ其如何ナル場合ニ於テ正本ヲ送達スルヤト云フニ其場合大要左ノ如シ

第一　期日ニ付テノ呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトス(第百六十一條)

第二　當事者ヨリ判決ノ送達アランコトノ申立アリタルトキハ判決ノ正本ヲ送達セサル可ラス(第二百三十八條)

第三　仲裁判斷ノ場合ニ於テハ仲裁人署名捺印シタル判斷ノ正本ヲ當事者ニ送達シ其原本ハ送達ノ證書ヲ添ヘテ管轄裁判所ノ書記課ニ之ヲ預ケ置ク可キモノトス(第七百九十九條)

第四　強制執行ノ爲メ原告若クハ被告ニ附與スル場合(第五百十七條)

又認證シタル謄本ヲ送達ス可キ場合ハ左ノ如シ

第一　日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ於テハ裁判官ノ許可ヲ受ケタル時ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第二　夜間ニ於テ送達ヲ爲ス可キ場合

右二項ノ場合ニ於テ送達ヲ爲ストキ許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ送達ノ際之ヲ交付ス可キモノトス

以上ノ場合ヲ除ク外ハ凡ヘテ送達ハ謄本ヲ以テ爲ス可キモノトス要

スルニ書類ニハ三種アリテ第一正本第二認證シタル謄本第三謄本是レナリ正本ト認證シタル謄本トハ其効力同一ナル可キモ單純ノ謄本ニ至テハ其効力同シカラス故ニ正本又ハ認證シタル謄本ヲ送達ス可キ場合ニ當リ單純ノ謄本ヲ送達シタルトキハ固ヨリ無効ナリトス然ラハ單純ノ謄本ヲ送達ス可キ場合ニ當リ正本又ハ認證シタル謄本ヲ送達シタルトキハ如何ト云フニ其効力ノ大ナルモノハ固ヨリ少ナルモノニ効力ヲ及ス可キモノナリトス故ニ此ノ場合ニ於テハ決シテ無効ニアラサルナリ

第二項ハ書類ノ送達ニ關シテ時間ト手數トヲ省キタルモノナリ即チ數人ノ原告若クハ被告カ一人ノ辯護士ヲ以テ訴訟代理人ト爲シタルトキ又ハ同一ナル原告若クハ被告カ數人ノ辯護士ヲ以テ代理人ト爲シタルトキハ其中ノ一人ニ一通ノ謄本又ハ正本ヲ送達スルヲ以テ足レリトス故ニ一通ノ送達アリタルトキヨリ權利拘束ノ効果ヲ生スルナリ然ラハ同一事件ニ對シ數人ノ原告若クハ被告アリテ各自訴訟人ト爲リ攻擊防禦ノ方法ヲ異ニスルトキハ如何此ノ場合ニ於テハ各自ニ送達スルヲ以テ便利ノ所爲トス其故ハ同一事件ニ付キ共同訴訟人ト爲ルモ其攻擊防禦ノ方法皆同一ナリト言フ可ラス或ハ無訴權ノ抗辯ヲ爲ス者アル可ク或ハ管轄違ノ抗辯ヲ爲ス者アル可ク或ハ本案ニ入リテ辯論ヲ爲ス者アル可シ此ノ如ク各自異ナル意見ヲ有スルモノトセンカ書類一通ノ送達ニテハ其不便甚タシク攻擊防禦ノ方法ヲ準備スルニ於テ最モ不便ナル可シ加之ナラス甲乙丙丁ノ共同被告アリタル場合ニ於テ之ヲ甲ニ送達シタリトセンカ甲ハ之ヲ必ススシモ乙丙丁ニ示スノ義務ナク乙丙丁モ必ススシモ之ヲ借覽スルノ義務ナシ果シテ然ラハ此ノ場合ニ於テ乙丙丁ハ書類ノ送達アラサルヲ以テ權利拘束ノ形狀

ニ至ルヿナカル可シ權利拘束ノ効果ヲ生セスンハ遂ニ民法上訴訟法上種々ノ効果ヲ生スルヿナカル可シ此ノ故ニ數人ノ原告被告カ各自ニ訴訟ヲ爲シ攻擊防禦ノ方法異ナル場合ニ於テハ其人數ニ應シテ書類ヲ作リ之ヲ送達スルヲ利益アリト思考スルナリ

第百三十八條　訴訟能力ヲ有セサル原告若クハ被告ニ對スル送達ハ其法律上代理人ニ之ヲ爲ス

公又ハ私ノ法人及ヒ其資格ニ於テ訴ヘ又ハ訴ヘラルルコトヲ得ル會社又ハ社團ニ對スル送達ハ其首長又ハ事務擔當者ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

數人ノ首長若クハ事務擔當者アル場合ニ於テハ送達ハ其一人ニ之ヲ爲スヲ以テ足ル

〔義解〕（一三五）本條第一項ノ訴訟能力ヲ有セサル無能力者ニ送達ヲ爲スモ其送達ハ法律上有効ナラサルヲ以テ此ノ時ハ法律上ノ代理人ニ送達ス可キモノトス若シ又法律上ノ代理人アラサルトキハ特別代理人ニ送達ス可キモノトス即チ遲滯ノ爲メ危害アル場合ニ於テハ裁判長ハ申立ニ依リ特別代理人ヲ選定スルヲ得ルモノトス

第二項ハ無形人ニ送達ス可キ場合ヲ定メタルモノニシテ官廳ノ如キ町村ノ如キ又ハ其他公私ノ無形人ニ送達ス可キ場合ニ於テハ其無形人ヲ代表シ得ル所ノ首長又ハ事務擔當者ニ送達スルヲ以テ足レリトス

第三項ハ數人ノ首長又ハ事務擔當者アル場合ニ於テノ送達方ヲ定メタルモノナルカ斯ル場合ニ於テハ其中ノ一人ニ送達スルヲ以テ有効ナリトス第三項ニハ數人ノ首長トアリ無形人ニハ數人ノ首長アル可キ筈ナシ彼ノ無形人ト稱スル者ニ在テ社長副社長ト云ヘル者ヲ置ク

モ是レ決シテ二人ノ首長ニアラス其首長ハ社長一人ナリ又國家府縣郡市町村ニ在テモ數人ノ首長ヲ置クヿナキモノナリ

第百三十九條　豫備後備ノ軍籍ニ在ラサル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス

〔義解〕《一三六》凡ソ軍人ヲ分テ現役中ニ在ルモノト身分ハ軍人ナルモ現役中ニ在ラサル者トノ二種ト爲ス豫備後備ノ軍籍ニ在ルモノハ身分ハ軍人ナリト雖モ常ニ軍營ニアラサルヲ以テ通常人ト同シク其本人ニ書類ヲ送達ス可キモノトス又現役中ニ在ル下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル送達ニ在テハ其所屬ノ長官又ハ隊長ニ之ヲ爲ス可キモノトス是レ軍營中ニ在テハ一擧一動皆悉ク長官又ハ隊長ノ指揮監督ニ從ハサル可ラス尤長官ノ許可ヲ受クルニアラスンハ假令裁判所ノ呼出アリト雖モ出廷スルヿヲ得サルモノナリ本條ハ下士以下ノ軍人軍屬ニ對スル書類送達ノ爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ下士以上ノ軍人軍屬又ハ是レト同等ナル軍人軍屬ニ對シテハ普通送達ノ規定ニ從フ可キモノトス

第百四十條　囚人ニ對スル送達ハ監獄署ノ首長ニ之ヲ爲ス

〔義解〕《一三七》囚人ハ其既決囚ナルト未決囚ナルトヲ問ハス一擧一動監獄署長ノ命令ニ從ハサル可ラサルヿ兵卒ノ比ニアラス殊ニ囚人ニ送達スルノ書類ハ一應監獄署長ノ檢閲ニ付セサル可ラサルヲ以テ凡ヘテ囚人ニ對シテハ直接ノ送達ヲ許サス民事裁判上ノ書類モ監獄署長ニ送達スルヲ以テ權利拘束ノ効果ヲ生スルモノトスルナリ

第百四十一條　送達ハ財産權上ノ訴訟ニ付テハ總理

代人ニ之ヲ爲シ又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テハ代務人ニ之ヲ爲スヲ以テ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタルト同一ノ効力ヲ有ス

〔義解〕(一三八) 本條ハ通常ノ民事ト商業上ノ民事トニ付キテ送達ノ効力ヲ定メタルモノナリ即チ財産權上ノ訴訟ニ付キテハ總理代人ニ之ヲ爲スヲ以テ効力アルモノトセシ所以ノモノハ總理代人ノ如キハ財産權上ノ事ニ關シ一切ノ管理ヲ爲スモノナルヲ以テナリ之ヲ換言セハ總理代人ハ財産上ニ關シ第三者ニ對シ代表ヲ爲スニ依ルナリ本條ニハ財産權上ノ訴訟トアルヲ以テ財産權上ニアラサル訴即チ人事ニ關スル訴ヘニ在テハ總理代人ニ之ヲ爲スモ未タ以テ有効ト爲スヲ得サルナリ

又商業上ヨリ生シタル訴訟ニ付テハ代務人ニ送達スルヲ以テ本人ニ送達シタルト同一ノ効力アルモノトセリ代務人ハ商業上ニ關シテ一切ノ代表ヲ爲スモノナルヲ以テ然ルナリ若シ又其事件ニシテ商業上ノモノナルヤ將タ通常ノ民事ナルヤ其區分明確ナラサル場合ニ於テハ代務人ニ送達ス可キヤ又ハ總理代人ニ送達ス可キヤト云フニ何レノ者ニ送達スルモ其効力ニ至テハ左迄ノ關係ナキモ此ノ如キ場合ニ於テハ總理代人ニ送達スルヲ以テ可ナリトス其故ハ商事ハ民事ノ一種ナルヲ以テ民事ノ法ニ依リテ商事ヲ取扱フモ敢テ誤謬ニ出テタルモノト云フヲ得ス即チ商法ニ規定ナキモノハ民法ニ依テ處分スルヿ一般ノ原則ナリ之レニ反シテ通常ノ民事ニ屬ス可キモノヲ商事ノ法ニ依リテ之ヲ取扱フトキハ之ヲ有効ナリト云フヿヲ得ス例ヘハ通常ノ貸金催促ノ訴訟ニ於テ其書類ヲ代務人ニ送達スルモ本人ニ送達シタルト同一ノ効力ヲ有スルモノト云フヲ得ス矢張リ此ノ場合ニ於テハ

總理代人ニ送達セサル可ラサルナリ

第百四十二條　訴訟代理人アルトキハ送達ハ其代理人委任ノ旨趣ニ依リ原告若クハ被告ノ代理ヲ爲ス權ヲ有スルトキニ限リ其代理人ニ之ヲ爲ス

然レトモ原告若クハ被告ノ本人ニ爲シタル送達ハ其訴訟代理人アルトキト雖モ効力ヲ有ス

〔義解〕(一三九) 訴訟代理人ヲ選定シタルトキハ其代理人ニ送達スルヲ以テ原則ト爲ス尤モ委任權外ニ渉ル事項ニ關スル送達ヲ爲シタルトキハ無効ナリトス故ニ委任ノ趣旨ニ反セサルヿヲ要件ト爲ス然リ而シテ辯護士ヲ以テ訴訟代理人ト爲ストキハ第六十五條ノ一項ニ依リ當然訴訟行爲ノ包含ヲ爲スモノトス又辯護士ニアラサル者ヲ以テ訴訟代理人ト爲ストキハ各個ノ行爲ニ付キ別々ニ委任ヲ爲シ得ルヲ以テ若シ別々ニ委任ヲ爲シタルトキハ其旨趣ニ從ヒ送達ヲ爲サヽル可ラス

第二項ハ全ク第一項ノ裏面ヲ示シタルモノニシテ訴訟代理人ヲ選定シタル場合ニ於テ本人ニ送達スルヿアリトセンカ之ヲ無効トスルハ理ニ適セサルニ似タリ故ニ本人ニ送達スルモ其効アリトセシナリ

第百四十三條　受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲモ事務所ヲモ有セサル原告若クハ被告ハ其所在地ニ假住所ヲ選定シテ之ヲ屆出ツ可シ

假住所選定ノ屆出ハ遲クトモ最近ノ口頭辯論ニ於テ之ヲ爲シ又其前ニ書面ヲ差出ストキハ其書面ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

前項ノ屆出ヲ爲ササルトキハ裁判所書記又ハ其委任ヲ受ケタル吏員交付ス可キ書類ヲ原告若クハ被

告ノ名宛ニテ郵便ニ付シテ送達ヲ爲スコトヲ得此送達ハ其書類ノ原告若クハ被告ニ到達スルト否トヲ問ハス又何時ニ到達スルトヲ問ハス郵便ニ付シタル時ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト見做ス

【義解】(一四〇) 本條第一項ハ本人自ラ訴訟ヲ爲ス場合ヲ規定シタルモノニシテ受訴裁判所ノ所在地ニ住所ヲモ又事務所ヲモ有セサル限ハ書類ノ送達及ヒ呼出ノ爲メ甚タ不都合ナルヲ以テ訴訟人ニ假住所ノ選定ヲ命スルナリ然レトモ本人自ラ訴訟ヲ爲サス受訴裁判所ノ所在地ニ住居ヲ有スル者ヲ以テ訴訟代理人ト爲ストキハ凡ヘテノ送達ヲ代理人ニ爲ス可ケレハ則チ本人カ假住所ヲ選定シテ屆出ツルノ必要ナキナリ然リ而シテ住所選定ノ屆出ハ遲クトモ口頭辯論ノ期日ニ於テ之ヲ爲シ又ハ其前ニ裁判所ニ向ヒ書面ヲ差出ストキハ書面ヲ以テ屆出ヲ爲スヲ必要トス此等ノ屆出ヲ爲スハ訴訟人ノ義務ナレトモ若シ之ヲ爲サヽルトキハ郵便ニ付シテ交付スルコトヲ得ルナリ夫レ郵便ハ確的ニシテ紛失ノ恐レ少シト雖モ又全ク之レナシト言フ可ラス又其到達ノ遲速ナシト言フ可ラス假令紛失シテ本人ニ到着スルヿナキモ或ハ遲延シテ數十日ノ後ニ到着スルモ裁判所書記又ハ送達ノ委任ヲ受ケタル吏員ハ其責任ヲ負フヿナシ畢竟假住所ノ屆出ヲ爲サヽリシハ訴訟人ノ過失ニシテ書記ノ過失ニアラサルニ依ルナリ

其郵便ニ付シテ書類ヲ送達スル場合ニ於テハ如何ナル時ヲ以テ送達終リタルモノト爲スカ之ヲ換言セハ郵便ノ函ニ投入シタル時ヲ以テ送達ノ事終リタルモノト爲スカ將タ郵便脚夫カ之ヲ受取リ訴訟人ニ交付シタル時ヲ以テ送達ノ終リシモノト爲スカ曰ク郵便ノ函ニ投入シタル時ヲ以テ送達ヲ終リシモノト爲シ書記ハ其後ノ責任ヲ負ハサ

ルナリ其故ハ既ニ書類ヲ郵便ノ函ニ投入シタル以上ハ書記ノ管理内ヲ離レテ再ヒ之ヲ取戻シ得サルノ形狀ニ至リタルモノナリ故ニ其到達スルト否ヤトハ書記ノ責任ニアラスシテ郵便局ノ責任ニ歸スルヲ以テ郵便函ニ投入シタルノ證アルニ於テハ其送達終リタルモノト爲ス可キナリ

第百四十四條　送達ハ何レノ地ヲ問ハス送達ヲ受ク可キ人ニ出會ヒタル地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ其人カ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキ其住居又ハ事務所ノ外ニ於テ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ効力ヲ有ス

第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ特別ノ事務所アルトキハ其事務所ノ外ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ爲シタル送達ハ其受取ヲ拒マサリシトキニ限リ効力ヲ有ス

〔義解〕（一四一）前條迄ハ送達ヲ爲ス可キ人及ヒ効力ヲ定メタルモノナリ本條以下ハ送達ヲ爲ス可キ場合ヲ定メタル者ナリ抑〻送達ハ書類ヲ訴訟人ニ手渡スルヲ以テ目的ト爲ス者ナレハ其人ニ逢ヒタル地ヲ以テ送達ノ場所ト爲スヲ原則ト爲ス也故ニ本人タルト代理人タルト又内外國人タルトヲ問ハス其人ニ逢ヒタル地ニ於テ渡スヿヲ得ルモノトス然レトモ此ノ原則ハ多少制限ヲ爲サヽル可ラス何トナルニ其地ニ住居又ハ事務所ヲ有スルトキハ途中出會ノ地ニ於テ渡サンヨリ遲ヒ其住所又ハ事務所ニ於テ送達スルヲ確實ト爲ス可クレハナリ故ニ住所又ハ事務所ヲ有スルトキハ其住所又ハ事務所ニ送達スルヲ可ト爲ス然レトモ出會ノ地ニ於テ送達スルモ更ニ異議ヲ述ヘス承諾ノ上受取

リタルトキハ送達ノ効アルモノト爲シ若シ異議ヲ述ヘテ受取ヲ拒ミタルトキハ途中出會ノ送達ハ無効ナリトス

第二項ハ社團ノ資格ヲ以テ訴訟人ト爲リタル場合ニ於ケル送達ノ場所ヲ定メタルモノナリ夫レ社團ヲ代表スル所ノ首長若クハ事務擔當人ハ二個ノ資格ヲ有スルモノナリ即チ社團ヲ代表スルノ資格一己人タルノ資格是レナリ社團ノ資格ヲ以テ訴訟人ト爲リタル場合ニ於テハ其社團ノ事務所ニ送達スルヲ通例トシ若シ其社團事務所外ニ於テ送達セントスルトキハ其首長若クハ事務擔當者ノ承諾アルヿヲ必要トス然シテ送達ノ承諾ヲ得タルトキハ特別ノ事務所タル出會ノ地ニ於テモ又其居宅ニ於テモ送達ヲ爲スヿヲ得ルナリ

第百四十五條　送達ヲ受ク可キ人ニ住居ニ於テ出會ハサルトキハ其住居ニ於テスル送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ施行スルコトヲ得サルトキハ此規定ニ從ヒ送達ヲ爲スコトヲ得

其送達ハ交付ス可キ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預置キ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住居ノ戸ニ貼附シ且近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕（一四二）出會ノ場所ニ於テ書類ヲ渡スヲ通例ト爲スナレ𪜈若シ本人之ヲ拒絶スルカ又ハ出會セサルトキハ其住居ニ送達ヲ爲サヽル可ラス其住居ニ於ケル送達ハ成長シタル同居ノ親族又ハ雇人ニ之ヲ爲スヲ以テ有効トス其成長シタル親族又ハ雇人トハ必スシモ民法上ノ丁年者タルヿヲ要セス既ニ是非ヲ辨別スルノ能力ヲ有スル年齢ニ達シタルヲ以テ足レリトス之ヲ換言セハ書類ノ取次キヲ爲シ得ル

ノ能力アルヲ以テ足レリト爲スナリ

若シ又同居ノ親族雇人モナク本人モ不在ニテ送達スルヲ得サルトキハ其送達ス可キ書類ヲ其地ノ市町村長ニ預ケ置キ送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住居ノ家ニ貼附シ且ツ其近隣ニ住居スル者二人ニ其旨ヲ口頭ヲ以テ通知シテ之ヲ爲スヿヲ得ルナリ去レハ第二項ニ依テ送達ヲ爲シタルモノト爲サンニハ左ノ條件ノ具備シタル場合ナルヿヲ要ス

第一　本人又ハ同居ノ親族雇人ニモ出會セサルヿ

第二　送達ノ告知書ヲ作リ之ヲ住居ノ家ニ貼附スルヿ

第三　近隣ノ者二人ニ口頭ヲ以テ通知スルヿ

此ノ三個ノ手續ヲ踏ムニアラスンハ第二項ニ依レル送達ヲ爲スヿヲ得サルナリ

第百四十六條　住居ノ外ニ事務所ヲ有スル人ニ對スル送達ハ事務所ニ於テ之ニ出會ハサルトキハ其事務所ニ在ル營業使用人ニ之ヲ爲スコトヲ得此規定ハ辯護士ニモ亦之ヲ適用ス但此場合ニ於ケル送達ハ筆生ニモ亦之ヲ爲スコトヲ得

第百四十七條　第百三十八條第二項ノ場合ニ於テ法律上代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付キ差支アルトキハ送達ハ事務所ニ在ル他ノ役員又ハ雇人ニ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕（一四三）住居ト事務所トヲ分チテ別ニ事務所ヲ有スルトキハ其事務所ニ送達スルヲ以テ本則ト爲ス何トナルニ財産上凡ヘテノ行爲ハ大概此ノ事務所ニ於テ處辨スルモノナレハナリ若シ事務所ニ到リ

其人ニ出會ハサルトキハ如何スルカト云フニ其事務所ニ在ル所ノ營業使用人ニ書類ヲ渡スヿヲ得ルナリ營業使用人ハ常ニ業務處辨ノ代理ヲ爲スモノナルヲ以テ本人ニ渡シタルト同一ノ効力ヲ生スルナリ此ノ規定ハ辯護士ニ送達スル場合ニモ適用スルヿヲ得辯護士モ多クハ事務所ヲ有シテ事務ヲ取扱フモノナレハ則チ其事務所ニ在ル所ノ業務使用人ニ渡スヿヲ得ルナリ以上ノ如ク營業使用人又ハ業務使用人ノ在ル場合ニ於テハ此等ノ者ニ送達スルヲ第百四十六條ノ精神ト爲スモ若シ此等ノモノ及ヒ本人モアラサル場合ニ於テハ如何ス可キヤト云フニ其事務所ニ在ル筆生ニ送達シテ効アルモノトス筆生ハ則チ事務所ニ勉ムル所ノ書生ノ如キヲ云フナリ

第百四十六條　一己人ニ送達スル場合ナレモ法人ニ送達スル場合ニ於テハ如何ト云フニ法人ニ送達ス可キ場合ニシテ法律上ノ代理人又ハ首長若クハ事務擔當者ニ事務所ニ於テ出會ハス又ハ此等ノ者受取ニ付キ差支アルトキハ他ノ役員又ハ雇人ニ送達ヲ爲スヿヲ得ルナリ此ノ雇人ト云ヘルハ僕婢ノ如キヲ云フニアラス法人ノ營業ニ關シテ常ニ業務ヲ行フ所ノ雇人ヲ云フモノナリ

斯ク事務所ニ於テ本人ニ出會セス營業使用人又ハ事務所ノ書記ニモ出會セス尙ホ又法人ノ場合ニ於テ首長事務擔當人其他役員雇人ニモ出會セサルトキハ書類ノ送達ヲ如何スルカト云フニ此ノ場合ニ於ケル送達ノ規定ハ次條ニ詳ナリ

第百四十八條　前二條ノ規定ニ從ヒ送達ヲ施行スルコトヲ得サルトキハ第百四十五條第二項ニ準シ送達ヲ爲ス可シ但住居ニ於ケル送達ヲ施行スルヲ得サルコトノ明白ナルトキニ限ル

前項ノ場合ニ於テハ送達告知書ノ貼附ハ事務所又ハ住居ノ戸ニ之ヲ爲ス

〔義解〕(一四四) 前二條ノ規定ニ從ヒ送達ノ施行ヲ爲スヲ得サルトキハ第百四十五條ノ二項ニ從ヒ其交付ス可キ書類ヲ市町村長ニ預ケ置キ其告知書ノ貼附ヲ爲シ近隣者二人ニ其旨ヲ通知シテ茲ニ送達ノ終リタルモノト爲ス此ノ送達ハ公示送達ト其性質ヲ同フスルモノナリ何トナルニ本人住居ノ戸ニ貼付スル所以ノモノハ本人幷ニ公衆ニ知ラシメンカ爲メナリ尤モ此ノ送達ハ例外ニ屬スル已ムヲ得サルノ送達ナルヲ以テ住居ニ於ケル送達及ヒ事務所ニ於ケル送達ヲ爲シ得サル事ノ明白ナル場合ニ限ルナリ其明白ナル場合トハ種々ノ手續ヲ行フテ尚ホ送達シ得サル事ヲ云フ故ニ若シ執達吏誤リテ此ノ例外ノ方法ヲ行ハサルモ送達シ得ル場合ニ於テ此ノ例外ノ送達ヲ爲スキハ其送達ヲ以テ無効ト爲サヽル可ラサルナリ

第百四十九條　法律上ノ理由ナクシテ送達ノ受取ヲ拒ムトキハ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シ

〔義解〕(一四五) 訴訟人ノ執拗頑固ナル者ニ係ルキハ往々執達吏ヲシテ困難ヲ感セシムルヿアル可シ本人ニ手渡セントスルモ本人之ヲ受取ラス親戚故舊又ハ雇人ニ渡サントスルモ或ハ之レアルモ受取ラス市町村役場ニ至リテ之ヲ預ケ置キ市町村長ヨリ本人ニ渡サントスルモ本人之ヲ拒ミテ之ヲ受取ラス斯ル場合ニ於テハ之ヲ如何トモスルヿヲ得ス其現ニ拒ミテ受取ラサルモノニ對シテ法律上送達了リタルモノトスルヲ得ス之ヲ米タ送達セサルモノトセハ欠席裁判ノ場合ニ大ナル關係ヲ及スニ至ラン其故ハ凡ソ欠席裁判タルト又對席裁判タ

ルトヲ問ハス苟クモ裁判ヲ言渡サンニハ當事者アルヿヲ要ス當事者トハ訴訟上權利拘束ノ姿ニ立至リタルモノヲ云フ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ裁判ヲ下サンニハ訴訟ノ起リタル場合ナラサル可ラサルナリ然ルニ頑固ナル人ニシテ其送達ヲ拒ミテ受取ラサルトキハ未タ權利拘束ノ姿ニ至ラサルヲ以テ訴訟起リタルモノト云フヲ得ス送達アリテ初メテ權利拘束ノ効ヲ生スルモノナレハ未タ送達アラサルニ於テハ訴訟ナキモノト言ハサル可ラス果シテ然レハ裁判所ハ其受取ヲ拒ミタル者ニ向テ欠席裁判ヲ言渡スヿヲ得サル可ク又起訴者モ之ヲ請求スルヿヲ得サル可ク已ムヲ得ス訴訟ナキモノトシテ訴狀ヲ却下セサル可ラサルノ結果ヲ生スルニ至ラン是レ我カ國ニ於テモ從來往々此ノ有樣ヲ目擊セシ所ニシテ無鐵砲ナル者ニ係ルトキハ法律ノ力モ之ヲ如何トモスルヿヲ得サリシナリ

此ノ如キ者ニ係ルトキハ權利ヲ有スルモ其効ノ發生ヲ見ルヿ能ハス權利者ハ遂ニ執拗頑愚ナル債務者ノ壓制ヲ受ケサルヲ得サルニ至ルナリ依テ訴訟法ハ此等ノ弊ヲ除カンカ爲メニ本條ノ規定ヲ設ケタリ即チ何人ト雖モ法律上ノ理由ナクシテ其受取ヲ拒ムトキハ交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置ク可シト云ヘリ本條ニ於テハ受取ヲ拒ムヿヲ得ストハ言ハスシテ拒ムトキハト云ヘリ是レ大ニ意味アル事ニシテ法律ハ其受取ヲ强制スルコトヲ得ス刑事ノ書類ト雖モ執達吏ハ其受取ヲ强制スルヿヲ得ス只其受取ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ記スルニ止ルモノトス何故ニ腕力ヲ加ヘテ受取ヲ强ユルヿヲ得サルヤト云フニ書類ノ送達ハ裁判所ノ利益ノ爲メニ爲スモノニアラスシテ受取ル者ノ利益ノ爲メナリ例ヘハ刑事ノ呼出ニ在テ必ス送達ト被告人出頭トノ間少クモ二十四時ノ猶豫アル可シト云ヘルモノハ被告人ニ辯護ノ

準備ヲ與ヘンカ爲メナリ故ニ此ノ利益ヲ被告人ニ於テ放棄スルヿハ自由ナリトス之ヲ受取ラサルモ呼出ノ日時ニ出頭スルヿハ法律上敢テ差支ヘナキモノナリ只其日時ニ出頭セサルヿハ茲ニ於テ初メテ公力ヲ以テ强制スルヿヲ得ルナリ民事ニ於テモ亦然リトス凡ヘテ前以テ訴訟人ニ書類ヲ送達スルハ訴訟人ノ利益ノ爲メニ爲スモノナルヲ以テ法律ハ其受取ヲ强制スルヿヲ得サルモノトス是レ本條ニ法律上ノ理由ナクシテ受取ヲ拒ムヿヲ得スト記セス其受取ヲ拒ミタルヿハト記セシ所以ナリ

本條ニ所謂法律上ノ理由トハ如何ナル場合ヲ云フカ曰ク此ノ訴訟法ニ於テ受取ヲ拒ムヿヲ得ト記シタル場合ヲ云フナリ例ヘハ第百四十五條ノ場合ニ於テ未タ成長セサル同居ノ親族又ハ雇人ナルヿハ成長セサル理由又ハ同居ノ親族ニアラサルノ理由ヲ以テ拒ムコトヲ得第百四十六條ノ場合ニ於テ營業使用人ニアラサルノ理由又ハ事務所ノ筆生ニアラサルノ理由ヲ以テ受取ヲ拒ムヿヲ得第百四十四條ノ場合ニ於テ住居又ハ事務所ヲ有スルヿ事務所外ニ於テ送達ヲ爲サントスルトキハ事務所外ナルノ理由ヲ以テ之ヲ拒ムヿヲ得此等ノ場合ニ於テハ皆法律上ノ理由ヲ以テ拒ムヿヲ得ルモノトス其他送達ノ手續ニ背キタル場合ニ於テ其背キタルノ理由ヲ以テ拒ムヿヲ得ルナリ

本條ニ於テハ法律上ノ理由ト云ヘリ故ニ事實上ノ理由ヲ以テ之ヲ拒ムヿヲ得サルナリ例ヘハ債務者ニアラサル者ニ對シテ被告人ト爲シ呼出ヲ發シタルヿハ余ハ債務者ニアラサルヲ以テ此ノ召喚狀ヲ受取ルヿヲ得スト申述スルヲ許サス何トナルニ其債務者ナラサルヤ否ヤハ事實ノ問題ニ屬シ之ヲ審理判決シタル後ニアラスンハ知ルヿヲ得サルナリ

法律上ノ理由ナクシテ受取ヲ拒ムトキハ之ヲ不適法ノ所爲ト爲シテ其交付ス可キ書類ヲ送達ノ場所ニ差置キ是レニテ送達終リタルモノト爲ス故ニ此ノトキヨリ法律上權利拘束ノ効ヲ發生スルヲ以テ若シ口頭辯論ノ期日ニ出廷セサルトキハ欠席裁判ヲ爲スヿヲ得ルナリ此ノ法タル實ニ頑固ナル者ヲ處スルニ當ヲ得タルノ仕方ト云フ可シ

第百五十條　日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ執達吏ノ爲ス可キ送達ハ裁判官ノ許可ヲ得ルトキニ限リ之ヲ施行スルコトヲ得

前項ノ規定ハ郵便ニ付シテ爲ス送達ヲ除ク外ハ夜間ニ爲ス可キ送達ニ之ヲ適用ス夜間トハ日沒ヨリ日出マテノ時間ヲ云フ

右ノ許可ハ受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事之ヲ與ヘ又ハ受命判事若クハ受託判事ノ完結ス可キ事件ニ在テハ其判事之ヲ與フ

許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ以テ送達ノ際之ヲ交付ス可シ

本條ノ規定ヲ遵守セサル送達ハ之ヲ受取リタルトキニ限リ効力ヲ有ス

〔義解〕(一四六)　日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ノ如キハ人々休養シテ歡呼スルノ日ナルヲ以テ裁判上ノ行爲モ亦休止ス可キモノトス是レ人々ノ休養ヲ妨害セサランカ爲メナリ又夜間ノ如キハ人々安眠ヲ取ルノトキナルヲ以テ同シク其安眠ヲ害ス可ラス故ニ通常ノ場合ニ於テハ本條第一項第二項ノ場合ニ於テ送達ヲ爲ス可ラス執達吏之ヲ送達セン

トスルトキハ本條ニ於ケル法律上ノ理由ヲ述ヘテ之ヲ拒ムコトヲ得ルナリ然レトモ如何ナル場合ト雖モ送達ヲ爲スヲ得スト言フ可ラス又斯ク嚴格ニシテ伸縮シ得サルノ規定ヲ設クルハ其不便甚シキモノトス故ニ受訴裁判所ノ裁判長又ハ區裁判所ノ判事ノ認證シタル許可證ヲ有スルニ於テハ日曜日又ハ一般ノ祝祭日又ハ夜間ト雖モ送達ヲ爲スヿヲ得ルナリ假令此ノ許可證ヲ携帶セスト雖モ本人甘諾シテ之ヲ受取リタルトキハ送達ノ効アリトス去レハ日曜日祝祭日夜間ニ於テ送達セントスルニハ左ノ貳條件ノ具備ヲ要ス

第一　受訴裁判所ノ裁判長又ハ送達ヲ爲ス可キ地ヲ管轄スル區裁判所ノ判事ノ許可ヲ受ケタルヿ

第二　其許可ノ命令ハ認證シタル謄本ヲ交付スルヿ

此ノ二條件ヲ履マスシテ爲シタル送達ハ本人拒マサルトキニ限リ有効トシ本人拒ミタルトキハ無効ナリトス

第百五十一條　送達ニ付テハ之ヲ施行スル吏員ハ送達ノ場所、年月日時、方法及ヒ受取人ノ受取證并ニ送達吏ノ署名捺印ヲ具備スル證書ヲ作ルコトヲ要ス」

受取人受取ヲ拒ミ若クハ受取證ヲ出タスコトヲ拒ミタルトキ又ハ受取證ヲ作ルコト能ハサル旨ヲ述フルトキハ之ヲ送達證書ニ記載ス可シ

第百四十三條第三項ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スニ足ル

〔義解〕《一四七》送達ハ通常執達吏之ヲ爲スヲ以テ其送達ニ關スル調書ハ公正證書ノ性質ヲ有スルモノトス然リ而シテ公正證書ト同一ノ効力ヲ生セシメントセハ第一送達ノ場所、第二年月日時、第三受取人ノ

受領證第四送達吏ノ署名捺印ノ五條件具備ノ證書ナラサル可ラス其場所ヲ記スル所以ノモノハ住居ト事務所トヲ有スル人ニ送達スル場合ニ於テ住居ニ送達シタルヤ將タ事務所ニ送達シタルヤ否ヤヲ調査スル等ノ證ト爲リ年月日時ヲ記セサル可ラサル所以ノモノハ其日附ハ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニアラサルヤ又夜間ニアラサルヤ否ヤ等ヲ調査スルノ證ト爲リ受取人ノ受領證ヲ必要トスル所以ノモノハ果シテ書類ノ送達ヲ受ケタルヤ否ヤ之ヲ受ケタルニモ係ハラス出頭セサルニ於テハ欠席判決ヲ爲シ得ルノ證ト爲リ送達吏ノ署名捺印ヲ要スル所以ハ其日ニ於テ確實ニ送達ヲ爲シタルノ證ト爲ルナリ若シ又其受取ヲ拒ムカ又ハ受取ルモ其受領證ノ提出ヲ拒ムカ又ハ之ヲ作ルヿヲ得サル旨ヲ陳述スル場合等ニ於テハ其事由ヲ送達證書ニ記載ス可キモノトス

受訴裁判所ノ地ニ住所ヲモ事務所ヲモ有セス又假住所ヲモ屆ケ出テサル者ニ送達セントスル時ハ第百四十三條第三項ニ從ヒ郵便ニ託シテ送達ス可キモノナリ此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル旨ヲ記スル吏員ノ報告書ヲ以テ送達ノ證ト爲スヿヲ得ルモノトス

第百五十二條　外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏并ニ其家族從者ニ對スル送達ハ外務大臣ニ囑託シテ之ヲ爲ス

第百五十三條　前條ノ場合ヲ除ク外外國ニ於テ施行ス可キ送達ハ外國ノ管轄官廳又ハ外國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ之ヲ爲ス

【義解】《一四八》第百五十二條ニ記スル所ノ外國ニ在ル本邦ノ公使及ヒ公使館ノ官吏并ニ其家族從者ハ日本人ナリト雖モ公使館ニ在ル間

ハ凡ヘテ之ヲ統轄スル外務大臣ノ指揮ニ從ハサル可ラス故ニ直接ニ公使館ニ向テ書類ノ送達ヲ爲スヿヲ得ス必ス外務大臣ノ手ヲ經サル可ラス是レ公使館ハ主權ヲ代表スルモノナルヲ以テ鄭重ヲ盡クシタルモノトス

公使館ニ送達ヲ爲ス場合ニアラスシテ外國ニ在ル本邦人ニ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ第百五十三條ノ規定ニ從フヲ要ス即チ日本ノ呼出狀其他ノ書類ハ外國ノ送達吏ヲ拘束スルヿ能ハサルニヨリ國際條約アルトキハ外國ノ管轄官廳ニ囑託シテ之ヲ送達シ若シ國際トシテ互ニ送達スルノ約ナキトキハ其國ニ駐在スル帝國ノ公使又ハ領事ニ囑託シテ送達ヲ爲ス可シ公使ハ政治上ノ交際トシテ他國ニ派遣スルモノナレトモ領事ハ商業上ノ事居留人民ノ動作ヲ取締ルカ爲メニ派遣スルモノナリ故ニ外國ニ在ル一己人ヘ送達セントスルトキハ公使ノ手ヲ經ソヨリ寧ロ領事ノ手ヲ經ルヲ以テ適當ノ理ト思考スルナリ左ニ佛國ニ於ケル領事ノ職務ノ大要ヲ掲ケテ一己人ニ於ケル書類ノ送達ハ領事ニ於テ爲ス可キモノナリト云ヘル理論ノ參考ニ供セン

佛國領事ノ職制　其重モナル職務左ノ如シ

第一　本國人民ニ路引ヲ與ヘ其管內ニ於ケル本地官吏ノ認メタル書類ニ花押シテ之ヲ明確ニシ及ヒ凡ヘテ民政官吏ノ諸職務ヲ行フヿ

第二　自國人民ノ中或ハ自國民ト其居留スル國ノ士民トノ間ニ訴訟起ルトキハ其中間ニ立チテ和解ヲ爲スヿ

第三　商船ノ事ニ付テハ領事ハ其管內諸港ニ於ケル佛國商船ノ監督人ナルヿ

第四　佛國ノ旗章ヲ掌ルヿ

第五　領事ハ力ヲ極メテ奴隷賣買ノ禁止ニ從事スル事

第六　自國人若シ在留國ノ監獄ニ繫留セラルヽアラハ其拘留中苛酷ノ取扱ナカリシヤ又其糾彈其法ニ適ヒタルヤヲ調査スルヿ

第七　居留人ノ身躰又ハ其財産ニ危難ノ事アラントスルトキハ勉メテ之レカ保護ニ從事スルヿ

右ノ外居留人民ノ監護ヲ爲シ其狀況ヲ本國政府ニ通報スルノ義務アルモノトス

第百五十四條　出陣ノ軍隊又ハ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員ニ屬スル人ニ對スル送達ハ上班司令官廳ニ囑託シテ之ヲ爲スコトヲ得

第百五十五條　前三條ノ場合ニ於テ必要ナル囑託書ハ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ發ス

送達ハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證書ヲ以テ之ヲ證ス

〔義解〕《一四九》第百五十四條ノ出陣ノ軍隊トハ宣戰令ヲ發シタル後ノ軍隊ヲ云ヒ役務ニ服シタル軍艦ノ乘組員トハ戰時ノミナラス軍艦ノ乘組員ヲ云フ此等ノ者ニ爲ス送達ハ上班司令官ニ囑託シテ之ヲ爲スヿヲ得ルナリ本條ト第百三十九條トハ殆ント重複ノ事ヲ規定シタルヤノ嫌ナキニアラスト雖モ其精神ハ決シテ重複シタルモノニアラス第百三十九條ハ專ラ平時ニ於ケル下士以下ノ軍人軍屬ニ適用シ本條ハ出陣ノ軍人軍屬又ハ既ニ艤裝シタル軍艦ノ乘組員ニ適用スルモノナリ故ニ軍艦ノ乘組員ト雖モ定繫中ニ在テ軍艦タルノ用ヲ爲サヽル場合ニ於テハ第百三十九條ニ依テ送達ヲ爲ス可キモノトス外國ニ在ル本邦ノ公使等ニ送達スル場合、外國ニ在留スル一已人ニ送達スル場合、出陣ノ軍隊等ニ送達スル場合ニ於テハ凡ヘテ囑託書ヲ以

テ爲ス可キモノナリ故ニ此ノ場合ニ於テハ此ノ囑託書ヲ以テ最モ必要ナリトス然リ而シテ其囑託書ハ何人ニ於テ之ヲ發スルヤト云フニ受訴裁判所ノ裁判長之ヲ發スルモノトス

此等ノ者ニ對スル送達ハ如何ナル時期ニ於テ完了スルカ例ヘハ外國ニ在ル本邦ノ公使ニ送達スル場合ニ於テハ外務大臣ニ囑託シタルトキヲ以テ送達終リタルモノト爲スカ又ハ本人ニ達シタルトキヲ以テ送達終リタルモノト爲スカ此ノ時期ニ依テ裁判ニ影響ヲ及スモノナリ何トナルニ囑託シタルトキヲ以テ送達完了シタルモノトセハ此ノ時ニ於テ欠席裁判ヲ爲スヿヲ得可シ然ラスンハ之ヲ爲スヿヲ得サルナリ第百五十五條第二項ハ此ノ時期ヲ決定シタリ即チ送達ハ囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏ノ送達施行濟ノ證書ヲ以テ之ヲ證スト云ヘリ故ニ其囑託ヲ受ケタル官廳又ハ官吏カ本人ニ送達シテ其施行濟ノ證書ヲ得タル上ニ於テ送達ノ完了シタルモノト見做スモノナリ去レハ外務大臣ニ囑託シタルトキ公使又ハ領事ニ囑託シタルトキ上班司令官廳ニ囑託シタルトキヲ以テ送達終リタルモノト言フ可ラサルナリ

第百五十六條　原告若クハ被告ノ現在地知レサルトキ又ハ外國ニ於テ爲ス可キ送達ニ付テハ其規定ニ從フコト能ハス若クハ之レニ從フモ其効ナキコトヲ豫知スルトキハ其送達ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

〔義解〕(一五〇) 本條以下ハ公示送達ノ手續ヲ定メタルモノナリ權利拘束ハ送達ニ依テ初マルモノナレハ則チ訴訟ノ初メニ於テハ必スヤ送達ノ事ヲ爲サヽル可ラス是レ訴訟人ノ知レサル場合ニ於テモ尙ホ送達ヲ爲サヽル可ラサルノ理ニヨリ公示送達ノ法ヲ設ケタル所以ナ

リ公示送達ハ如何ナル場合ニ於テ爲シ得ルヤト云フニ左ノ三個ノ場合ニ限ルモノトス

第一ノ場合　原告若クハ被告ノ現在地ノ知レサルトキ　此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シテ送達ヲ爲サンドスルモ爲シ能ハサルニヨリ公示ノ方法ヲ以テ之ヲ知ラシムルモノトス然シテ本人カ實際之ヲ知ルト否ヤトヲ問ハス相當ノ期限內公示スルヲ以テ足レリトス

第二ノ場合　外國ニ於テ爲ス可キ送達ニシテ其規定ニ從ヒ爲シ能ハサルトキ　此ノ場合ハ其送達セントスル外國ニ本邦ノ公使若クハ領事ノ滯在スルヿナク又其國ノ官廳ニ囑托シテ送達セントスルモ國際條約等ノ之レナキ爲メ其囑託ニ應セサルトキ等ニシテ實地送達ヲ爲シ得サル場合ナリトス

第三ノ場合　外國ニ於テ爲ス可キ送達ヲ其規定ニ從フモ効ナキヿヲ豫知スルトキ　例ヘハ本邦ノ公使若クハ領事ノ駐留セサル外國ニ於テ送達セントスルトキハ其國ノ送達ヲ掌ル官廳ニ囑託ヲ爲サヽル可ラス然ルニ其官廳カ囑託ニ應セサルヿヲ豫知スルトキハ公示送達ヲ爲スヿヲ得ルナリ又我カ公使若クハ領事カ其國ニ駐留スルモ亦外國ノ官廳カ其囑託ニ應ス可シト思料スル場合ニ於テモ其送達ヲ受ク可キ者カ諸處ヲ流寓シテ其現在地ノ知レサルヿヲ豫知スルトキハ到底送達ノ効ナキヿヲ以テ公示送達ノ手續ニ依ルヿヲ得可シ

以上三个ノ場合ニ遭遇スルトキハ公示送達ノ手續ニ依ルヿヲ得ルナリ然レトモ公示送達ノ手續ヲ爲ス場合ハ其性質トシテ訴訟タルヿヲ要ス之ヲ換言セハ裁判所ニ於テ結局判決ヲ爲シ得ル事件ナルヿヲ要ス若

シ夫レ訴訟ノ性質ヲ有セサル一ノ通知ニ止ルモノナレハ公示送達ヲ爲スノ必要ナキナリ故ニ左ノ場合ニ於テハ公示送達ヲ爲ス可キモノニアラサルナリ

第一　督促手續ノ場合ニ於テ支拂命令ノ送達ヲ外國ニ於テ爲シ若クハ公示送達ヲ以テ爲ス可キトキハ督促手續ヲ許サヽルナリ(第三百八十二條第二項)

第二　執行行爲ノ際債務者ニ爲ス可キ送達及ヒ通知ハ債務者ノ所在明カナラサルトキ又ハ外國ニ在ルトキハ之ヲ必要トセス故ニ通知セスシテ執行ヲ爲シ得ルナリ(第五百四十二條)

第三　配當手續ノ場合ニ於テ裁判所ハ配當表ニ關スル陳述及ヒ配當實施ノ爲メ期日ヲ規定シ其期日ニハ各債權者及ヒ債務者ヲ呼出スモノトス然レトモ若シ債務者ノ所在分明ナラサルカ又ハ外國ニ在ルトキハ呼出ヲ爲スヿヲ要セサルナリ(第六百二十九條)

第百五十七條　公示送達ハ原告若クハ被告ノ申立ニ因リ裁判所ノ命ヲ以テ裁判所書記之ヲ取扱フ

此送達ハ交付ス可キ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼附シテ之ヲ爲ス判決及ヒ決定ニ在テハ其裁判ノ部分ノミヲ貼附ス可シ

右ノ外裁判所ハ送達ス可キ書類ノ抄本ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ一回又ハ數回掲載ス可キヲ命スルコトヲ得其抄本ニハ裁判所當事者并ニ訴訟及ヒ送達ス可キ書類ノ要旨ヲ掲クルコトヲ要ス

〔義解〕(一五一)凡ソ書記カ公示送達ヲ爲サンニハ二個ノ條件ヲ必要トス即チ左ノ如シ

第一　原告若クハ被告ノ申立アリタルヿ

第二　裁判所ノ命令アリタルヿ

此ノ原告若クハ被告ノ申立ヲ必要ト爲シタル所以ノモノハ公示送達ニ依テ利益ヲ得ルモノハ其裁判所ニ出頭シタル原告若クハ被告ニ在リ此ノ送達ヲ爲サヽレハ何時迄モ權利拘束ノ結果ヲ生セサルヲ以テ權利者ハ空シク債務者ノ歸ヘリ來ルヲ俟タサル可ラス然ルトキハ或ハ債權ノ時効ニ依テ消滅スルヿアル可シ故ニ公示送達ヲ爲ストキハ十四日ノ期間ヲ經過シタルトキヨリ權利ヲ拘束スルヲ以テ時効ヲ中斷シ或ハ欠席判決ニ依テ其目的ヲ達スルヿヲ得可シ是レ其申立アルヿヲ必要ト爲ス所以ナリ

假令當事者ノ一方ヨリ此ノ申立アルモ裁判所ニ於テ前條ニ掲ケタル三個ノ場合ニ在ラスンハ此ノ申立ヲ却下スルモノトス即チ裁判所ニ於テハ決定ヲ以テ公示送達ノ許否ヲ決定ス可キモノナリ此ノ決定ニ對シテハ抗告ヲ爲スヿヲ許サス何トナルニ公示送達ヲ爲ス可キ場合ハ法律ニ於テ定メタルモノニシテ其法律ノ豫定シタル場合ナルヤ否ヤハ一目瞭然ナルヲ以テ恐クハ其決定ニ付キテ誤謬ナカル可シト思考シタルモノナリ

公示送達ノ目的ハ成ル可ク本人ニ其旨ヲ知ラシメントスルモノナレハ其送達ス可キ書類ヲ裁判所ノ掲示板ニ貼附ス可シ判決及ヒ決定ニ在テハ其判決主文ノミヲ貼附ス可キモノトス裁判所ニ於テハ掲示板ニ示スノミヲ以テ足レリトセサルトキハ送達ス可キ書類ノ抄本ヲ一箇又ハ數箇ノ新聞紙ニ廣告ス可キヿヲ命スルヲ得ルナリ其新聞紙ニ掲載ス可キ抄本ニハ第一裁判所、第二當事者、第三訴訟物、第四送達ス可キ書類ノ要旨ヲ掲ケサル可ラス然シテ其費用ハ申立人ヨリ之ヲ徵收ス

ルモノトス是レ新聞紙等ニ廣告スル所以ノモノハ其申立人ノ利益ナルニ依テナリ

第百五十八條　公示送達ハ書類ノ貼附ヨリ十四日ヲ經過シタル日ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト見做ス然レトモ裁判所ハ公示送達ヲ命スルニ際シ此ヨリ長キ期間ヲ必要トスルトキハ相當ナル期間ヲ定ムルコトヲ得

同一ノ事件ニ付キ同一ノ原告若クハ被告ニ對シテ爲ス其後ノ公示送達ハ貼附ヲ以テ之ヲ爲シタルモノト看做ス

〔義解〕(一五二)本條第一項ハ公示送達ノ効力ノ發生ヲ定メタルモノナリ公示ヲ爲スト雖モ直チニ効力ヲ生スルモノニアラス即チ十四日ヲ經過シタルトキヲ以テ送達アリタルモノト見做シ此ノ時ヨリ權利拘束ノ効ヲ生スルナリ然レトモ十四日ノ期間ハ不變期限ニアラス或ハ其事情ニヨリテ伸縮ヲ爲サヽル可ラサルノ必要アル可シ例ヘハ本邦内ニ於ケル當事者ノ一方ノ住居知レサル場合ト外國ニ在ルノ推測充分ナルモ其現在地知レサル場合トハ其期間ヲ異ニセサル可ラサルナリ又判決書ヲ送達スル場合ト口頭辯論ノ呼出狀トハ其期間ヲ異ニセサル可ラサルナリ故ニ普通ハ十四日ヲ以テ期間ノ原則ト爲スト雖モ其事情ニ依リテハ十四日ノ期間ヲ伸長スルヿヲ得ルナリ然レトモ如何ナル場合ト雖モ十四日ノ期間ヲ減縮スルコトヲ許サス其故ハ之ヲ伸長スルノ所爲ハ訴訟人ノ利益ナレトモ之ヲ減縮スルヿハ訴訟人ノ利益ヲ害スルモノナレハナリ

第二項ハ第一項ノ變例ヲ定メタルモノニシテ公示ヲ爲スト共ニ送達

終リタルモノト見做サンニハ左ノ條件ヲ必要トス

第一　同一ノ事件ニ係ルヿ

第二　同一ノ原告若クハ被告ニ對スルヿ

第三　一タヒ公示送達ヲ爲スモ其効ナカリシヿ

此ノ三條件ヲ具備スルニ於テハ公示ト共ニ送達アリタルモノト見做スヿヲ得ルナリ其レ同一ノ事件ニシテ同一ノ人ニ對シ數回書類ノ送達ヲ爲スコトアル可シ假令數個ノ送達ヲ爲スト雖モ同一ノ事件ニ關スルトキハ十四日ノ期間ヲ必要トセス然レモ此ノ期間ヲ必要トセサルニハ一タヒ公示送達ヲ爲スモ其効ナカリシ場合ナラサル可ラス若シ然ラス一タヒ公示送達ヲ爲シタルニ本人之ヲ知リテ出頭シ爾後再ヒ所在知レサルトキハ矢張リ十四日ノ期限ヲ以テ公示送達ヲ爲サヽル可ラス去レハ本條第二項ニ由リテ公示ト共ニ送達アリタルモノト見做サンニハ最初公示送達ヲ爲スモ更ニ其効ナキ場合タルヿヲ要スルナリ

○公示送達ノ効果如何

第一　公示送達ニ依リ法律ノ期間ヲ經過スルトキハ權利拘束ノ効ヲ生ス

第二　公示送達ニ依リ權利拘束ト爲リタルトキハ時効ヲ中斷シ無利息ノ債權ニ利息ヲ生セシメ確定物ノ負債主ヲシテ遲滯ニ置カシムル等ノ効ヲ生ス

第三　公示送達ニ依リ欠席判決ヲ爲シ得ルノ効ヲ生ス

第三節　期日及ヒ期間

【義解】（一五三）期日トハ裁判所ニ於テ訴訟ニ關スル所爲ヲ行フカ爲メノ指時ヲ云ヒ期間トハ一定ノ行爲ヲ爲シ又或ハ準備スル爲メ與フ

ル所ノ時間ヲ云フ期日ニハ種々アリト雖モ其重モナルモノハ口頭辯論期日、證據調ノ期日、判決言渡ノ期日、强制執行ニ關スル競賣期日、競落期日及ヒ配當期日等ナリ又期間ヲ分テ二種トス曰ク法律上ノ期間、曰ク裁判官ノ指定期限是レナリ法律上ノ期間トハ法律ニ於テ確定ノ時間又ハ最多限若クハ最少限ヲ付シタル時間ノ豫定ヲ云ヒ裁判官ノ指定期間トハ其長短伸縮ハ裁判官ノ意見ニ任スルモノヲ云フ左ノ期間ヲ以テ法律上ノ期限ノ重モナルモノトス

第一　就審期限即チ書面(訴狀控訴狀上告狀)ノ送達ト口頭辯論ノ期日トハ少クモ二十日間ノ時間ヲ存スルカ如キ是レナリ(第百九十四條)

第二　答辯書差出期限　訴狀ノ送達アリタルヨリ十四日ノ期間ヲ與ヘテ答辯書ヲ差出サシムルカ如キ是レナリ(第百九十九條)

第三　不變期間　故障、控訴、上告、抗告、再審訴ノ期間、仲裁判斷取消ノ期間ノ如キハ不變期限ナルヲ以テ之ヲ伸縮スルコトヲ得サルナリ

裁判官ノ指定期限中ニ二種アリ曰ク裁判所ノ定ムル期限、曰ク裁判長ノ定ムル期間是レナリ裁判所ノ定ムル期限ハ左ノ如シ

第一　訴訟能力法律代理人ノ資格ニ欠缺アルトキ之ヲ補正スル爲メニ與フル期間(第四十五條)

第二　委任欠缺ヲ補正スル爲メニ與フル期間(第七十條)

第三　費用額確定ノ場合ニ於テ相手方ニ陳述ヲ爲サシムル爲メ與フル期間(第八十五條)

第四　外國提出ノ訴訟ニ於テ保證ヲ立ツル爲メニ與フル期間(第九十條)

第五　口頭辯論ヲ延期シタル場合ニ於テ必要ナル準備書面ヲ差出サシムル爲メニ與フル期限(第二百四條)

第六　外國ニ於テ送達ヲ爲ス可キトキ又ハ公ノ告示ヲ以テ之ヲ爲ス可キトキハ裁判所ハ欠席判決ヲ以テ定ムル故障期限(第二百五十五條)

第七　證據調ニ付キ不定時間ノ障碍アルキ申立ニ因リ定ムル期限(第二百七十五條)

第八　受命判事又ハ囑託判事カ證據調ノ期日ヲ定メタルキ當事者ニ通知スル期日(第二百八十條)

第九　相手方ノ所持スル證書ノ提出ヲ請求スル場合ニ於テ相手方カ官廳ナルキハ證書カ其官廳ノ保藏ニ係ラス又ハ所在ヲ開示スルヲ得サル旨ノ證明書ヲ長官ニ差出サシムル爲メニ定ムル期限(第三百四十條)

第十　私署證書ノ檢眞ヲ爲スカ爲ニ定ムル期限(第三百五十三條)

第十一　急迫ナル場合ニ於ケル執行裁判所ハ受訴裁判所ノ裁判ヲ提出セシムル爲メニ與フル期間(第五百四十七條第四項)

第十二　裁判所ハ競賣開始ノ決定ヲ爲シタルキハ租稅其他ノ公課ヲ主管スル官廳ニ通知シ其不動產ニ對スル債權ノ有無及ヒ限度ノ申立ヲ爲サシムル爲メニ定ムル期間(第六百五十四條)

第十三　本案ノ未タ繫屬セサルキハ假差押裁判所ハ債務者ノ申立ニ因リ口頭辯論ヲ經スシテ相當ニ定ムル期間內ニ訴ヲ起ス可キヿヲ債權者ニ命スル其期間(第七百四十六條)

第十四　急迫ナル場合ニ於テハ係爭物ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ハ假處分ノ當否ニ付テノ口頭辯論ノ爲メ本案ノ管轄裁判所ニ

相手方ヲ呼出ス可キ爲メニ定ムル期間第七百六十一條)

又裁判長ノ定ムル期間トハ左ノ如キモノヲ云フ

第一　訴狀ニシテ第一當事者及ヒ裁判所ノ表示第二提起シタル請求ノ一定ノ目的物及ヒ請求ノ一定ノ原因第三一定ノ申立ノ法式ニ適セサルトキハ裁判長ノ命令ヲ以テ其欠缺ヲ補正ス可キ爲メニ與フル期間(第百九十二條)

第二　裁判長ハ申立ニ因リ其命令ヲ以テ訴狀送達ノ期間ヲ相當ニ伸縮シ又切迫ナル危險ノ場合ニ限リテ二十四時迄ニ短縮スルヿヲ得ルナリ(第二百三條)

第百五十九條　期日ハ裁判長日及ヒ時ヲ以テ之ヲ定ム

第百六十條　期日ハ已ムヲ得サル場合ニ限リ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第百六十一條　期日ニ付テノ呼出ハ裁判長ノ命ニ從ヒ裁判所書記正本ノ送達ヲ以テ之ヲ爲ス但在廷シタル者ニ期日ヲ定メ出頭ヲ命シタルトキハ之ヲ送達スルコトヲ要セス

第百六十二條　期日ハ裁判所內ニ於テ之ヲ開ク但臨檢又ハ裁判所ニ出頭スルニ差支アル人ノ審問其他裁判所內ニ於テ爲スコトヲ得サル行爲ヲ要スルトキハ此限ニ在ラス

第百六十三條　期日ハ事件ノ呼出ヲ以テ始マル

原告若クハ被告カ期日ノ終ニ至ルマテ辯論ヲ爲ササルトキハ期日ヲ怠リタルモノト見做ス

〔義解〕《一五四》此五个條ハ期日ニ關スル規定ヲ爲シタルモノナリ裁判所ニ於テ期日ヲ定ムルトキニ當テハ只ニ其期日ヲ定ムルノミナラス其時ヲモ定メサル可ラス例ヘハ口頭辯論ノ期日又ハ判決言渡ノ期日抔ニ於テハ來ル何日何時ヲ以テ期日トスト云フカ如シ是レハ裁判長ノ義務ニ屬スルモノナルヲ以テ裁判長ハ此ノ指定ヲ拒ムヿヲ得サルナリ例ヘハ訴訟委任欠缺ノ場合ニ於テハ之ヲ補正シ得ルヲ以テ相當ノ猶豫期限ヲ與ヘテ之ヲ補正セシムルカ如キ是レ裁判長ノ義務ニ屬スルヲ以テ期日ノ指定ヲ爲サスシテ直チニ之ヲ却下スルコトヲ得サルナリ其他補正シ得ル場合ニ於テハ裁判長ハ期日ノ指定ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス然レトモ法律上ノ要件ヲ具備セサルノ故ヲ以テ書類ヲ却下スル場合ニ於テハ期日ヲ指定セス直チニ之ヲ却下スルコトヲ得ルナリ即チ左ノ如キ場合ナリトス

第一　訴狀カ第百九十條ノ要件ヲ具備セサル場合

第二　判然許ス可ラサルノ控訴又ハ判然法律上ノ方式ニ適セス若クハ其期間ノ經過後ニ提起シタル控訴ノ場合其他再審ノ訴故障ノ場合ニ於テモ然リトス

第三　訴訟上ノ救助ヲ受ケタルモノニアラスシテ相當ノ印紙ヲ貼用セサル場合

此等ノ場合ヲ除ク外ハ裁判長ノ職權ヲ以テ直チニ却下スルヿヲ得ス先ツ訴訟人ニ欠缺ヲ補正ス可キヤ否ヤヲ問ヒ補正セシト言ハヽ期日ヲ指定シテ補正セシムル可キモノトス

期日ハ日曜日及ヒ一般ノ祝祭日ニハ之ヲ定ムルヿヲ得サルモノナリ然レトモ若シ事件ノ性質ニシテ一日ヲ猶豫ス可ラサルモノナルトキハ例外トシテ日曜日又ハ一般ノ祝祭日ニモ指定スルヿヲ得ルナリ